

平成27年度

シラバス

6年次

歯科医学総合講義6



日本大学松戸歯学部

平成 27年度 歯科医学総合講義6

一般目標(General Instructional Objective) :

より良き歯科医師、歯学研究者となるために、基礎歯科医学および歯科臨床的諸問題に対応できる知識・態度を修得する。

歯科医学総合講義6の講義および試験実施要項

1. 講義:400教室
 2. 試験:400教室, 401教室
 3. 講義は平成 27 年度版歯科医師国家試験出題基準に順じて以下の8つのユニットに分割する。
ユニット1(総論): 歯科医学総論(総論 I ~XI), (必修): 必修の基本的事項1~17
ユニット2(各論): 歯科疾患の予防・管理(各論 I) 成長発育に関連した疾患・病態(各論 II),
歯・歯髄・歯周組織疾患(各論 III), 高齢者の歯科診療(各論 VI)
ユニット3(各論): 歯質・歯・顎顔面欠損による障害とその他の口腔・顎顔面の機能障害(各論 V),
高齢者の歯科診療(各論 VI)
ユニット4(各論): 顎・口腔領域の疾患(各論 IV), 高齢者の歯科診療(各論 VI)
ユニット5(臨床実地): 成長発育に関連した疾患・病態(各論 II)
歯・歯髄・歯周組織疾患(各論 III), 高齢者の歯科診療(各論 VI)
ユニット6(臨床実地): 歯質・歯・顎顔面欠損による障害とその他の口腔・顎顔面の機能障害(各論 V),
高齢者の歯科診療(各論 VI)
ユニット7(臨床実地): 顎・口腔領域の疾患(各論 IV), 高齢者の歯科診療(各論 VI)
ユニット8(必修): 必修の基本的事項1~17
 4. ユニット終了後に実施する平常試験について。
 - ・講義ユニット終了毎(ユニット1では3回)に計10回実施する。試験問題は新規問題または総合試験および歯科医師国家試験改編過去問題とする。授業の内容のみでないことに注意すること。なお、平常試験の追・再試験は行わない。
 - ・各ユニットの平常試験における出題数の内訳は試験日程、領域別出題数表を参照すること。
 5. 第1次卒業判定試験および第2次卒業判定試験の実施について
 - ・全ユニット終了後、歯科医師国家試験合格に必要な学力を適正に評価するために、第1次及び第2次に分けて卒業判定試験を実施する。問題は歯科医師国家試験に準じたオリジナル問題を中心とし、領域別出題割合は、歯科医師国家試験出題基準のブループリントに準ずる(巻末の平成 26 年度版歯科医師国家試験出題基準参照)。
 - ・試験日程や出題問題数は日程表で確認すること。
- 1) 定期試験(第1次卒業判定試験)の合格基準は、以下の通りである。
 - ・各領域の正答率が必修75%以上、領域 A、領域 B および領域 C がそれぞれ60%以上を各領域の合格基準とし、4領域のうち2領域以上が合格基準を満たす者。
 - 2) 第1次卒業判定試験を病気など正当な理由で欠席した者または合格基準に達しなかった者のうち正式な手続きの後、それぞれ追試験、再試験を行う。その合格基準は以下の通りである。
 - ・各領域の正答率が必修75%以上、領域 A、領域 B および領域 C がそれぞれ60%以上を各領域の合格基準とし、4領域のうち2領域以上が合格基準を満たす者。
 - 2) 定期試験(第2次卒業判定試験)の合格基準は、以下の通りである。
 - ・各領域の正答率が必修85%以上、領域 A、領域 B および領域 C がそれぞれ70%以上を各領域の合格基準とし、すべての領域が合格基準を満たす者。
 - 3) 定期試験(第2次卒業判定試験)を病気など正当な理由で欠席した者または合格基準に達しなかった者のうち正式な手続きの後、それぞれ追試験、再試験を行う。その合格基準は以下の通りである。
 - ・各領域の正答率が必修85%以上、領域 A、領域 B および領域 C がそれぞれ70%以上を各領域の合格基準とし、すべての領域が合格基準を満たす者。
 - ・再試験該当者については、定期試験および平常試験結果を合格判定に考慮することができる。

歯科医学総合講義6 オーガナイザー

ユニット	役 割	所 属 ・ 資 格	氏 名
統 括	チーフオーガナイザー	保存修復学・教授	平 山 聡 司
	サブチーフオーガナイザー	顎口腔機能治療学・准教授	小見山 道
ユニット1	チーフオーガナイザー	公衆予防歯科学・准教授	後藤田 宏也
	オーガナイザー	解剖学Ⅱ・教授	岡 田 裕 之
		生化学・分子生物学・教授	平 塚 浩 一
		口腔病理学・准教授	宇都宮 忠彦
		生理学・准教授	加 藤 治
		歯科生体材料学・准教授	谷 本 安 浩
		歯科総合診療学・准教授	多 田 充 裕
		口腔微生物学・専任講師	栗 原 紀 子
		口腔微生物学・専任講師	續 橋 治
		薬理学・専任講師	松 本 裕 子
		解剖学Ⅰ・専任講師	松 野 昌 展
		再生歯科治療学・専任講師	内 山 敏 一
		公衆予防歯科学・准教授	有 川 量 崇
		歯科麻酔学・助教	下 坂 典 立
ユニット2	チーフオーガナイザー	公衆予防歯科学・准教授	有 川 量 崇
	オーガナイザー	小児歯科学・助教	岡 本 京
		障害者歯科学・専任講師	梅 澤 幸 司
		保存修復学・専任講師	鈴 木 英 明
		歯科矯正学・専任講師	五 関 たけみ
		歯周治療学・助教	高 井 英 樹
ユニット3	チーフオーガナイザー	有床義歯補綴学・准教授	木 本 統
	オーガナイザー	顎口腔機能治療学・准教授	小見山 道
		有床義歯補綴学・准教授	飯 島 守 雄
		クランブリッジ補綴学・准教授	小 林 平
		クランブリッジ補綴学・講師(専任扱)	田 中 孝 明
		口腔インプラント学・准教授	村 上 洋
ユニット4	チーフオーガナイザー	歯科臨床検査医学・助教	淵 上 真 奈
	オーガナイザー	口腔外科学・助教	濱 野 美 緒
		放射線学・専任講師	小 椋 一 朗
		顎顔面外科学・助教	青 木 暁 宣
ユニット5	チーフオーガナイザー	歯科矯正学・専任講師	五 関 たけみ
	オーガナイザー	歯内療法学・助教	神 尾 直 人
		小児歯科学・助教	岡 本 京
		歯周治療学・助教	高 井 英 樹
		保存修復学・助手(専任扱)	岩 井 啓 寿
ユニット6	チーフオーガナイザー	有床義歯補綴学・准教授	飯 島 守 雄
	オーガナイザー	顎口腔機能治療学・准教授	小見山 道
		有床義歯補綴学・准教授	木 本 統
		口腔インプラント学・准教授	村 上 洋
		クランブリッジ補綴学・講師(専任扱)	田 中 孝 明
ユニット7	チーフオーガナイザー	口腔病理学・准教授	宇都宮 忠彦
	オーガナイザー	歯科麻酔学・専任講師	石 橋 肇
		放射線学・専任講師	小 椋 一 朗
		歯科臨床検査医学・助教	市 村 真 奈
		口腔外科学・助教	濱 野 美 緒
		顎顔面外科学・助教	青 木 暁 宣
		歯科麻酔学・助手(専任扱)	岡 部 靖 子
ユニット8	チーフオーガナイザー	解剖学Ⅰ・専任講師	松 野 昌 展

歯科医学総合講義6 試験日程、領域別出題数表

ユ ニ ッ ト	試験区分	試験日時	必修	一般	臨床
1. <領域 A:総論> ☆歯科医学総論 I～XI	平常試験 1－①	7/13(月) 9:30～11:15	34	68	
	平常試験 1－②	7/27(月) 9:30～11:20	58	50	
	平常試験 1－③	8/11(火) 9:30～11:40	79	50	
2. <領域 B:各論> ☆歯科疾患の予防・管理 ☆成長発育に関連した疾患・病態 ☆歯・歯髄・歯周組織疾患 ☆高齢者の歯科診療	平常試験2	9/1(火) 9:30～10:30	20	40	
3. <領域 C:各論> ☆歯質・歯・顎顔面欠損による障害とその 他の口腔・顎顔面の機能障害 ☆高齢者の歯科診療	平常試験3	9/11(金) 9:30～10:30	20	40	
4. <領域 C:各論> ☆顎・口腔領域の疾患 ☆高齢者の歯科診療	平常試験4	9/25(金) 9:30～11:05	31	62	
5. <領域 B:臨床実地> ☆歯科疾患の予防・管理 ☆成長発育に関連した疾患・病態 ☆歯・歯髄・歯周組織疾患 ☆高齢者の歯科診療	平常試験5	10/5(月) 9:30～11:00			36
6. <領域 C:臨床実地> ☆歯質・歯・顎顔面欠損による障害とその 他の口腔・顎顔面の機能障害 ☆高齢者の歯科診療	平常試験6	10/16(金) 9:30～11:30			48
7. <領域 C:臨床実地> ☆顎・口腔領域の疾患 ☆高齢者の歯科診療	平常試験7	10/26(月) 9:30～11:10			40
8. <必修> ☆歯科基礎医学の基本事項	平常試験8	11/2(月) 9:30～10:10	39		
定期試験・再試験	第1次卒業判定 試験Ⅰ	11/12(木) 9:30～12:00	40	108	
	第1次卒業判定 試験Ⅱ	11/12(木) 13:00～15:15			52
	第1次卒業判定追・ 再試験	11/19(木) 9:30～11:50	20	54	26
	第2次卒業判定 試験Ⅰ	12/14(月) 9:30～12:00	40	108	
	第2次卒業判定 試験Ⅱ	12/14(月) 13:00～15:15			52
	第2次卒業判定 試験Ⅲ	12/16(火) 9:30～12:00	40	107	
	第2次卒業判定 試験Ⅳ	12/16(火) 13:00～15:15			53
	第2次卒業判定追・ 再試験Ⅰ	1/6(火) 9:30～12:00	40	107	
	第2次卒業判定追・ 再試験Ⅱ	1/6(火) 13:00～15:15			53

平成27年度 6年次 歯科医学総合講義 6 日程表

月 日	曜	講義時間					備 考
		9:00～9:50	10:00～10:50	11:00～11:50	13:00～13:50	14:00～14:50	
7月1日	水	領域A 近藤信太郎	領域A 近藤信太郎	領域A 栗原紀子	領域A 齋藤 治	領域A 落合智子	
7月2日	木	領域A 岡田裕之	領域A 岡田裕之	領域A 岡田裕之	領域A 松野昌展	領域A 松野昌展	
7月3日	金	領域A 平塚浩一	領域A 平塚浩一	領域A 平塚浩一	領域A 平塚浩一		
7月4日	土	領域A 宇都宮忠彦	領域A 宇都宮忠彦	領域A 宇都宮忠彦			
7月5日	日						
7月6日	月	領域A 吉垣純子	領域A 吉垣純子	領域A 吉垣純子	領域A 吉垣純子		
7月7日	火	領域A 後藤田宏也	領域A 後藤田宏也	領域A 後藤田宏也	領域A 後藤田宏也		
7月8日	水	領域A 西山典宏	領域A 谷本安浩	領域A 谷本安浩	領域A 谷本安浩		
7月9日	木	領域A 松本裕子	領域A 松本裕子	領域A 松本裕子	領域A 三枝 慎	領域A 三枝 慎	
7月10日	金						
7月11日	土						
7月12日	日						
7月13日	月	平常試験1-① (9:30～11:15) 必修34問、総論68問 合計102問					解説講義 13:30～
7月14日	火	必修 福本雅彦	領域A 洲上真奈	必修 坂巻達夫	領域A 坂巻達夫		
7月15日	水	領域A 小椋一朗	領域A 小椋一朗	領域A 小椋一朗	領域A 小椋一朗	領域A 小椋一朗	
7月16日	木	必修 小椋一朗	必修 小椋一朗	領域A 石橋 肇	領域A 石橋 肇	領域A 下坂典立	
7月17日	金	領域A 下坂典立	領域A 石橋 肇 (岡部靖子)	領域A 石橋 肇 (岡部靖子)	必修 下坂典立	必修 下坂典立	
7月18日	土	必修 下坂典立	必修 下坂典立	必修 下坂典立			
7月19日	日						
7月20日	月						
7月21日	火	必修 濱野美緒	必修 濱野美緒	領域A 伊藤 耕	領域A 伊藤 耕		
7月22日	水	領域A 福井謙二	領域A 福井謙二	領域A 福井謙二	領域A 有川量崇	領域A 有川量崇	
7月23日	木	領域A(高齢者) 川良美佐雄	領域A(高齢者) 川良美佐雄	領域A(高齢者) 梅澤幸司	領域A(高齢者) 有川量崇	領域A 有川量崇	
7月24日	金						
7月25日	土						
7月26日	日						
7月27日	月	平常試験1-② (9:30～11:20) 必修58問、総論50問 合計108問					解説講義 13:00～
7月28日	火	必修 神谷直孝	領域A 野本たか子	必修 多田充裕	領域A 多田充裕	必修 梅澤幸司	
7月29日	水	領域A 鈴木英明	領域A 鈴木英明	領域A 榎本 豊	領域A 清水武彦	領域A 清水武彦	
7月30日	木	領域A 五開たけみ	必修 五開たけみ	必修 清水邦彦	必修 清水邦彦		
7月31日	金	必修 小方頼昌	必修 小方頼昌	領域A 高井英樹	領域A 高井英樹		
8月1日	土						
8月2日	日						
8月3日	月	必修 松島 潔	必修 松島 潔	領域A 松島 潔	領域A 松島 潔	領域A 和田守康	
8月4日	火	必修 小見山 道	必修 小見山 道	領域A 小見山 道	領域A 小見山 道	領域A 小見山 道	
8月5日	水	必修 飯島守雄	必修 飯島守雄	領域A 木本統(矢崎貴啓)	領域A 中田浩史	領域A 村上 洋	
8月6日	木	領域A 飯島守雄(神谷和伸)	必修 木本 統	必修 木本 統	領域A 大久保昌和	領域A 飯田 崇	
8月7日	金	必修 田中孝明	必修 會田雅啓	領域A 大村祐史	領域A 若見昌信	領域A 小林 平	
8月8日	土						
8月9日	日						
8月10日	月						
8月11日	火	平常試験1-③ (9:30～11:40) 必修79問、総論50問 合計129問					解説講義 13:30～
8月12日	水						病院一斉休診
8月13日	木						病院一斉休診

月 日	曜	講義時間				備 考
		9:00～9:50	10:00～10:50	11:00～11:50	13:00～13:50	14:00～14:50
8月14日	金					
8月15日	土					病院一斉休診
8月16日	日					
8月17日	月					
8月18日	火					
8月19日	水					
8月20日	木					研修医選考日
8月21日	金					
8月22日	土					
8月23日	日					
8月24日	月	領域B(各論) 清水武彦	領域B(各論) 清水武彦	領域B(各論) 岡本 京	領域B(各論) 岡本 京	
8月25日	火	領域B(各論) 山口 大	領域B(各論) 斎藤勝彦	領域B(各論) 五関たけみ	領域B(各論) 梅澤幸司	
8月26日	水	領域B(各論) 高井英樹	領域B(各論) 高井英樹	領域B(各論) 高井英樹	領域B(臨実) 有川量崇 (田口千恵子)	領域B(臨実) 有川量崇 (田口千恵子)
8月27日	木	領域B(各論) 松島 潔	領域B(各論) 岡部 達	領域B(各論) 神尾 直人		
8月28日	金	領域B(各論) 鈴木英明	領域B(各論) 平山聡司	領域B(各論) 平山聡司		
8月29日	土					
8月30日	日					
8月31日	月					
9月1日	火		平常試験2 (9:30～10:30)	必修20問、各論40問 合計60問	解説講義 12:30～	
9月2日	水	領域C(各論) 大久保昌和	領域C(各論) 大久保昌和	領域C(各論) 飯島守雄(神谷和伸)	領域C(各論) 飯島守雄(神谷和伸)	
9月3日	木	領域C(各論) 大村祐史	領域C(各論) 大村祐史	領域C(各論) 若見昌信	領域C(各論) 若見昌信	
9月4日	金	領域C(各論) 木本 統(矢崎貴啓)	領域C(各論) 木本 統(矢崎貴啓)	領域C(各論) 小林 平	領域C(各論) 小林 平	
9月5日	土	領域C(各論) 中田浩史	領域C(各論) 中田浩史			
9月6日	日					
9月7日	月	領域C(各論) 玉木大之	領域C(各論) 北川剛至	領域C(各論) 野本たかこ		
9月8日	火	領域C(各論) 小見山 道	領域C(各論) 小見山 道	領域C(各論) 小見山 道		
9月9日	水					
9月10日	木					
9月11日	金		平常試験3 (9:30～10:30)	必修20問、各論40問 合計60問	解説講義 12:30～	
9月12日	土	領域C(各論) 福本雅彦	領域C(各論) 福本雅彦	領域C(各論) 福本雅彦		
9月13日	日					
9月14日	月	領域C(各論) 洲上真奈	領域C(各論) 洲上真奈	領域C(各論) 深津 晶	領域C(各論) 内田貴之	領域C(各論) 内田貴之
9月15日	火	領域C(各論) 山口秀紀	領域C(各論) 鈴木正敏	領域C(各論) 鈴木正敏	領域C(各論) 卯田昭夫	領域C(各論) 卯田昭夫
9月16日	水	領域C(各論) 小椋一朗	領域C(各論) 小椋一朗	領域C(各論) 大塚浩隆	領域C(各論) 大塚浩隆	領域C(各論) 牧山康秀
9月17日	木	領域C(各論) 伊藤 耕	領域C(各論) 伊藤 耕	領域C(各論) 伊藤 耕	領域C(各論) 伊藤 耕	領域C(各論) 濱野美緒
9月18日	金	領域C(各論) 近藤壽郎	領域C(各論) 近藤壽郎	領域C(各論) 近藤壽郎	領域C(各論) 濱野美緒	領域C(各論) 濱野美緒
9月19日	土	領域C(各論) 小宮正道	領域C(各論) 小宮正道	領域C(各論) 小宮正道		
9月20日	日					
9月21日	月					
9月22日	火					国民の休日
9月23日	水					秋分の日
9月24日	木					
9月25日	金		平常試験4 (9:30～11:05)	必修31問、各論62問 合計93問	解説講義 13:00～	
9月26日	土	領域B(臨実) 松島 潔	領域B(臨実) 岡部 達	領域B(臨実) 神尾直人		
9月27日	日					

月 日	曜	講義時間					備 考
		9:00~9:50	10:00~10:50	11:00~11:50	13:00~13:50	14:00~14:50	
9月28日	月	領域B(臨実) 清水邦彦	領域B(臨実) 清水邦彦	領域B(臨実) 岡本 京	領域B(臨実) 岡本 京	領域B(臨実) 有川量崇(田口千恵子)	
9月29日	火	領域B(臨実) 五関たけみ	領域B(臨実) 五関たけみ	領域B(臨実) 五関たけみ	領域B(臨実) 榎本 豊		
9月30日	水	領域B(臨実) 中山洋平	領域B(臨実) 中山洋平	領域B(臨実) 中山洋平			
10月1日	木	領域B(臨実) 平山聡司	領域B(臨実) 平山聡司	領域B(臨実) 平山聡司			
10月2日	金						
10月3日	土						振替休日
10月4日	日						日本創立記念日
10月5日	月		平常試験5 (9:30~11:00)	B領域臨実36問	解説講義 13:00~		
10月6日	火	領域C(臨実) 飯島守雄(石井智浩)	領域C(臨実) 飯島守雄(石井智浩)	領域C(臨実) 飯島守雄(石井智浩)	領域C(臨実) 小林 平 (後藤治彦)	領域C(臨実) 小林 平 (後藤治彦)	
10月7日	水	領域C(臨実) 中田浩史・伊藤誠康	領域C(臨実) 伊藤誠康・田中孝明	領域C(臨実) 飯島守雄	領域C(臨実) 飯島守雄		
10月8日	木	領域C(臨実) 木本 統	領域C(臨実) 木本 統	領域C(臨実) 木本 統	領域C(臨実) 木本 統		
10月9日	金	領域C(臨実) 木本 統(矢崎貴啓)	領域C(臨実) 木本 統(矢崎貴啓)・宇都宮忠彦	領域C(臨実) 木本 統	領域C(臨実) 木本 統	領域C(臨実) 木本 統	
10月10日	土	領域C(臨実) 中田浩史・田中孝明・谷本安浩	領域C(臨実) 飯田 崇	領域C(臨実) 田中孝明			
10月11日	日						
10月12日	月						体育の日
10月13日	火	領域C(臨実) 村上 洋	領域C(臨実) 玉木大之	領域C(臨実) 北川剛至			
10月14日	水						
10月15日	木						
10月16日	金		平常試験6 (9:30~11:30)	C領域臨実48問	解説講義 13:30~		
10月17日	土	領域C(臨実) 濱野美緒・宇都宮忠彦	領域C(臨実) 濱野美緒・宇都宮忠彦				
10月18日	日						
10月19日	月	領域C(臨実) 青木暁宣・宇都宮忠彦	領域C(臨実) 青木暁宣・宇都宮忠彦	領域C(臨実) 青木暁宣・宇都宮忠彦			
10月20日	火	領域C(臨実) 濱野美緒・久山佳代	領域C(臨実) 池谷美和・久山佳代	領域C(臨実) 池谷美和・宇都宮忠彦	領域C(臨実) 石橋 賢 (岡部靖子)	領域C(臨実) 内田貴之	
10月21日	水	領域C(臨実) 伊藤 耕	領域C(臨実) 伊藤 耕	領域C(臨実) 高橋康輔・宇都宮忠彦	領域C(臨実) 高橋康輔・久山佳代	領域C(臨実) 小宮正道・久山佳代	
10月22日	木	領域C(臨実) 金田 隆	領域C(臨実) 金田 隆	領域C(臨実) 小椋一朗	領域C(臨実) 宇都宮忠彦	領域C(臨実) 宇都宮忠彦	
10月23日	金						
10月24日	土						
10月25日	日						
10月26日	月		平常試験7 (9:30~11:10)	C領域臨実40問	解説講義 13:30~		
10月27日	火	必修 近藤信太郎	必修 葉原紀子	必修 岡田裕之	必修 加藤 治	必修 平塚浩一	
10月28日	水	必修 松野昌展	必修 落合智子	必修 山根潤一	必修 有川量崇	必修 後藤田宏也	
10月29日	木	必修 谷本安浩	必修 宇都宮忠彦	必修 宇都宮忠彦			
10月30日	金						
10月31日	土						
11月1日	日						
11月2日	月		平常試験8 (9:30~10:10)	必修39問	解説講義 12:30~		
11月3日	火						
11月4日	水						
11月5日	木						
11月6日	金						
11月7日	土						
11月8日	日						
11月9日	月						
11月10日	火						

月 日	曜	講義時間				備 考
		9:00～9:50	10:00～10:50	11:00～11:50	13:00～13:50	14:00～14:50
11月11日	水					
11月12日	木		定期試験(第1次卒業判定試験 200問)		9:30～12:00、13:00～15:15	
11月13日	金		解説講義(9:30～)			
11月14日	土					
11月15日	日					
11月16日	月					
11月17日	火					
11月18日	水					
11月19日	木		第1次卒業判定 追・再試験 (100問)		9:30～11:50	
11月20日	金					
11月21日	土					
11月22日	日					
11月23日	月					勤務感謝の日
11月24日	火					
11月25日	水					
11月26日	木					
11月27日	金					
11月28日	土					
11月29日	日					
11月30日	月					
12月1日	火					
12月2日	水					
12月3日	木					
12月4日	金					
12月5日	土					
12月6日	日					
12月7日	月					
12月8日	火					
12月9日	水					
12月10日	木					
12月11日	金					
12月12日	土					
12月13日	日					
12月14日	月		定期試験(第2次卒業判定試験) 1日目 (200問)		9:30～12:00、13:00～15:15	
12月15日	火		定期試験(第2次卒業判定試験) 2日目 (200問)		9:30～12:00、13:00～15:15	
12月16日	水		解説講義1 (9:30～)			
12月17日	木		解説講義2 (9:30～)			
12月18日	金					
12月19日	土					
12月20日	日					
12月21日	月					再試験該当者発表(予定)
12月22日	火					
12月23日	水					天皇誕生日
12月24日	木					
12月25日	金					

月 日 曜	講義時間				備 考
	9:00～9:50	10:00～10:50	11:00～11:50	13:00～13:50	14:00～14:50
12月26日 土					
12月27日 日					
12月28日 月					
12月29日 火					
12月30日 水					
12月31日 木					
1月1日 金					
1月2日 土					
1月3日 日					
1月4日 月					
1月5日 火					
1月6日 水		第2次判定試験 追・再試験 (200問)		9:30～12:00、13:00～15:15	病院診療開始
1月7日 木		解説講義 (9:30～)			
1月8日 金					仕事始め
1月9日 土					
1月10日 日					
1月11日 月					
1月12日 火					
1月13日 水					
1月14日 木					
1月15日 金					
1月16日 土					
1月17日 日					卒業有資格者発表(予定)
1月18日 月					
1月19日 火					
1月20日 水					
1月21日 木					
1月22日 金					
1月23日 土					
1月24日 日					
1月25日 月					
1月26日 火					
1月27日 水					
1月28日 木					
1月29日 金					
1月30日 土		(第109回歯科医師国家試験 1日目 予定)			
1月31日 日		(第109回歯科医師国家試験 2日目 予定)			

講義日	時限	国試出題基準
07月01日	1時限	総論-Ⅲ-2-ア 総論-Ⅳ-1-ア 総論-Ⅳ-1-イ 総論-Ⅳ-2-サ

担当者 近藤 信太郎

テーマ： 頭蓋骨と頭頸部の筋

授業の一般目標： 頭蓋骨の構造と頭頸部の筋を説明できる。

到達目標 S B O s：

- 1) 頭蓋骨の構造を説明できる。
- 2) 咀嚼筋の走向と働きを説明できる。
- 3) 舌骨上筋と舌骨下筋の走向と働きを説明できる。

=====

講義日	時限	国試出題基準
07月01日	2時限	総論-Ⅳ-1-エ 総論-Ⅲ-2-キ 総論-Ⅳ-3-ソ

担当者 近藤 信太郎

テーマ： 頭頸部の末梢神経

授業の一般目標： 頭頸部の末梢神経が説明できる。

到達目標 S B O s：

- 1) 脳神経の分布を説明できる。
- 2) 頭頸部の自律神経の分布が説明できる。
- 3) 三叉神経に付属する神経節が説明できる。

講義日	時限	国試出題基準
07月01日	3時限	総論-VI-6-イ

担当者 桑原 紀子

テーマ： 口腔および全身に関連するウイルス感染症

授業の一般目標： ウイルス感染症について理解するために、感染症の種類と起因するウイルスについて学習する。

到達目標 S B O s :

- 1) ウイルスの基本構造と増殖様式を説明できる。
- 2) ウイルス感染症を説明できる。

=====

講義日	時限	国試出題基準
07月01日	4時限	総論-VI-6-イ 総論-VI-6-エ

担当者 續橋 治

テーマ： 齲蝕と歯周病に関連する口腔微生物

授業の一般目標： 齲蝕、歯周病について理解するため、関連する口腔微生物と病原因子について学習する。

到達目標 S B O s :

- 1) 齲蝕に関連する微生物、病原因子および齲蝕発生機序を説明できる。
- 2) 歯周病に関連する微生物、病原因子を説明できる。

講義日	時限	国試出題基準
07月01日	5時限	総論-Ⅲ-3-イ

担当者 落合 智子

テーマ： 口腔の感染防御

授業の一般目標： 口腔の感染防御を理解するために、口腔領域の免疫機構について学習する。

到達目標SBOs：

- 1) 唾液による防御機構を説明できる。
- 2) 歯肉溝滲出液による感染防御を説明できる。
- 3) 口腔内の感染防御機構（自然免疫、獲得免疫、粘膜免疫）を説明できる。
- 4) 口腔のアレルギー疾患・自己免疫疾患を説明できる。

=====

講義日	時限	国試出題基準
07月02日	1時限	必修-6-ウ-c

担当者 岡田 裕之

テーマ： 歯の構造

授業の一般目標： 歯の構造を理解する。

到達目標SBOs：

- 1) エナメル質の構造を説明できる。
- 2) 象牙質・歯髄複合体の構造を説明できる。
- 3) セメント質の構造を説明できる。

講義日	時限	国試出題基準
07月02日	2時限	必修-6-ウ-d

担当者 岡田 裕之

テーマ： 歯周組織の構造

授業の一般目標： 歯周組織の構造を理解する。

到達目標 S B O s：

- 1) 歯根膜の構造を説明できる。
- 2) 歯槽骨の構造を説明できる。
- 3) 歯肉の構造を説明できる。

=====

講義日	時限	国試出題基準
07月02日	3時限	必修-7-イ-a

担当者 岡田 裕之

テーマ： 歯の発生

授業の一般目標： 歯の発生を理解する。

到達目標 S B O s：

- 1) 歯の発生を説明できる。
- 2) 歯胚の構造を説明できる。

講義日	時限	国試出題基準
07月02日	4時限	総論-IV-1-オ

担当者 松野 昌展

テーマ： 頭頸部の内蔵1

授業の一般目標： 口腔の機能を理解するために口腔と周囲領域の構造の知識を習得する。

到達目標SBOs：

- 1) 口腔粘膜上の構造を説明できる。
- 2) 口蓋の構造を説明できる。
- 3) 舌の構造を説明できる。
- 4) 唾液腺の構造を説明できる。
- 5) 鼻腔と副鼻腔の関係を説明できる。
- 6) 咽頭の構造を説明できる。
- 7) 喉頭の構造を説明できる。

=====

講義日	時限	国試出題基準
07月02日	5時限	総論-IV-1-オ

担当者 松野 昌展

テーマ： 頭頸部の内蔵2

授業の一般目標： 口腔の機能を理解するために歯の構造の知識を習得する。
血液・組織液の流れを理解するために頭頸部の循環器系の分布の知識を習得する。

到達目標SBOs：

- 1) 歯の正常構造を説明できる。
- 2) 歯の変異形態を説明できる。
- 3) 頭頸部の動脈の分布を説明できる。
- 4) 頭頸部の静脈の分布を説明できる。
- 5) 頭頸部のリンパの分布を説明できる。

講義日	時限	国試出題基準
07月03日	1時限	総論-Ⅲ-1-カ

担当者 平塚 浩一

テーマ： 骨代謝

授業の一般目標： 骨リモデリング機構を理解するためにカルシウム調節機構と骨芽細胞、破骨細胞の働きを学習する。

到達目標 S B O s :

- 1) カルシウム代謝に関連するホルモンとその働きを説明できる。
- 2) 骨芽細胞と破骨細胞の特徴を説明できる。
- 3) 骨吸収因子と骨形成因子を列挙できる。
- 4) 骨リモデリングに関与する骨芽細胞と破骨細胞の動きを説明できる。
- 5) 大理石病や閉経後骨粗鬆症の原因を説明できる。

=====

講義日	時限	国試出題基準
07月03日	2時限	総論-VI-11-イ

担当者 平塚 浩一

テーマ： う蝕発生機序

授業の一般目標： う蝕の発生機序を理解するために細菌による硬組織脱灰過程を学習する。

到達目標 S B O s :

- 1) ステファン曲線を説明できる。
- 2) Streptococciにおける糖代謝を説明できる。
- 3) 菌体外多糖の種類と形成機序を説明できる。
- 4) 代用甘味料の種類と意義を説明できる。

講義日	時限	国試出題基準
07月03日	3時限	総論-Ⅲ-1-ウ

担当者 平塚 浩一

テーマ： 情報伝達と細胞周期

授業の一般目標： 発がん機構を理解するために、細胞間の情報伝達機構や細胞周期を学習する。

到達目標SBOs：

- 1) 情報伝達物質の種類とその受容体を説明できる。
- 2) 情報伝達の機序を説明できる。
- 3) 細胞周期の名称と働きを説明できる。
- 4) がん原遺伝子とがん抑制遺伝子の概念と種類を説明できる。

=====

講義日	時限	国試出題基準
07月03日	4時限	総論-Ⅲ-1-エ 必修-17-イ

担当者 平塚 浩一

テーマ： 遺伝子工学と細胞工学

授業の一般目標： iPS細胞を用いた再生医療を理解するために基本的な遺伝子工学と細胞工学を学習する。

到達目標SBOs：

- 1) 遺伝子組換えの方法が説明できる。
- 2) ゲノムの基本的な情報や個人差を特定する方法を説明できる。
- 3) 遺伝子増幅法（PCR法）が説明できる。
- 4) 再生医療が説明できる。
- 5) ES, EG, iPS細胞の違いが説明できる。
- 6) クローン動物の作成法が説明できる。

講義日	時限	国試出題基準
07月04日	1時限	総論-VI- 1 1-キ

担当者 宇都宮 忠彦

テーマ： 歯・口腔・顎・顔面・頭蓋疾患の病因と病態（1）

授業の一般目標： 歯・口腔・顎・顔面・頭蓋疾患の病因と病態を理解するために、唾液腺腫瘍の病理組織学的特徴について学修する。

到達目標 S B O s :

- 1) 唾液腺腫瘍の分類について解説できる。
- 2) 唾液腺腫瘍の病理組織学的特徴について説明できる。

=====

講義日	時限	国試出題基準
07月04日	2時限	総論-VI- 1 1-キ

担当者 宇都宮 忠彦

テーマ： 歯・口腔・顎・顔面・頭蓋疾患の病因・病態（2）

授業の一般目標： 歯・口腔・顎・顔面・頭蓋疾患の病因と病態を理解するために、歯源性腫瘍の病理学的特徴について学修する。

到達目標 S B O s :

- 1) 歯源性腫瘍の分類について解説できる。
- 2) 歯源性腫瘍の病理組織学的特徴について解説できる。

講義日	時限	国試出題基準
07月04日	3時限	総論-VI-1 1-コ 総論-VI-2-ア 総論-VI-3-オ 総論-VI-3-カ

担当者 宇都宮 忠彦

テーマ： 歯・口腔・顎・顔面・頭蓋疾患の病因と病態（3）

授業の一般目標： 歯・口腔・顎・顔面・頭蓋疾患の病因と病態を理解するために、変性産物の処理や異物処理に関する病理学的知識及び航空疾患の治療に伴う変化について学修する。

到達目標 S B O s :

- 1) 変性産物の病理組織学的特徴について説明できる。
- 2) 異物の処理に関する病理組織学的特徴について説明できる。
- 3) 歯・口腔・顎・顔面・頭蓋疾患の治療に伴う変化について病理学的に説明できる。

=====

講義日	時限	国試出題基準
07月06日	1時限	総論-III-2-ク 総論-IV-3-セ

担当者 吉垣 純子

テーマ： 感覚器

授業の一般目標： 摂食機能を理解するために、一般感覚と口腔感覚の成立機構を学ぶ。

到達目標 S B O s :

- 1) 感覚の種類を列挙できる。
- 2) 神経線維の分類を説明できる。
- 3) 口腔に存在する感覚器の種類を列挙できる。
- 4) 口腔感覚の伝導路を説明できる。
- 5) 味覚の成立機構を説明できる。

講義日	時限	国試出題基準
07月06日	2時限	総論-IV-3-サ

担当者 吉垣 純子

テーマ： 顎反射

授業の一般目標： 摂食機能を理解するために、顎反射の成立機構と意義を学ぶ。

到達目標 S B O s：

- 1) 伸張反射を説明できる。
- 2) 顎反射の種類を説明できる。
- 3) 顎反射の反射弓を説明できる。
- 4) 顎反射の咀嚼における意義を説明できる。

=====

講義日	時限	国試出題基準
07月06日	3時限	総論-IV-3-ソ

担当者 吉垣 純子

テーマ： 唾液と唾液腺

授業の一般目標： 摂食機能を理解するために、唾液生分と唾液分泌機構を学ぶ。

到達目標 S B O s：

- 1) 唾液腺の種類を列挙できる。
- 2) 唾液成分と役割を列挙できる。
- 3) 唾液分泌の調節機構を説明できる。
- 4) 唾液の組成変化を説明できる。

講義日	時限	国試出題基準
07月06日	4時限	総論-Ⅲ-2-イ

担当者 吉垣 純子

テーマ： 消化器

授業の一般目標： 摂食機能を理解するために、消化器の構造と調節機構を学ぶ。

到達目標 S B O s：

- 1) 消化器の構造と役割を説明できる。
- 2) 消化液と消化酵素を列挙できる。
- 3) 消化管における神経調節を説明できる。

=====

講義日	時限	国試出題基準
07月07日	1時限	総論-Ⅱ-2-ア 必修-3-ア-a

担当者 後藤田 宏也

テーマ： 健康管理・増進と予防(必修を含む)①

授業の一般目標： 適切な健康管理を行うために、健康の保持・増進およびライフステージ別の保健・歯科保健について理解する。

到達目標 S B O s：

- 1) 健康の保持・増進と予防について説明できる。
- 2) 母子保健と母子歯科保健について説明できる。
- 3) 学校保健と学校歯科保健について説明できる。
- 4) フッ化物の応用について説明できる。
- 5) 保健指導について説明できる。

講義日	時限	国試出題基準
07月07日	2時限	総論-Ⅱ-4-ア 必修-3-ケ-a

担当者 後藤田 宏也

テーマ： 健康管理・増進と予防(必修を含む)②

授業の一般目標： 適切な健康管理を行うために、健康の保持・増進およびライフステージ別の保健・歯科保健について理解する。

到達目標 S B O s：

- 1) 産業保健と産業歯科保健について説明できる。
- 2) 高齢者保健と高齢者歯科保健について説明できる。
- 3) 精神保健福祉について説明できる。
- 4) 障害者保健福祉について説明できる。
- 5) 口腔清掃について説明できる。
- 6) 口腔のケアについて説明できる。

=====

講義日	時限	国試出題基準
07月07日	3時限	総論-Ⅱ-9-イ 必修-5-ア-a

担当者 後藤田 宏也

テーマ： 健康管理・増進と予防(必修を含む)③

授業の一般目標： 適切な健康管理を行うために、公衆衛生、保健統計および疫学について理解する。

到達目標 S B O s：

- 1) 人口統計と保健統計について説明できる。
- 2) 疫学とその応用について説明できる。

講義日	時限	国試出題基準
07月07日	4時限	総論-II-1 3-ア 必修-4-ウ-a 必修-4-ウ-c

担当者 後藤田 宏也

テーマ： 健康管理・増進と予防(必修を含む)④

授業の一般目標： 適切な健康管理を行うために、公衆衛生、保健統計および疫学について理解する。

到達目標SBOs：

- 1) 感染症対策について説明できる。
- 2) 環境保健について説明できる。

=====

講義日	時限	国試出題基準
07月08日	1時限	総論-XI-1 4-ア 総論-XI-7-オ 総論-XI-7-ケ

担当者 西山 典宏

テーマ： 歯科理工学（総論）

授業の一般目標： 接着、予防填塞材料、歯内療法用材料について理解するために、接着材、予防填塞材料、歯内療法用材料の種類、組成および性質について学習する。

到達目標SBOs：

- 1) 接着の概念、接着材の種類、接着機構について説明できる。
- 2) 予防填塞材料の種類、組成について説明できる。
- 3) 歯内療法用材料の種類、組成について説明できる。

講義日	時限	国試出題基準
07月08日	2時限	総論-XI-1-ウ 総論-XI-12-ケ 総論-XI-12-ク 総論-XI-8-キ 総論-XI-9-シ

担当者 谷本 安浩

テーマ： 歯科理工学（総論）

授業の一般目標： 歯科用金属材料を適切に使用するために、それらの性質と取り扱いについて理解する。

到達目標 S B O s :

- 1) 歯科用金属材料の種類、組成および性質について説明できる。
- 2) 金属の成形加工、軟化熱処理および硬化熱処理について説明できる。
- 3) 歯科用磁性合金の種類、組成および性質について説明できる。

=====

講義日	時限	国試出題基準
07月08日	3時限	総論-XI-16-ア 総論-XI-16-イ 総論-XI-16-エ

担当者 谷本 安浩

テーマ： 歯科理工学（総論）

授業の一般目標： 人工歯根材料、骨補填材および組織再生用膜材料を適切に使用するために、それらの基本的な性質について理解する。

到達目標 S B O s :

- 1) 歯科インプラント用材料の種類、組成および性質について説明できる。
- 2) 骨補填材料の種類、組成および性質について説明できる。
- 3) 組織再生用膜材料の種類、組成および性質について説明できる。

講義日	時限	国試出題基準
07月08日	4時限	総論-XI-1-イ 総論-XI-8-オ 総論-XI-11-イ 総論-XI-11-エ 総論-XI-15-ア 総論-XI-15-イ 総論-XI-15-ウ

担当者 谷本 安浩

テーマ： 歯科理工学（総論）

授業の一般目標： 歯科用セラミック材料および矯正材料を適切に使用するために、それらの性質と取り扱いについて理解する。

到達目標SBOs：

- 1) 歯科用セラミック材料の種類、組成および性質について説明できる。
- 2) 歯科用CAD/CAMの特徴について説明できる。
- 3) 矯正材料の種類、組成および性質について説明できる。
- 4) 矯正用アタッチメントの接着材の種類および性質について説明できる。

=====

講義日	時限	国試出題基準
07月09日	1時限	総論-X-9-ア

担当者 松本 裕子

テーマ： 薬物療法（総論）

授業の一般目標： 薬物療法を理解するために、薬理作用の種類、薬物の併用に関する知識を修得する。

到達目標SBOs：

- 1) 薬理作用の種類と特徴を説明できる。
- 2) 協力作用と拮抗作用を説明できる。

講義日	時限	国試出題基準
07月09日	2時限	総論-X-9-ケ

担当者 松本 裕子

テーマ： 薬物療法（総論）

授業の一般目標： 薬物療法を理解するために、薬物の相互作用に関する知識を修得する。

到達目標 S B O s：

- 1) 薬力学的相互作用を説明できる。
- 2) 薬物動態学的相互作用を説明できる。

=====

講義日	時限	国試出題基準
07月09日	3時限	総論-X-9-コ

担当者 松本 裕子

テーマ： 薬物療法（総論）

授業の一般目標： 薬物療法を理解するために、薬物投与上の注意に関する知識を修得する。

到達目標 S B O s：

- 1) 禁忌，小児・妊婦・高齢者の適用上の注意を列挙し，説明できる。
- 2) 全身疾患を有する患者の適用上の注意を列挙し，説明できる。

講義日	時限	国試出題基準
07月09日	4時限	総論-X-9-ア 総論-X-9-ア 総論-X-9-エ 総論-X-9-オ 総論-X-9-カ

担当者 三枝 禎

テーマ： 薬理学

授業の一般目標： 歯科医師として知っておくべき薬物療法の基礎を修得する。

到達目標 S B O s：

- 1) 薬物療法の種類とその特徴について説明できる。
- 2) 薬効に影響を及ぼす因子を列举できる。
- 3) 薬物の作用部位・作用機序について説明できる。
- 4) 薬物の用量と生体反応について説明できる。

=====

講義日	時限	国試出題基準
07月09日	5時限	総論-X-9-ア 総論-X-9-キ 総論-X-9-ク 総論-X-9-ケ 総論-X-9-サ 総論-X-9-シ 総論-X-9-ツ

担当者 三枝 禎

テーマ： 薬理学

授業の一般目標： 歯科医師として知っておくべき薬物療法の基礎を修得する。

到達目標 S B O s：

- 1) 薬物の連用が起こす生体現象とその発現機構を説明できる。
- 2) 代表的な薬物の副作用・有害作用，薬物相互作用を挙げられる。
- 3) 代表的な鎮痛薬を挙げ，その作用機序を説明できる。
- 4) 代表的な抗炎症薬を挙げ，その作用機序を説明できる。
- 5) 薬物の保管・管理の留意点を説明できる。

講義日	時限	国試出題基準
07月14日	1時限	必修-1 1-ウ-b 必修-1 1-ウ-c 必修-1 1-ウ-d

担当者 福本 雅彦

テーマ： 基準値と検査項目

授業の一般目標： 疾患と臨床検査データの関連を理解できるようになるために、一般的に臨床検査に用いられる検査項目の意義と基準値を学習する。

到達目標 S B O s :

- 1) 歯科医師国家試験の出題時に基準値の記載がされない項目の基準値を正確に述べることができる。
- 2) 臨床検査項目の中で問題文および選択肢に挙げられた検査項目の意義を述べることができる。
- 3) 歯科医師国家試験の必修過去問題から鑑みた必要事項を述べることができる。

=====

講義日	時限	国試出題基準
07月14日	2時限	総論-IX-3-イ 総論-VI-1 1-ケ

担当者 淵上 真奈

テーマ： 糖尿病

授業の一般目標： 有病者の歯科治療を安全に行うために、糖尿病の診断に必要な検査項目、疾患の原因および症状について理解する。

到達目標 S B O s :

- 1) 糖尿病の定義を述べることができる。
- 2) 糖尿病を調べるための検査項目を述べることができる。
- 3) 糖尿病の臨床症状を述べることができる。
- 4) 糖尿病の合併症を述べることができる。
- 5) 糖尿病に罹患している患者への歯科治療を行う際の注意点を述べることができる。

講義日	時限	国試出題基準
07月14日	3時限	必修-3-ク-d

担当者 坂巻 達夫

テーマ： 生活習慣病

授業の一般目標： 生活習慣病を理解するために、メタボリックシンドローム、肥満、食生活、喫煙、飲酒の状態と影響力を習得する。

到達目標 S B O s :

- 1)生活習慣病に含まれる疾患を説明できる。
- 2)メタボリックシンドロームの診断基準を説明できる。
- 3)肥満の病態について説明できる。
- 4)食生活の変遷について説明できる。
- 5)喫煙の危険性について説明できる。
- 6)飲酒の功罪について説明できる。

=====

講義日	時限	国試出題基準
07月14日	4時限	総論-VII-1-ア

担当者 坂巻 達夫

テーマ： 睡眠障害、脱水、動悸

授業の一般目標： 歯科診療を遂行するに当たり、全身的症候を理解するうえで睡眠障害、脱水、動悸の病態、診断、治療を習得する。

到達目標 S B O s :

- 1)睡眠障害を説明できる。
- 2)睡眠時無呼吸症候群を説明できる。
- 3)脱水を起こす病態を説明できる。
- 4)脱水に対する対処法を説明できる。
- 5)動悸を起こす疾患を説明できる。
- 6)動悸を起こす疾患に対する対処法を説明できる。

講義日	時限	国試出題基準
07月15日	1時限	総論-IX-2-オ

担当者 小椋 一朗

テーマ： 放射線学・総論（領域A）

授業の一般目標： 将来、歯科医師として顎顔面領域の画像検査および画像診断ができるようになるために、電離放射線、エックス線撮影装置・器材およびエックス線画像形成を学ぶ。

到達目標SBOs：

- 1) 電離放射線について説明できる。
- 2) エックス線撮影装置・器材について説明できる。
- 3) エックス線画像形成について説明できる。

=====

講義日	時限	国試出題基準
07月15日	2時限	総論-IX-2-カ

担当者 小椋 一朗

テーマ： 放射線学・総論（領域A）

授業の一般目標： 将来、歯科医師として顎顔面領域の画像検査法の適切な選択および画像診断ができるようになるために、デジタル画像システム、顎顔面頭蓋撮影法および歯科用コーンビームCTを学ぶ。

到達目標SBOs：

- 1) デジタル画像システムについて説明できる。
- 2) 顎顔面頭蓋撮影法について説明できる。
- 3) 歯科用コーンビームCTについて説明できる。

講義日	時限	国試出題基準
07月15日	3時限	総論-IX-2-シ

担当者 小椋 一朗

テーマ： 放射線学・総論（領域A）

授業の一般目標： 将来、歯科医師として顎顔面領域の画像検査法の適切な選択および画像診断ができるようになるために、CTおよびMRIを学ぶ。

到達目標SBOs：

- 1)CTについて説明できる。
- 2)MRIについて説明できる。

=====

講義日	時限	国試出題基準
07月15日	4時限	総論-IX-2-タ

担当者 小椋 一朗

テーマ： 放射線学・総論（領域A）

授業の一般目標： 将来、歯科医師として顎顔面領域の画像検査法の適切な選択および画像診断ができるようになるために、核医学検査および超音波検査を学ぶ。

到達目標SBOs：

- 1)核医学検査について説明できる。
- 2)超音波検査について説明できる。

講義日	時限	国試出題基準
07月15日	5時限	総論-X-8-イ

担当者 小椋 一朗

テーマ： 放射線学・総論（領域A）

授業の一般目標： 将来、歯科医師として顎顔面領域の放射線治療ができるようになるために、放射線腫瘍学の基本を学ぶ。

到達目標SBOs：

- 1)放射線感受性について説明できる。
- 2)放射線治療について説明できる。

=====

講義日	時限	国試出題基準
07月16日	1時限	必修-11-オ-a

担当者 小椋 一朗

テーマ： 放射線学・必修

授業の一般目標： 将来、歯科医師として顎顔面領域の画像検査法の適切な選択および画像診断ができるようになるために、口内法およびパノラマエックス線検査を学ぶ。

到達目標SBOs：

- 1)口内法について説明できる。
- 2)パノラマエックス線検査について説明できる。

講義日	時限	国試出題基準
07月16日	2時限	必修-1 4-A-1

担当者 小椋 一朗

テーマ： 放射線学・必修

授業の一般目標： 将来、歯科医師として顎顔面領域の画像検査および放射線治療ができるようになるために、放射線の影響および防護を学ぶ。

到達目標 S B O s：

- 1) 放射線の影響について説明できる。
- 2) 放射線の防護について説明できる。

=====

講義日	時限	国試出題基準
07月16日	3時限	必修-1 3-I-a 総論-X-3-A 総論-X-3-I 総論-X-3-U 総論-X-3-E 総論-X-3-O 総論-X-3-K

担当者 石橋 肇

テーマ： 救急蘇生法

授業の一般目標： 歯科治療中に発生した心肺停止に対応できるように、救急蘇生法を理解する。

到達目標 S B O s：

- 1) 一次救命処置(BLS)と二次救命処置(ALS)を説明できる。
- 2) 除細動とその適応について説明できる。
- 3) ALS時の薬剤投与経路について述べることができる。
- 4) ALS時に使用する薬剤について説明できる。
- 5) 高度な気道確保を説明できる。

講義日	時限	国試出題基準
07月16日	4時限	必修-15-c 総論-X-6-ケ 総論-X-6-コ

担当者 石橋 肇

テーマ： 精神鎮静法

授業の一般目標： 安全に患者管理を行うために、精神鎮静法について理解する。

到達目標 S B O s :

- 1) 精神鎮静法の種類を述べることができる。
- 2) 精神鎮静法の利点と欠点を説明できる。
- 3) 至適鎮静について説明できる。
- 4) 精神鎮静法に使用する器具・器材について説明できる。
- 5) 精神鎮静法に使用する薬剤について説明できる。
- 6) 精神鎮静法時の偶発症について説明できる。

=====

講義日	時限	国試出題基準
07月16日	5時限	総論-X-6-ウ 総論-X-6-エ 総論-X-6-オ 総論-X-6-カ 総論-X-6-キ 総論-X-6-ク 必修-15-ケ-d 必修-15-コ-b

担当者 下坂 典立

テーマ： 全身麻酔法

授業の一般目標： 安全で適切な患者管理を行うために、全身麻酔法の実践について理解する。

到達目標 S B O s :

- 1) 全身麻酔施行にあたって注意すべき項目について説明することができる。
- 2) 全身麻酔法の分類、特徴を説明することができる。
- 3) 注射法について説明することができる。
- 4) 静脈麻酔、吸入麻酔について説明することができる。
- 5) 気道管理の重要性について説明することができる。
- 6) 筋弛緩薬使用の必要性について説明することができる。
- 7) 日帰り全身麻酔について説明することができる。

講義日	時限	国試出題基準
07月17日	1時限	総論-X-6-ウ 総論-X-6-コ 総論-X-6-サ 必修-13-イ-a 必修-15-コ-b

担当者 下坂 典立

テーマ： 全身麻酔の合併症

授業の一般目標： 安全で適切な患者管理を行うために、全身麻酔法の実際について、また、合併症、偶発症発症時の対応について理解する。

到達目標 S B O s :

- 1) 悪性高熱症について説明することができる。
- 2) 悪性高熱症発症時の対応について説明することができる。
- 3) アナフィラキシーショックについて説明することができる。
- 4) アナフィラキシーショック発症時の対応について説明することができる。
- 5) 輸液療法について説明することができる。
- 6) 輸血療法について説明することができる。

=====

講義日	時限	国試出題基準
07月17日	2時限	総論-VIII-6-ア 総論-VII-1-ア 総論-IX-4-エ 総論-IX-4-カ 総論-IX-4-ク

担当者 岡部 靖子、石橋 肇

テーマ： 肝疾患、腎疾患、糖尿病

授業の一般目標： 肝疾患、腎不全および糖尿病を合併する患者の歯科治療を安全に行うために、全身状態の評価と歯科治療時の対応について理解する。

到達目標 S B O s :

- 1) 肝疾患患者の術前評価について述べることができる。
- 2) 肝疾患患者の歯科治療上の注意点を述べることができる。
- 3) 腎不全患者の術前評価について述べることができる。
- 4) 腎不全患者の歯科治療上の注意点を述べることができる。
- 5) 糖尿病患者の術前評価について述べることができる。
- 6) 糖尿病患者の歯科治療上の注意点を述べることができる。

講義日	時限	国試出題基準
07月17日	3時限	総論-VIII-6-ア 総論-VII-1-ア 総論-X-4-イ

担当者 岡部 靖子、石橋 肇

テーマ： 循環器疾患、脳血管疾患、高血圧性疾患

授業の一般目標： 循環器疾患、脳血管疾患および高血圧性疾患を合併する患者の歯科治療を安全に行うために、全身状態の評価と歯科治療時の対応について理解する。

到達目標 S B O s :

- 1) 歯科治療時全身管理が必要な循環器疾患を述べることができる。
- 2) 虚血性心疾患患者の術前評価について述べることができる。
- 3) 虚血性心疾患患者の発作時の対応について述べることができる。
- 4) 歯科治療時全身管理が必要な脳血管疾患を述べることができる。
- 5) 高血圧症患者の術前評価について述べることができる。
- 6) 異常高血圧時の対応について述べることができる。

=====

講義日	時限	国試出題基準
07月17日	4時限	必修-15-ホ-b 必修-9-ア-a 必修-10-オ-b 必修-10-オ-c 必修-13-ア-b 必修-13-ア-e 各論-IV-17-ア

担当者 下坂 典立

テーマ： 呼吸器疾患（歯科麻酔学必修）

授業の一般目標： 全身疾患（主として呼吸器疾患）患者に適切に対応できるようになるために、全身管理の留意事項について理解する。

到達目標 S B O s :

- 1) 拘束性肺疾患の病態を説明することができる。
- 2) 閉塞性肺疾患（喘息）の病態を説明することができる。
- 3) 閉塞性肺疾患（喘息）の全身管理（救急処置を含む）について説明することができる。
- 4) 喘息様症状を呈する病態（主としてアナフィラキシー）について説明することができる。
- 5) アナフィラキシーショックの救急処置について説明することができる。
- 6) 医薬品・医療用具の副作用について説明することができる。
- 7) 薬物の投与方法（注射法）について説明することができる。

講義日	時限	国試出題基準
07月17日	5時限	必修-15-ホ-b 必修-9-ア-a 必修-10-オ-c 必修-13-ア-a 必修-13-ア-b 必修-15-ケ-b 必修-15-ケ-c 必修-15-ケ-d

担当者 下坂 典立

テーマ： 高血圧を主とする循環器疾患（歯科麻酔学必修）

授業の一般目標： 全身疾患（主として高血圧症）患者に適切に対応できるようになるために、全身管理に留意すべき事項について理解する。

到達目標SBOs：

- 1) バイタルサインについて説明することができる。
- 2) 血圧について説明することができる。
- 3) 脈拍について説明することができる。
- 4) 高血圧症の病態について説明することができる。
- 5) 高血圧症の全身管理について説明することができる。
- 6) 循環器疾患患者での局所麻酔時の注意点について説明することができる。
- 7) 薬物の投与方法（注射法）について説明することができる。

=====

講義日	時限	国試出題基準
07月18日	1時限	必修-15-ホ-b 必修-13-ア-a 必修-13-ア-b 必修-13-ア-e 必修-13-イ-a 必修-13-イ-b 必修-15-ケ-d 総論-VIII-6-オ

担当者 下坂 典立

テーマ： 虚血性心疾患を主とする循環器疾患（歯科麻酔学必修）

授業の一般目標： 全身疾患（主として虚血性心疾患）患者に適切に対応できるようになるために、全身管理に留意すべき事項について理解する。

到達目標SBOs：

- 1) 心電図について説明することができる。
- 2) 虚血性心疾患について説明することができる。
- 3) 心筋虚血時の心電図所見について説明することができる。
- 4) 虚血性心疾患の病態について説明することができる。
- 5) 虚血性心疾患患者の救急処置について説明することができる。
- 6) 虚血性心疾患での有用なモニタについて説明することができる。
- 7) 抗血栓薬について説明することができる。
- 8) 精神鎮静法について説明することができる。
- 9) 注射法について説明することができる。

講義日	時限	国試出題基準
07月18日	2時限	必修-1 5-ホ-b 必修-9-ウ-k 必修-1 4-ア-k 総論-VII-1-キ 総論-VII-1-ク 各論-IV-1 7-オ 各論-IV-1 7-カ 各論-IV-1 7-ク

担当者 下坂 典立

テーマ： 神経疾患、精神疾患（歯科麻酔学必修）

授業の一般目標： 全身疾患（神経疾患・脳血管障害、精神疾患、膠原病）患者に適切に対応できるようにするために、全身管理に留意すべき事項について理解する。

到達目標 S B O s :

- 1) Parkinson病について説明することができる。
- 2) うつについて説明することができる。
- 3) 統合失調症について説明することができる。
- 4) 神経疾患・脳血管障害患者の局所麻酔時注意点について説明することができる。
- 5) ステロイド薬内服患者の注意点について説明することができる。

=====

講義日	時限	国試出題基準
07月18日	3時限	必修-4-イ-c 必修-4-イ-d 必修-4-ウ-a 必修-4-ウ-c 必修-4-ウ-d 必修-1 7-ア 必修-1 7-イ

担当者 下坂 典立

テーマ： 患者および医療者の安全（歯科麻酔学必修）

授業の一般目標： 患者および医療者の安全に適切に対応できるようになるために、医療事故の防止及び全身管理に留意すべき事項について理解する。

到達目標 S B O s :

- 1) 患者および医療者の安全について説明することができる。
- 2) 誤飲・誤嚥およびその対処法について説明することができる。
- 3) 院内感染対策について説明することができる。
- 4) 基本的な医学史について説明することができる。
- 5) 基本的な歯学史について説明することができる。

講義日	時限	国試出題基準
07月21日	1時限	必修-15-ス-a 必修-15-サ-a 必修-15-サ-b 必修-15-サ-c

担当者 萩原 美緒

テーマ： 口腔外科 必修

授業の一般目標： 安全な歯科治療を行なうために、必要な診療のための基本的知識、技能、診査や検査の解釈を習得する。

到達目標SBOs：

- 1) 治療の基礎・基本手技を説明できる。
- 2) 抜歯の術式を説明できる。
- 3) 抜歯の偶発症を説明できる。
- 4) 抜歯に必要な器具を説明できる。

=====

講義日	時限	国試出題基準
07月21日	2時限	必修-15-サ-a 必修-15-サ-b 必修-15-サ-c 必修-15-シ-a

担当者 萩原 美緒

テーマ： 口腔外科 必修

授業の一般目標： 安全な歯科治療を行なうために、必要な診療のための基本的知識、技能、診査や検査の解釈を習得する。

到達目標SBOs：

- 1) 膿瘍の処置を説明できる。
- 2) 膿瘍切開の手順を説明できる。
- 3) 膿瘍切開の目的を説明できる。

講義日	時限	国試出題基準
07月21日	3時限	総論-VII-2-エ 総論-VII-2-オ 総論-VII-2-カ 総論-VII-2-キ 総論-VII-2-ク 総論-VII-2-ケ-a

担当者 伊藤 耕

テーマ： 口腔外科 領域A

授業の一般目標： 顎口腔領域にあらわれる主要な症候を説明できるようにするために学習する。

到達目標 S B O s：

- 1) 口腔粘膜にあらわれる症候を説明できる。
- 2) 顎骨にあらわれる症候を説明できる。
- 3) 顎関節に生じる症候を説明できる。
- 4) 顔面・舌・唾液腺・リンパ節に生じる症候を説明できる。
- 5) 口腔機能障害を説明できる。

=====

講義日	時限	国試出題基準
07月21日	4時限	総論-X-5-エ 総論-X-5-キ 総論-X-5-ク

担当者 伊藤 耕

テーマ： 口腔外科 領域A

授業の一般目標： 口腔外科治療における手術基本手技を説明できるようになるために学習する。

到達目標 S B O s：

- 1) 移植・再植術を説明できる。
- 2) 縫合法を説明できる。
- 3) 口腔外科で行われる外来小手術について説明できる。

講義日	時限	国試出題基準
07月22日	1時限	総論-I-5-ア

担当者 福井 謙二

テーマ： 歯科法医学（1）

授業の一般目標： 歯科法医学を理解するために、わが国における死体解剖と死因究明制度について学修する。

到達目標 S B O s :

- 1) わが国における死体解剖について根拠となる法律とその目的について説明できる。
- 2) 死因究明に関する2法における歯科医師の在り方を説明できる。

=====

講義日	時限	国試出題基準
07月22日	2時限	総論-I-5-イ

担当者 福井 謙二

テーマ： 歯科法医学（2）

授業の一般目標： 歯科法医学を理解するために、死体に発現する全ての変化である死後変化（死体現象）について学修する。

到達目標 S B O s :

- 1) 死体現象の法医学的意義について説明できる。
- 2) 早期死体現象について説明できる。
- 3) 晩期死体現象について説明できる。
- 4) 永久死体現象について説明できる。
- 5) 死体の損壊について説明できる。

講義日	時限	国試出題基準
07月22日	3時限	総論-I-5-ウ

担当者 福井 謙二

テーマ： 歯科法医学（3）

授業の一般目標： 歯科法医学を理解するために、歯科法医学的な個人識別、身元確認について学修する。

到達目標 S B O s：

- 1) 身元不明死体の性別判定と年齢推定について説明できる。
- 2) 歯科法医学的な血液型判定とDNA分析について説明できる。
- 3) 個人識別を目的としたデンタルチャートについて説明できる。

=====

講義日	時限	国試出題基準
07月22日	4時限	総論-I-1-オ 総論-I-1-ア 総論-I-1-イ 総論-I-1-ウ 総論-I-1-エ

担当者 有川 量崇

テーマ： 保健医療総論①

授業の一般目標： 歯科医師として、歯科保健・医療を取り巻く変化に対応するために必要な健康・疾病・障害の概念の知識を修得する。

到達目標 S B O s：

- 1) 健康の概念について説明できる。
- 2) 健康に関わる要因について説明できる。
- 3) 社会環境の変化について説明できる。
- 4) 疾病の自然史と対応について説明できる。
- 5) 保健衛生法規について説明できる。
- 6) 予防衛生法規について説明できる。

講義日	時限	国試出題基準
07月22日	5時限	総論-I-4-ア 総論-I-4-イ 総論-I-4-ウ 総論-I-4-エ 総論-I-4-オ 総論-I-4-カ 総論-I-4-キ 総論-I-4-ク

担当者 有川 量崇

テーマ： 保健医療総論②

授業の一般目標： 歯科医師として、歯科保健・医療を取り巻く変化に対応するために必要な地域保健と地域医療の知識を修得する。

到達目標 S B O s :

- 1) 公衆衛生活動・地域保健活動について説明できる。
- 2) 医療計画・健康増進計画について説明できる。
- 3) ヘルスプロモーションについて説明できる。
- 4) 地域保健活動の進め方について説明できる。
- 5) 都道府県、市町村、保健所の歯科保健業務について説明できる。
- 6) プライマリケアについて説明できる。
- 7) かかりつけ歯科医機能について説明できる。
- 8) 救急・災害医療について説明できる。
- 9) へき地医療について説明できる。
- 10) 在宅医療・在宅歯科医療について説明できる。

=====

講義日	時限	国試出題基準
07月23日	1時限	総論-V-6-ア

担当者 川良 美佐雄

テーマ： 高齢者歯科学

授業の一般目標： 高齢者歯科医療を円滑に行うために、基本的な加齢に伴う生理的、機能的変化を理解する。

到達目標 S B O s :

- 1) 高齢者が罹患しやすい慢性疾患を挙げ説明できる。
- 2) 加齢・老化による歯・顎・顔面の形態的変化を説明できる。
- 3) 加齢・老化による歯・顎・顔面の機能的変化を説明できる。

講義日	時限	国試出題基準
07月23日	2時限	総論-V-1-ク

担当者 川良 美佐雄

テーマ： 高齢者歯科学

授業の一般目標： 高齢者歯科医療を円滑に行うために、施設や在宅における基本的歯科医療を理解する。

到達目標 S B O s：

- 1) 老化の機序を説明できる。
- 2) 高齢者の心理・社会的特徴を説明できる。
- 3) 要介護高齢者の歯科治療を説明できる。
- 4) 在宅歯科医療を説明できる。
- 5) 摂食・嚥下障害とリハビリテーションを説明できる。
- 6) 高齢者歯科医療における多職種連携について説明できる。

=====

講義日	時限	国試出題基準
07月23日	3時限	総論-VII-3-ア 総論-VII-3-イ 総論-VII-3-オ 総論-VII-6-イ

担当者 梅澤 幸司

テーマ： 障害者歯科学・総論（領域A）

授業の一般目標： 障害児・者の歯科治療が行えるようになるために、障害者や高齢者の対応について理解する。

到達目標 S B O s：

- 1) 障害者の保健・医療・福祉について述べられる。
- 2) 障害者の概念や分類を説明できる。
- 3) 障害者の行動調整法について述べられる。
- 4) 障害者および高齢者の歯科治療について説明できる。

講義日	時限	国試出題基準
07月23日	4時限	総論-I-3-カ 総論-I-3-エ 総論-I-3-キ 総論-I-3-ク

担当者 有川 量崇

テーマ： 保健医療総論（高齢者）

授業の一般目標： 歯科医師として、高齢社会における歯科保健・医療を取り巻く変化に対応するために必要な社会保障制度と介護保険、医療保険制度の知識を修得する。

到達目標 S B O s :

- 1) 医療福祉・社会福祉・介護保険関連法規について説明できる。
- 2) 介護施設について説明できる。
- 3) 福祉・介護の制度と職種について説明できる。
- 4) 医療連携・チーム医療について説明できる。
- 5) 保健・医療・福祉・介護の制度と連携について説明できる。

=====

講義日	時限	国試出題基準
07月23日	5時限	総論-I-6-ア 総論-I-6-イ 総論-I-6-ウ 総論-I-7-ア 総論-I-7-イ

担当者 有川 量崇

テーマ： 保健医療総論③

授業の一般目標： 歯科医師として、歯科保健・医療を取り巻く変化に対応するために必要な社会保障制度、医療経済と国民医療費、国際保健の知識を修得する。

到達目標 S B O s :

- 1) 社会保障制度について説明できる。
- 2) 医療経済と国民医療費について説明できる。
- 3) 世界の保健・医療の問題と方向性について説明できる。
- 4) 国際保健・医療協力について説明できる。

講義日	時限	国試出題基準
07月28日	1時限	必修-9-イ-b 必修-10-ウ-a 必修-10-ウ-b 必修-11-エ-a 必修-15-ソ-a 必修-17-イ

担当者 神谷 直孝

テーマ： 保存修復学・必修

授業の一般目標： 適切な歯科治療が行えるようになるために、診療の基本となる診療体位、歯の検査法、齶蝕治療の基本術式、歯の切削法、接着術式および歯科保存領域で使用する器材の正しい取扱いについて修得する。

到達目標 S B O s：

- 1) 処置内容と患者の状態に適した診療体位を選択できる。
- 2) 歯の硬組織疾患の診断に必要な検査法を選択できる。
- 3) 歯の切削に関する基本的術式について説明できる。
- 4) 齶蝕の特徴について説明できる。
- 5) 齶蝕の除去に用いる器材、切削具、薬剤について説明できる。
- 6) 接着修復の基本的術式について説明できる。
- 7) 保存修復分野に関連する一般的教養事項について説明できる。

=====

講義日	時限	国試出題基準
07月28日	2時限	総論-X-7-イ 総論-V-5-イ 総論-VII-2-ケ-a 総論-IX-1-ソ

担当者 野本 たかと

テーマ： 障害者歯科学・総論（領域A）

授業の一般目標： 摂食・嚥下機能の発達および加齢変化を理解する。

到達目標 S B O s：

- 1) 摂食機能の発達について述べられる。
- 2) 嚥下のメカニズムについて説明できる。
- 3) 嚥下障害について述べられる。
- 4) 誤嚥性肺炎について述べられる。

講義日	時限	国試出題基準
07月28日	3時限	必修-8-ア-a 必修-8-ア-b 必修-8-ア-c 必修-8-イ-d 必修-8-イ-f 必修-8-ウ-a 必修-8-ウ-b

担当者 多田 充裕

テーマ： 医療面接

授業の一般目標： 適切な診療をおこなうために、診療録、診療情報および医療面接に関する基本的事項を理解する。

到達目標 S B O s :

- 1) S O A P について説明できる。
- 2) 医療面接に意義・目的について説明できる。
- 3) 医療面接のマナーについて説明できる。
- 4) 感情面の対応について説明できる。

=====

講義日	時限	国試出題基準
07月28日	4時限	総論-IX-1-キ 総論-IX-1-ツ 総論-IX-1-テ

担当者 多田 充裕

テーマ： 口腔機能検査

授業の一般目標： 適切な臨床診断を行うため、唾液検査、味覚検査、口腔検査について理解する。

到達目標 S B O s :

- 1) 唾液検査について説明できる。
- 2) 味覚検査について説明できる。
- 3) 口臭検査について説明できる。

講義日	時限	国試出題基準
07月28日	5時限	必修-2-ア-d 必修-2-ア-f 必修-15-ヘ-a 必修-15-ホ-b

担当者 梅澤 幸司

テーマ： 障害者歯科学・必修

授業の一般目標： 障害者、高齢者の歯科治療ならびに摂食・嚥下リハビリテーションを行うための必要事項を理解する。

到達目標 S B O s :

- 1) 障害の概念・構造が述べられる。
- 2) ノーマライゼーションについて述べられる。
- 3) 加齢による歯・口腔・顎・顔面の変化が述べられる。
- 4) 口腔のリハビリテーションについて述べられる。
- 5) 脳血管疾患による摂食・嚥下機能障害を説明できる。

=====

講義日	時限	国試出題基準
07月29日	1時限	総論-VI-11-イ 総論-IV-4-ウ 総論-IV-4-エ 総論-IV-4-オ 総論-IV-5-ウ 総論-VII-2-ア

担当者 鈴木 英明

テーマ： 保存修復学・総論（領域A）

授業の一般目標： 齲蝕などによって生じる硬組織欠損に対して適切な処置を行うことができるようになるために、歯の正常構造と機能ならびに口腔バイオフィルムや口組織疾患の病因・病態・症候について理解する。

到達目標 S B O s :

- 1) エナメル質の構造を説明できる。
- 2) 象牙質・歯髄複合体の構造を説明できる。
- 3) セメント質の構造を説明できる。
- 4) 口腔バイオフィルムについて説明できる。
- 5) 歯の硬組織疾患における病因・病態について説明できる。
- 6) 歯の硬組織疾患における症候について説明できる。

講義日	時限	国試出題基準
07月29日	2時限	総論-IX-1-ア 総論-XI-7-ア 総論-XI-7-イ 総論-XI-7-ウ 総論-XI-7-カ 総論-XI-13-ア 総論-XI-14-ア

担当者 鈴木 英明

テーマ： 保存修復学・総論（領域A）

授業の一般目標： 歯の硬組織欠損の原因を診断し、適切な処置が行えるようになるために、歯の硬組織検査と成形修復材料やその接着システムならびに各処置法で使用する器材について理解する。

到達目標SBOs：

- 1) 歯の診察に必要な検査法を選択できる。
- 2) 歯の検査法の特徴とその実施方法について説明できる。
- 3) コンポジットレジン組成とその特徴について説明できる。
- 4) 歯質接着性モノマーの特徴について説明できる。
- 5) グラスアイオノマーセメントの組成や特徴について説明できる。
- 6) 仮封材の特徴について説明できる。
- 7) エナメル質や象牙質被着面に対する処理方法と使用処理剤について説明できる。
- 8) セラミックスや金属被着面に対する処理方法と使用処理剤について説明できる。
- 9) 歯科用合着用セメントの種類とその特徴について説明できる。

=====

講義日	時限	国試出題基準
07月29日	3時限	必修-15-マ-a 総論-XI-15-ア 総論-XI-15-イ 総論-XI-15-ウ 総論-XI-15-エ 総論-XI-15-オ

担当者 榎本 豊

テーマ： 歯科矯正学・総論

授業の一般目標： 安全で適切な矯正治療を実践するために、矯正治療で用いられる材料・器材の特徴を理解し、適切な使用法について学修する。

到達目標SBOs：

- 1) 矯正用線材料の種類とその特性を説明できる。
- 2) ブラケットの種類とその特徴を述べることができる。
- 3) 矯正臨床で用いるレジンとその特徴を述べることができる。
- 4) 矯正用ブライヤーの種類とその使用法について述べるができる。

講義日	時限	国試出題基準
07月29日	4時限	総論-V-1-オ 総論-V-1-エ 総論-V-1-カ 総論-IV-4-ア 総論-X-2-ケ

担当者 清水 武彦

テーマ： 小児歯科学・総論

授業の一般目標： 小児の歯科疾患の診断および治療ができるようになるために、小児の心身発育および歯の発育について理解する。

到達目標 S B O s :

- 1) 小児の心身発育を説明できる。
- 2) 乳歯および幼若永久歯の形態的特徴を説明できる。
- 3) 歯の発育時期を説明できる。

=====

講義日	時限	国試出題基準
07月29日	5時限	総論-V-4-ウ 総論-VI-1 1-ア 総論-VIII-2-ア 総論-VIII-2-イ 総論-II-2-エ 総論-II-2-キ

担当者 清水 武彦

テーマ： 小児歯科学・総論

授業の一般目標： 小児の歯科疾患の診断および治療ができるようになるために、歯列・咬合の発育、歯の形成異常、小児の対応について理解する。

到達目標 S B O s :

- 1) 歯列咬合の発育について説明できる。
- 2) 歯の形成異常について説明できる。
- 3) 小児への対応について説明できる。
- 4) 児童虐待について説明できる。

講義日	時限	国試出題基準
07月30日	1時限	総論-VII-2-ウ 総論-IX-1-カ 総論-IX-2-サ

担当者 五関 たけみ

テーマ： 歯科矯正学・総論

授業の一般目標： 適切な矯正治療を実践するために、不正咬合の診断および治療計画の立案に必要な分析法を理解する。

到達目標SBOs：

- 1) 模型分析の項目と特徴を述べることができる。
- 2) 各種セファロ分析の項目と特徴を述べることができる。
- 3) 分析により得られたデータを統合して不正咬合の状態を説明できる。

=====

講義日	時限	国試出題基準
07月30日	2時限	必修-7-イ-b 必修-7-ア-e 総論-V-4-ア 総論-V-4-イ

担当者 五関 たけみ

テーマ： 歯科矯正学・必修

授業の一般目標： 口腔・顎・顔面の成長発育を考慮した矯正治療を実践するために、頭蓋・顎・顔面の成長パターンおよび成長発育の評価法を理解する。

到達目標SBOs：

- 1) 成長スパートの予測について説明できる。
- 2) 生理的年齢について説明できる。
- 3) 頭蓋の成長発育を説明できる。
- 4) 鼻上顎複合体の成長発育の特徴を説明できる。
- 5) 下顎骨の成長発育の特徴を説明できる。

講義日	時限	国試出題基準
07月30日	3時限	必修-7-ア-a 必修-7-ア-b 必修-7-ア-c 必修-7-ア-d 必修-7-ア-e

担当者 清水 邦彦

テーマ： 小児歯科学・必修

授業の一般目標： 小児の発育を考慮した小児歯科治療を実践するために、小児の身体的・精神的発育を理解する。

到達目標SBOs：

- 1) 小児の発育を説明できる。
- 2) 身体発育の特徴を説明できる。
- 3) 身体発育と精神発達の評価法を説明できる。
- 4) 小児の生理的特徴を説明できる。

=====

講義日	時限	国試出題基準
07月30日	4時限	必修-7-イ-a 必修-15-カ-c

担当者 清水 邦彦

テーマ： 小児歯科学・必修

授業の一般目標： 小児の歯科疾患の診断および治療ができるようになるために、小児の歯・歯列の発育および小児への歯科的対応について理解する。

到達目標SBOs：

- 1) 歯の発育時期を説明できる。
- 2) 歯齢を説明できる。
- 3) 歯列の発育を説明できる。
- 4) 小児の対応法を説明できる。

講義日	時限	国試出題基準
07月31日	1時限	必修-3-ケ-b 必修-1 4-イ-d

担当者 小方 頼昌

テーマ： 歯周治療学・必修1

授業の一般目標：適切な歯周治療を行うために、歯周病の病因、病態を理解する。

到達目標SBOs：

- 1) 歯周病のリスクファクターについて説明できる。
- 2) 歯周病の環境因子について説明できる。
- 3) 歯周病の宿主因子について説明できる。
- 4) 歯周病の細菌因子について説明できる。
- 5) 歯周病の分類を説明できる。
- 6) 歯周病の分類と臨床像の関連を説明できる。

=====

講義日	時限	国試出題基準
07月31日	2時限	必修-1 5-テ-a 必修-1 1-エ-c

担当者 小方 頼昌

テーマ： 歯周治療学・必修2

授業の一般目標：適切な歯周治療を行うために、歯周病の治療の基礎、基本手技を理解する。

到達目標SBOs：

- 1) 歯周治療の進め方について説明できる。
- 2) 歯周治療で使用する器具について説明できる。
- 3) 歯周精密検査で行う項目を説明できる。
- 4) 歯周基本治療で行う治療内容を説明できる。
- 5) 歯周外科治療の種類と適応を説明できる。
- 6) 歯周外科治療の術式を理解する。

講義日	時限	国試出題基準
07月31日	3時限	総論-VII-2-イ 総論-VI-3-エ 総論-VI-3-オ

担当者 高井 英樹

テーマ： 歯周治療学・総論（領域A）

授業の一般目標： 歯周病を理解するために、正常歯周組織、歯周組織の修復と再生および歯周組織の創傷治癒について習得する。

到達目標 S B O s :

- 1) 正常歯周組織について理解できる。
- 2) 修復と再生について理解できる。
- 3) 創傷治癒について理解できる。

=====

講義日	時限	国試出題基準
07月31日	4時限	総論-IX-1-エ 総論-X-1-ア 総論-X-2-ウ 総論-X-2-エ 総論-X-2-オ 総論-X-2-キ 総論-X-5-イ 総論-XI-16-エ

担当者 高井 英樹

テーマ： 歯周治療学・総論（領域A）

授業の一般目標： 歯周病を治療するために、歯周組織検査、治療計画および治療法について理解する。

到達目標 S B O s :

- 1) 歯周組織検査について理解できる。
- 2) 治療計画を立案できる。
- 3) 歯周治療について理解できる。
- 4) 歯周外科治療の基本手技について理解できる。

講義日	時限	国試出題基準
08月03日	1時限	必修-9-イ-c 必修-9-イ-d 必修-10-ク-b 必修-10-ク-c 必修-11-エ-a 必修-11-エ-b 必修-11-エ-c

担当者 松島 潔

テーマ： 歯内療法学・必修1

授業の一般目標： 歯髄・根尖歯周疾患の適切な診断と治療ができるようになるために、歯内療法の診断の基となる事項を習得する。

到達目標SBOs：

- 1) 歯髄・根尖歯周疾患を説明できる。
- 2) 検査の選択ができる
- 3) 歯髄・根尖歯周疾患と症状の関連を説明できる。
- 4) 歯髄の痛みを説明できる。

=====

講義日	時限	国試出題基準
08月03日	2時限	必修-15-タ-a 必修-15-イ-a 必修-15-チ-a 必修-15-マ-h

担当者 松島 潔

テーマ： 歯内療法学・必修2

授業の一般目標： 歯髄・根尖歯周疾患の適切な診断と治療ができるようになるために、歯内療法の基本的な治療を習得する。

到達目標SBOs：

- 1) 歯髄・根尖歯周疾患の適切な治療の選択ができる。
- 2) 歯内療法の原則を説明できる。
- 3) 歯内療法で用いる器具の選択ができる。
- 4) 歯内療法で用いる薬物・材料の選択ができる。

講義日	時限	国試出題基準
08月03日	3時限	総論-IV-4-エ 総論-IV-4-ク 総論-VI-8-ア 総論-VI-5-イ 総論-VI-5-エ 総論-VI-5-オ

担当者 松島 潔

テーマ： 歯内療法学・総論（領域A）

授業の一般目標： 歯髄根尖歯周組織疾患の適切な診断・治療ができるようになるために、歯・歯髄・根尖歯周組織の正常構造と機能および炎症と疼痛の伝達について習得する。

到達目標 S B O s :

- 1) 歯・歯髄・根尖歯周組織の正常構造を説明できる。
- 2) 炎症の原因と機序を説明できる。
- 3) 急性炎症と慢性炎症を説明できる。
- 4) 歯髄からの痛みの伝達を説明できる。

=====

講義日	時限	国試出題基準
08月03日	4時限	総論-VI-11-イ 総論-VII-2-ア 総論-IX-1-イ 総論-IX-1-ウ 総論-XI-7-カ 総論-XI-7-キ 総論-XI-7-ク 総論-XI-7-ケ

担当者 松島 潔

テーマ： 歯内療法学・総論（領域A）

授業の一般目標： 歯髄・根尖歯周組織疾患を適切に診断・治療ができるようになるために、歯・歯髄・根尖歯周組織疾患の原因・病態・主要症候、検査および歯内療法で用いる歯科材料を習得する。

到達目標 S B O s :

- 1) 歯髄・根尖歯周組織疾患の病因を説明できる。
- 2) 歯髄・根尖歯周組織疾患の病態を説明できる。
- 3) 歯髄・根尖歯周組織疾患の主要症候を説明できる。
- 4) 歯内療法で扱う歯科材料を説明できる。

講義日	時限	国試出題基準
08月03日	5時限	総論-X-2-キ

担当者 和田 守康

テーマ： 歯周組織再生医療について

授業の一般目標： 歯周組織再生医療を理解するために、歯周組織再生に関する因子について学習する。

到達目標 S B O s :

- 1) Tissue engineering の概念について説明できる。
- 2) 歯周組織の再生に関する増殖因子について説明できる。
- 3) iPS細胞について説明できる。

=====

講義日	時限	国試出題基準
08月04日	1時限	必修-9-イ-h 必修-9-イ-e

担当者 小見山 道

テーマ： 顎口腔機能治療学必修1

授業の一般目標： 口腔顔面領域に発生する有痛性疾患に対応するために、顎・顔面領域の有痛性疾患の特徴を理解する。

到達目標 S B O s :

- 1) 脳神経系の役割について説明できる。
- 2) 口腔顔面領域の原因疾患について説明できる。
- 3) 非歯原性歯痛の原因疾患について説明できる。
- 4) 咀嚼筋の症候と検査について説明できる。
- 5) 顎関節の症候と検査について説明できる。

講義日	時限	国試出題基準
08月04日	2時限	必修-7-ウ-h

担当者 小見山 道

テーマ： 顎口腔機能治療学必修2

授業の一般目標： 高齢者に対する歯科治療を円滑に行うために、管理に留意すべき全身疾患について理解する。

到達目標 S B O s :

- 1) 認知症の原因を説明できる。
- 2) 認知症の検査を説明できる。
- 3) 認知症への対応を説明できる。
- 4) Alzheimer病の病態を説明できる。
- 5) Parkinson病の病態と原因を説明できる。
- 6) Parkinson病への対応を説明できる。
- 7) 誤嚥性肺炎の病態を説明できる。
- 8) 誤嚥性肺炎への対応を説明できる。
- 9) サルコペニアとフレールの概念について説明できる。
- 10) オーラルディアドコキネシス等による高齢者の口腔機能評価について説明できる。

=====

講義日	時限	国試出題基準
08月04日	3時限	総論-IV-3-ア

担当者 小見山 道

テーマ： 顎運動と咬合の基礎1

授業の一般目標： 補綴歯科臨床の診査、診断、治療を適切に行うために、下顎運動と咬合の一般概念を理解する。

到達目標 S B O s :

- 1) 下顎運動に関連する頭頸部の筋を列挙できる。
- 2) 下顎運動に関連する頭頸部の筋の役割を説明できる。
- 3) 顎関節の構成と役割を説明できる。
- 4) 下顎運動の理解に必要な基準点、基準線、基準面を説明できる。

講義日	時限	国試出題基準
08月04日	4時限	総論-IV-3-イ

担当者 小見山 道

テーマ： 顎運動と咬合の基礎 2

授業の一般目標： 補綴歯科臨床の診査、診断、治療を適切に行うために、下顎運動と咬合の概念を理解する。

到達目標 S B O s :

- 1) 下顎位を列挙して説明できる。
- 2) 咬頭嵌合位における上下顎機能咬頭の接触部位を説明できる。
- 3) 作業側、平衡側における下顎頭運動を説明できる。
- 4) 下顎運動と切歯路、顎路の関連を説明できる。
- 5) 咬合様式を説明できる。

=====

講義日	時限	国試出題基準
08月04日	5時限	総論-IV-3-ウ

担当者 小見山 道

テーマ： 顎運動と咬合の基礎 3

授業の一般目標： 補綴歯科臨床の診査、診断、治療を適切に行うために、下顎運動と咬合の概念を理解する。

到達目標 S B O s :

- 1) 下顎運動と咬合接触の関連を説明できる。
- 2) 作業側、平衡側と咬頭のパスウェイを説明できる。
- 3) 前方運動要素と後方運動要素の咬合面に与える影響を説明できる。

講義日	時限	国試出題基準
08月05日	1時限	必修-1 5-ト-a

担当者 飯島 守雄

テーマ： 可徹性局部床義歯学

授業の一般目標： 顎口腔系の形態および機能の部分的損失を補綴装置で回復するための知識・技術・態度を習得する。

到達目標 S B O s：

- 1) 可徹性局部床義歯の意義を述べることができる。
- 2) 部分歯牙欠損の病体を述べるができる。
- 3) 可徹性局部床義歯の利点・欠点を述べるができる。
- 4) 可徹性局部床義歯の一連の製作過程を述べるができる。

=====

講義日	時限	国試出題基準
08月05日	2時限	必修-1 5-ヌ-a 必修-1 5-ネ-a 必修-1 5-ネ-b

担当者 飯島 守雄

テーマ： 可徹性局部床義歯学

授業の一般目標： 顎口腔系の形態および機能の部分的損失を補綴装置で回復するための知識・技術・態度を習得する。

到達目標 S B O s：

- 1) 部分歯牙欠損を有する患者の歯列および顎堤の評価ができる。
- 2) 部分歯牙欠損を有する患者の咬合採得を説明できる
- 3) 可徹性局部床義歯を製作する咬合器を説明できる。

講義日	時限	国試出題基準
08月05日	3時限	総論-VI-12-ア 総論-VI-12-ウ 総論-VI-12-エ 総論-XI-9-イ 総論-XI-9-ウ 総論-XI-9-オ 総論-XI-10-ア

担当者 矢崎 貴啓

テーマ： 全部床義歯学・総論 領域A

授業の一般目標： 無歯顎患者の診断と治療ができるようになるために、全部床義歯補綴の理論的背景を理解する。

到達目標 S B O s :

- 1) 全部床義歯の構成要素を列举し説明することができる。
- 2) 全部床義歯の維持、支持および安定について説明することができる。
- 3) 全部床義歯装着者にみられる主要症候を説明することができる。
- 4) 義歯床用材料を列举し説明することができる。
- 5) レジンの成形技術・機器を説明することができる。
- 6) 診察における高齢者への対応について説明することができる。

=====

講義日	時限	国試出題基準
08月05日	4時限	総論-V-6-ア

担当者 中田 浩史

テーマ： 歯科補綴学（全部床義歯）領域A

授業の一般目標： 総義歯患者の診断と治療ができるために、加齢・老化による歯・口腔・顎・顔面の変化を理解する。

到達目標 S B O s :

- 1) 無歯顎者の病因と病態について述べることができる。
- 2) 加齢に伴う顎口腔系の変化について述べることができる。
- 3) 総義歯の維持、安定、支持について述べることができる。
- 4) 総義歯治療に必要な解剖学的特徴を述べることができる。
- 5) 咀嚼障害と嚥下障害について述べることができる。

講義日	時限	国試出題基準
08月05日	5時限	総論-XI-16-ア

担当者 村上 洋

テーマ： 口腔インプラント学

授業の一般目標： 欠損補綴の回復方法を適切に患者に供給するために、インプラント治療に関する基本的知識を修得する。

到達目標 S B O s :

- 1)インプラント材料について説明できる。
- 2)オッセオインテグレーションの獲得について説明できる。
- 3)インプラント治療の術式について説明できる。

=====

講義日	時限	国試出題基準
08月06日	1時限	総論-X-1-ア 総論-X-1-イ 総論-X-1-ウ 総論-X-1-エ

担当者 神谷 和伸

テーマ： 部分床義歯 領域A

授業の一般目標： 歯や周囲組織の欠損により予想される口腔内の変化を理解し、部分床義歯補綴の目的、臨床的意義を説明できる。

到達目標 S B O s :

- 1)部分床義歯の治療計画を左右する因子を説明できる
- 2)部分床義歯の治療計画を説明できる
- 3)歯列の欠損に伴う口腔内の変化を説明できる
- 4)部分欠損の分類を説明できる

講義日	時限	国試出題基準
08月06日	2時限	必修-15-オ-a

担当者 木本 統

テーマ： 全部床義歯学・必修1

授業の一般目標： 無歯顎者の治療を円滑に行うために必要な基本的診察方法歯科材料の取り扱いに関する知識を修得する。

到達目標SBOs：

- 1) 全部床義歯治療の手順を述べることができる。
- 2) 全部床義歯の技工手順を述べることができる。
- 3) 全部床義歯治療に使用する器具・材料を述べることができる。

=====

講義日	時限	国試出題基準
08月06日	3時限	必修-10-ア-a 必修-6-イ-b

担当者 木本 統

テーマ： 全部床義歯学・必修2

授業の一般目標： 無歯顎患者の治療を理解するための基本的知識を修得する。

到達目標SBOs：

- 1) 咀嚼筋について説明できる。
- 2) 印象体の消毒について説明できる。
- 3) 咬合小面について説明できる。

講義日	時限	国試出題基準
08月06日	4時限	総論-VIII-1-オ

担当者 大久保 昌和

テーマ： 根拠に基づいた医療（領域A）

授業の一般目標： 根拠に基づいた医療を行うためにEBMについての知識を習得する。

到達目標SBOs：

- 1) 根拠に基づいた医療について説明できる。
- 2) EBMの手順を説明できる。
- 3) 問題の定式化について説明できる。
- 4) 科学的根拠について説明できる。
- 5) 診療ガイドラインについて説明できる。

=====

講義日	時限	国試出題基準
08月06日	5時限	総論-IX-1-コ

担当者 飯田 崇

テーマ： 顎口腔機能に関する検査（領域A）

授業の一般目標： 口腔機能の適切な評価を行うために、客観的評価として用いる顎口腔機能に関する検査方法を理解する。

到達目標SBOs：

- 1) 歯列・咬合検査を説明できる。
- 2) 下顎位検査を説明できる。
- 3) 下顎運動検査を説明できる。
- 4) 顎関節・筋機能検査について説明できる。
- 5) 舌運動・舌圧検査を説明できる。
- 6) 咀嚼機能検査を説明できる。
- 7) 咬合力検査を説明できる。
- 8) 嚥下機能検査を説明できる。

講義日	時限	国試出題基準
08月07日	1時限	必修-15-ト-a 必修-15-セ-a 必修-15-ニ-a 必修-15-ヌ-a 必修-15-ネ-a 必修-4-イ-c

担当者 田中 孝明

テーマ： クラウンブリッジ補綴学 必修

授業の一般目標： 顎口腔系の形態異常や実質欠損により失われた機能回復を行うために必要なクラウンブリッジの基礎的項目を習得する。

到達目標 S B O s :

- 1) 咬合様式と下顎位を述べることができ、それぞれの特徴を説明できる
- 2) 基準平面と基準点を述べることができ、治療との関連を説明できる
- 3) クラウンとブリッジの種類を述べるができる。
- 4) ブリッジの構成要素を述べるができる。
- 5) 咬合器の分類ができ、特徴を説明できる。
- 6) 支台歯形成の注意点とマージン形態を述べるができる。
- 7) 支台築造の原則を述べるができる。

=====

講義日	時限	国試出題基準
08月07日	2時限	必修-15-ト-a

担当者 會田 雅啓

テーマ： クラウンブリッジ補綴学必修

授業の一般目標： クラウンブリッジ補綴処置における基本的な治療計画の立案を行うことができるようになるために、一般的な治療の手順とそれに沿った臨床術式を理解する。

到達目標 S B O s :

- 1) クラウンブリッジ補綴処置の目的を説明できる。
- 2) クラウンブリッジ補綴処置の基本的な治療手順と臨床術式を説明できる。
- 3) クラウンブリッジ補綴処置の進行に伴う技工作業について説明できる。
- 4) クラウンブリッジ補綴処置の基本的な治療計画が立案できる。

講義日	時限	国試出題基準
08月07日	3時限	必修-1 5-ト-a

担当者 會田 雅啓

テーマ： クラウンブリッジ補綴学必修

授業の一般目標： クラウンブリッジ補綴処置における基本的な治療計画の立案を行うことができるようになるために、一般的な治療の手順とそれに沿った臨床術式を理解する。

到達目標 S B O s :

- 1) クラウンブリッジ補綴処置の目的を説明できる。
- 2) クラウンブリッジ補綴処置の基本的な治療手順と臨床術式を説明できる。
- 3) クラウンブリッジ補綴処置の進行に伴う技工作業について説明できる。
- 4) クラウンブリッジ補綴処置の基本的な治療計画が立案できる。

=====

講義日	時限	国試出題基準
08月07日	4時限	総論-XI-3-ア 総論-XI-2-イ 総論-XI-2-イ 総論-XI-2-ウ 総論-XI-8-ア 総論-XI-8-イ 総論-XI-8-ウ 総論-XI-11-ア

担当者 若見 昌信

テーマ： クラウンブリッジ領域A

授業の一般目標： 補綴診療における器具・器材・材料について理解する。

到達目標 S B O s :

- 1) 1) 切削器具について説明できる。
- 2) 2) クラウンブリッジ修復における材料について説明できる。
- 3) 3) 歯冠修復材料について説明できる。

講義日	時限	国試出題基準
08月07日	5時限	総論-XI-8-ウ 総論-XI-5-ア 総論-XI-12-カ 総論-XI-6-ア 総論-XI-11-ア

担当者 小林 平

テーマ： クラウンブリッジ領域A

授業の一般目標： 歯冠補綴治療を適切に行うために、陶材焼付け鑄造冠の製作に必要な手順と技工操作について学ぶ。

到達目標 S B O s :

- 1) 作業模型の種類を分類できる。
- 2) ワックスアップの埋没の必要事項について説明できる。
- 3) ろう付け操作を説明できる。
- 4) 陶材焼付け鑄造間の製作手順を述べることができる。

=====

講義日	時限	国試出題基準
08月24日	1時限	各論-I-1-オ 各論-I-1-キ

担当者 清水 武彦

テーマ： 小児歯科学・各論（領域B）

授業の一般目標： 小児の歯科疾患の診断および治療ができるようになるために、小児の齲蝕の特徴と齲蝕予防について理解する。

到達目標 S B O s :

- 1) 小児の齲蝕の特徴を説明できる。
- 2) 小児の齲蝕予防について説明できる。
- 3) フッ化物の局所応用について説明できる。
- 4) 小窩裂溝填塞法について説明できる。
- 5) 小児のブラッシング指導について説明できる。

講義日	時限	国試出題基準
08月24日	2時限	各論-Ⅲ-3-ア 各論-Ⅲ-4-ア 各論-Ⅲ-4-イ 各論-Ⅲ-4-ウ 各論-Ⅲ-4-エ

担当者 清水 武彦

テーマ： 小児歯科学・各論（領域B）

授業の一般目標： 小児の歯科疾患の診断および治療ができるようになるために、小児の歯冠修復および歯内療法について説明できる。

到達目標SBOs：

- 1) 小児の歯冠修復について説明できる。
- 2) 既製金属冠について説明できる。
- 3) 乳歯の歯内療法について説明できる。
- 4) 幼若永久歯の歯内療法について説明できる。

=====

講義日	時限	国試出題基準
08月24日	3時限	各論-Ⅱ-5-ウ 各論-Ⅲ-7-ア 総論-X-5-カ 各論-Ⅱ-5-イ 各論-Ⅱ-5-ア

担当者 岡本 京

テーマ： 小児歯科学 領域B（各論）

授業の一般目標： 小児の歯科疾患の診断および治療ができるようになるために、歯周疾患、小児の外傷、乳歯の抜歯について理解する。

到達目標SBOs：

- 1) 小児の歯周疾患について説明できる。
- 2) 小児の外傷について説明できる。
- 3) 小児の抜歯について説明できる。

講義日	時限	国試出題基準
08月24日	4時限	各論-Ⅱ-6-ウ 各論-Ⅱ-6-イ 各論-Ⅱ-6-エ 各論-Ⅱ-6-オ 各論-Ⅱ-3-シ 各論-Ⅳ-6-ア 各論-Ⅳ-6-ウ 各論-Ⅳ-6-エ

担当者 岡本 京

テーマ： 小児歯科学 領域B（各論）

授業の一般目標： 小児の歯科疾患の診断および治療ができるようになるために、口腔粘膜疾患、咬合誘導、小児疾患について理解する。

到達目標 S B O s：

- 1) 歯の形成障害について説明できる。
- 2) 小児の口腔粘膜疾患について説明できる。
- 3) 小児の咬合誘導について説明できる。

=====

講義日	時限	国試出題基準
08月25日	1時限	各論-Ⅱ-7-エ 各論-Ⅱ-7-ウ

担当者 山口 大

テーマ： 歯科矯正学・各論（領域B）

授業の一般目標： 適切な矯正治療を実践するために必要な不正咬合の病態および原因について理解する。

到達目標 S B O s：

- 1) 不正咬合の先天的原因について説明できる。
- 2) 不正咬合の後天的（環境的）原因について説明できる。
- 3) Angle I級、II級、III級不正咬合の特徴を説明できる。
- 4) 顎顔面頭蓋に変形を生じる先天異常とその特徴を列挙できる。

講義日	時限	国試出題基準
08月25日	2時限	各論-Ⅱ-10-タ 各論-Ⅱ-10-シ

担当者 齋藤 勝彦

テーマ： 歯科矯正学各論（領域B）

授業の一般目標： 適切な矯正治療を実践するために、矯正装置の特徴を理解し不正咬合に応じた装置の選択や使用法について習得する。

到達目標SBOs：

- 1) 矯正装置の特徴と構造について説明できる。
- 2) 矯正装置の使用目的を述べることができる。
- 3) 矯正装置の使用方法や注意点を述べることができる。
- 4) 矯正装置による治療前後の変化を説明できる。

=====

講義日	時限	国試出題基準
08月25日	3時限	各論-Ⅱ-9-エ 各論-Ⅱ-9-ア 各論-Ⅱ-9-イ 各論-Ⅱ-9-ウ 各論-Ⅱ-11-ク

担当者 五関 たけみ

テーマ： 歯科矯正学・各論（領域B）

授業の一般目標： 適切な矯正治療を実践するために、矯正治療の流れを理解し矯正力と歯の移動について学ぶ。

到達目標SBOs：

- 1) 矯正治療の流れを説明できる。
- 2) 矯正力の種類とその特徴を説明できる。
- 3) 固定について説明できる。
- 4) 歯の移動様式と生体反応について説明できる。
- 5) 矯正治療における偶発症を説明できる。

講義日	時限	国試出題基準
08月25日	4時限	各論-Ⅱ-1-ア 各論-Ⅳ-1 5-ア 各論-Ⅳ-1 5-オ 各論-Ⅳ-1 5-カ 各論-Ⅳ-1 5-キ 各論-Ⅳ-1 5-ケ 各論-Ⅳ-1 5-コ 各論-Ⅳ-1 5-セ
担当者	梅澤 幸司	

テーマ： 障害者歯科学・各論（領域B）

授業の一般目標： 歯・口腔・顎・顔面の発育を障害する先天異常を理解する。

到達目標 S B O s :

- 1) 各症候群の特徴を述べられる。
- 2) 口腔・顎・顔面に異常を来す症候群について述べられる。
- 3) 症候群と口腔の特徴について述べられる。

=====

講義日	時限	国試出題基準
08月26日	1時限	各論-Ⅲ-8-エ 各論-Ⅲ-8-ア 各論-Ⅲ-8-イ 各論-Ⅲ-8-ウ 各論-Ⅲ-8-カ 各論-Ⅲ-8-キ 各論-Ⅲ-8-ケ
担当者	高井 英樹	

テーマ： 歯周治療学・各論（領域B）

授業の一般目標： 歯周病を治療するために、歯周病の原因、リスクファクター、宿主因子、全身疾患との関わりおよびその特徴と病態を理解する。

到達目標 S B O s :

- 1) 歯周病のリスクファクターを列挙することができる。
- 2) 歯周病の宿主因子について説明することができる。
- 3) 歯周病の環境因子について説明することができる。
- 4) 歯周病の増悪因子について説明することができる。
- 5) 歯周病の病態について説明することができる。

講義日	時限	国試出題基準
08月26日	2時限	各論-Ⅲ-9-イ 各論-Ⅲ-9-ア 各論-Ⅲ-9-ウ 各論-Ⅲ-9-エ 各論-Ⅲ-9-オ 各論-Ⅲ-9-カ 各論-Ⅲ-9-ク

担当者 高井 英樹

テーマ： 歯周治療学・各論（領域B）

授業の一般目標： 歯周病を治療するために、歯周外科治療で行う項目の内容を理解し、歯周外科治療が必要な場合は、その適応と術式を理解する。

到達目標SBOs：

- 1) 歯周基本治療で行う項目を列挙できる。
- 2) 歯周基本治療で行う内容について説明できる。
- 3) 歯周外科治療の種類と適応症について説明できる。
- 4) 歯周外科の術式と使用器具について説明できる。
- 5) 歯周組織再生療法について説明できる。
- 6) 再評価検査の時期と目的を説明できる。

=====

講義日	時限	国試出題基準
08月26日	3時限	各論-Ⅲ-9-コ 各論-Ⅲ-8-オ 各論-Ⅲ-8-コ

担当者 高井 英樹

テーマ： 歯周治療学・各論（領域B）

授業の一般目標： 特殊な歯周病、高齢者および全身疾患を有する患者の歯周治療について理解する。

到達目標SBOs：

- 1) 特殊な歯周病の治療について説明できる。
- 2) 全身疾患を有する患者の歯周治療の注意点について説明できる。
- 3) 高齢者の歯周治療について説明できる。

講義日	時限	国試出題基準
08月26日	4時限	必修-3-ア-f 各論-I-6-オ 各論-I-6-カ

担当者 田口 千恵子

テーマ： 歯科健康教育

授業の一般目標： 健康保持・増進のための診断、教育、支援について習得する。

到達目標SBOs：

- 1) 健康づくりについて説明できる。
- 2) 健康教育について説明できる。

=====

講義日	時限	国試出題基準
08月26日	5時限	各論-I-7-ア 必修-3-ア-d 必修-3-ア-e 各論-I-7-イ 各論-I-7-エ

担当者 田口 千恵子

テーマ： 食品保健・食品栄養

授業の一般目標： 健康管理・増進とその予防のために栄養と食品保健を学ぶ。

到達目標SBOs：

- 1) 国民栄養の現状について説明できる。
- 2) 食事摂取基準について説明できる。

講義日	時限	国試出題基準
08月27日	1時限	各論-Ⅲ-5-イ 各論-Ⅲ-5-ア 各論-Ⅲ-5-ウ 各論-Ⅲ-5-エ 各論-Ⅲ-5-オ 各論-Ⅲ-5-カ 各論-Ⅲ-5-キ

担当者 松島 潔

テーマ： 歯内療法学・各論（領域B）

授業の一般目標： 歯髄・根尖歯周組織疾患を適切に診断・治療できるようになるために、歯髄・根尖歯周疾患の原因・病態・症候を習得する。

到達目標 S B O s：

- 1) 歯髄・根尖歯周組織の原因を説明できる。
- 2) 歯髄・根尖歯周組織の病態およびその変化を説明できる。
- 3) 歯髄・根尖歯周組織の症候の変化を説明できる。
- 4) 象牙質知覚過敏症の病態を説明できる。
- 5) 歯内一歯周疾患を説明できる。
- 6) 外傷歯の病態を説明できる。
- 7) 歯根吸収を説明できる。

講義日	時限	国試出題基準
08月27日	2時限	各論-Ⅲ-5-イ 各論-Ⅲ-5-ウ 各論-Ⅲ-5-ウ 各論-Ⅲ-5-キ

担当者 岡部 達

テーマ： 歯内療法学・各論（領域B）

授業の一般目標： 歯髄・根尖性歯周疾患の適切な診療をするために、歯髄・根尖性歯周疾患の症候、検査を理解する。

到達目標 S B O s：

- 1) 歯髄・根尖性歯周疾患の症候の変化を説明できる。
- 2) 歯髄・根尖性歯周疾患の主訴を説明できる。
- 3) 歯髄・根尖性歯周疾患の検査の意図を説明できる。
- 4) 歯髄・根尖性歯周疾患の検査を選択できる。
- 5) 歯髄・根尖性歯周疾患の診断プロセスを説明できる。
- 6) 歯髄・根尖性歯周疾患の処置方針を説明できる。
- 7) 鑑別診断を説明できる。

講義日	時限	国試出題基準
08月27日	3時限	各論-Ⅲ-6-エ 各論-Ⅲ-6-ウ 各論-Ⅲ-6-イ 各論-Ⅲ-6-オ 各論-Ⅲ-6-カ 各論-Ⅲ-6-キ

担当者 神尾 直人

テーマ： 歯内療法学 領域B（各論）

授業の一般目標： 歯髄・根尖性歯周疾患の適切な診療をするために、歯内療法の基本、術式の基本、器具、材料および治癒機転を理解する。

到達目標SBOs：

- 1) 歯内療法の原則を説明できる。
- 2) 歯内療法の術式を説明できる。
- 3) 歯内療法の器具、材料を説明できる。
- 4) 歯内療法における高齢者に対する配慮を説明できる。
- 5) 顕微鏡を用いた歯内療法を説明できる。

=====

講義日	時限	国試出題基準
08月28日	1時限	各論-Ⅲ-2-オ 各論-Ⅲ-2-カ 各論-Ⅲ-3-キ 各論-Ⅲ-5-ア 各論-Ⅲ-6-ア

担当者 鈴木 英明

テーマ： 保存修復学・各論（領域B）

授業の一般目標： 破折や変色が生じた歯に対して適切な処置が行えるようになるために、その原因と診断および対処法について理解する。

到達目標SBOs：

- 1) 歯の破折の検査法と診断について説明できる。
- 2) 歯の変色・着色について説明できる。
- 3) 歯の変色・着色への対処法とその術式について説明できる。
- 4) 象牙質知覚過敏症の臨床的特徴とその処置方針について説明できる。

講義日	時限	国試出題基準
08月28日	2時限	各論-Ⅲ-2-ア 各論-Ⅲ-2-イ 各論-Ⅲ-2-ウ 各論-Ⅲ-2-エ 各論-Ⅲ-3-オ

担当者 平山 聡司

テーマ： 保存修復学（各論）：齲蝕と歯の損耗

授業の一般目標： 齲蝕やTooth wearにより生じた歯の硬組織欠損に対して適切な処置が行えるようになるために、その原因と診断および対処法について理解する。

到達目標 S B O s：

- 1) エナメル質齲蝕の特徴と進行について説明できる。
- 2) 象牙質齲蝕の特徴と進行について説明できる。
- 3) セメント質齲蝕の特徴と進行について説明できる。
- 4) 齲蝕の除去に必要な器具とその術式について説明できる。
- 5) 脱灰歯質の再石灰化について説明できる。
- 6) 齲蝕のリスクファクターについて説明できる。
- 7) Tooth wear（歯の損耗）による歯の硬組織疾患の種類とその特徴について説明できる。
- 8) 高齢者の齲蝕の特徴について説明できる。

=====

講義日	時限	国試出題基準
08月28日	3時限	各論-Ⅲ-3-イ 各論-Ⅲ-3-エ 各論-Ⅲ-3-オ 各論-Ⅲ-3-カ

担当者 平山 聡司

テーマ： 保存修復学（各論）：MI Dentistryと接着修復

授業の一般目標： 歯の欠損に対して適切な接着修復を行うために、Minimal Intervention (MI) Dentistryに基づいた窩洞形成法、歯質接着メカニズムおよび接着操作について理解する。

到達目標 S B O s：

- 1) MI Dentistryについて説明できる。
- 2) コンポジットレジン修復法の特徴と適応症について説明できる。
- 3) コンポジットレジン修復における歯質接着性について説明できる。
- 4) 接着修復法の臨床術式と操作上の要点について説明できる。
- 5) 重合収縮応力の発生とその緩和方法について説明できる。
- 6) 補修修復に必要な処理材とその術式について説明できる。
- 7) コンポジットレジン修復後の保全について説明できる。
- 8) グラスアイオノマーセメント修復の特徴と適応症について説明できる。

講義日	時限	国試出題基準
08月28日	4時限	各論-Ⅲ-3-ウ 各論-Ⅲ-3-エ 各論-Ⅲ-3-オ

担当者 平山 聡司

テーマ： 保存修復学（各論）：間接修復法

授業の一般目標： 実質欠損が生じた歯の機能を回復するために、間接修復法に関する適応症、窩洞の具備条件、印象採得、インレー体の作製および装着法について理解する。

到達目標 S B O s：

- 1) 各種間接修復法の特徴と適応症について説明できる。
- 2) メタルインレー修復とセラミックインレー修復窩洞の特徴について説明できる。
- 3) レジンコーティング法の目的とその術式について説明できる。
- 4) 窩洞形成後の印象採得と仮封について説明できる。
- 5) セラミックインレー体の作製方法とその特徴について説明できる。
- 6) インレー体装着時のインレー体内面処理について説明できる。
- 7) 歯科用セメントの種類とその特徴について説明できる。
- 8) 間接修復法の予後とその対処法について説明できる。

=====

講義日	時限	国試出題基準
09月02日	1時限	各論-V-5-ア 各論-V-5-キ

担当者 大久保 昌和

テーマ： 部分床義歯各論 領域C（各論）

授業の一般目標： 咬合支持の喪失による咬合・咀嚼障害の診断と治療ができるようになるために、部分床義歯の構成要素を理解する。

到達目標 S B O s：

- 1) 連結装置の種類と特性について説明することができる。
- 2) 部分床義歯のフレームワークについて説明できる。
- 3) アタッチメントの種類と特性について説明することができる。

講義日	時限	国試出題基準
09月02日	2時限	各論-V-2-カ 各論-V-5-イ 各論-V-5-ス 各論-V-5-セ 各論-V-5-ア

担当者 大久保 昌和

テーマ： 部分床義歯各論 領域C（各論）

授業の一般目標： 部分床義歯による補綴治療を適正に行うために、臨床術式を理解する。

到達目標SBOs：

- 1) 口腔内前処置について説明することができる。
- 2) 部分床義歯製作のための支台歯の前処置について説明することができる。
- 3) 部分床義歯製作のための印象法について説明することができる。
- 4) 完成部分床義歯の口腔内装着と患者指導について説明することができる。

=====

講義日	時限	国試出題基準
09月02日	3時限	各論-V-5-カ 各論-V-5-ア 各論-V-5-キ

担当者 神谷 和伸

テーマ： 部分床義歯 領域C（各論）

授業の一般目標： 部分床義歯の適切な治療方針の決定を行うことができるようになるために、1歯欠損から1歯残存までの部分欠損歯列を診査・診断し、診療手順の立案を理解する。

到達目標SBOs：

- 1) サベイングの目的について説明することが出来る。
- 2) サベイングの術式について説明することが出来る。
- 3) 部分床義歯の構成要素を列記説明することができる。
- 4) 部分床義歯の構成要素とその働きを説明することができる。

講義日	時限	国試出題基準
09月02日	4時限	各論-V-5-ア 各論-V-5-ウ

担当者 神谷 和伸

テーマ： 部分床義歯 領域C（各論）

授業の一般目標： 部分床義歯における咬合・咀嚼障害の診断、治療ができるようになるために各段階の治療計画に沿うようにすべての因子を理解し、部分床義歯の構成を理解する。

到達目標SBOs：

- 1) 模型の種類と特徴について説明することができる。
- 2) 作業模型に対する処置について説明することができる。
- 3) クラスプの種類とその特性を説明することができる。
- 4) クラスプの具備条件を説明することができる。

=====

講義日	時限	国試出題基準
09月03日	1時限	各論-V-4-ウ 各論-V-4-エ 各論-V-4-オ 各論-V-4-カ 各論-V-4-キ

担当者 大村 祐史

テーマ： クラウンブリッジ各論C領域

授業の一般目標： 生体と調和し、失われた機能を回復できる補綴物を装着するために必要な知識を整理し理解する。

到達目標SBOs：

- 1) クラウンブリッジの前処置について理解することができる。
- 2) 支台築造について理解することができる。
- 3) 歯肉圧排について理解することができる。
- 4) 支台歯形成について理解することができる。
- 5) プロビジョナルレストレーションについて理解することができる。
- 6) 印象材の種類と所要性質について理解することができる。
- 7) 各種印象法を分類でき特長が述べられる。
- 8) 咬合採得の方法と手順を述べることができる。
- 9) 作業模型の構成要素と要件を述べることができる。
- 10) 作業模型の種類と特徴を述べることができる。

講義日	時限	国試出題基準
09月03日	2時限	各論-V-4-ス 各論-V-4-ケ 各論-V-4-サ 各論-V-4-シ 各論-V-4-セ 各論-V-4-ソ

担当者 大村 祐史

テーマ： クラウンブリッジ各論C領域

授業の一般目標： 生体と調和し、失われた機能を回復できる補綴物を装着するために必要な知識を整理し理解する。

到達目標SBOs：

- 1) 咬合器への装着方法と調節方法について述べるができる。
- 2) 歯科用ワックスの特徴とろう型形成の方法について述べるができる。
- 3) 埋没材と埋没方法について述べるができる。
- 4) 鋳造法の種類と方法について述べるができる。
- 5) 金属の連結法について述べるができる。
- 6) 作製したクラウンブリッジの試適調整方法について述べるができる。
- 7) 作製したクラウンブリッジの仮着の意義を述べるができる。
- 8) 作製したクラウンブリッジの合着について述べるができる。
- 9) 装着したクラウンブリッジの術後管理について述べるができる。

=====

講義日	時限	国試出題基準
09月03日	3時限	各論-V-4-ア 各論-V-3-キ 各論-V-3-ク 各論-V-4-ウ 各論-V-4-オ

担当者 若見 昌信

テーマ： クラウンブリッジ領域C各論

授業の一般目標： 咬合機能回復に必要な治療計画立案を身につけるために、歯冠修復物の種類と特徴を知る。

到達目標SBOs：

- 1) 1) 全部被覆冠の種類と特徴を説明できる。
- 2) 2) 部分被覆冠の種類と特徴を説明できる。
- 3) 3) 歯冠継続歯の種類と特徴を説明できる。

講義日	時限	国試出題基準
09月03日	4時限	各論-V-4-イ 各論-V-4-ア 各論-V-4-シ 各論-V-4-ス 各論-V-4-セ

担当者 若見 昌信

テーマ： クラウンブリッジC領域各論

授業の一般目標： ブリッジの構造および維持形式による分類を理解し、治療計画の立案を理解する。

到達目標 S B O s :

- 1)ブリッジの構成を述べることができる。
- 2)ブリッジの維持形式による分類、適応症を述べることができる。
- 3)ポンティック基底面形態の種類及び特徴を述べることができる。
- 4)ブリッジの設計を行うことができる。
- 5)ブリッジの製作過程について説明できる。

=====

講義日	時限	国試出題基準
09月04日	1時限	各論-V-1-ア 各論-V-6-キ 各論-V-6-ク 各論-V-6-コ

担当者 矢崎 貴啓

テーマ： 全部床義歯学・各論 領域C

授業の一般目標： 無歯顎患者の診断と治療ができるようになるために、全部床義歯の治療手順とその理論的背景を理解する。

到達目標 S B O s :

- 1)全部床義歯の咬合様式について説明することができる。
- 2)全部床義歯の咬合平衡について説明することができる。
- 3)全部床義歯の咬合調整の理論を説明することができる。
- 4)歯肉（歯齦）形成の意義を説明することができる。
- 5)発音機能の診査方法について説明することができる。
- 6)蠟（仮床）義歯試適の診査項目を列挙し、説明することができる。
- 7)義歯床用材料を列挙し、説明することができる。
- 8)義歯の種類を目的により分類し、説明することができる。

講義日	時限	国試出題基準
09月04日	2時限	各論-V-1-ア 各論-V-6-サ 各論-V-6-シ 各論-V-10-ウ 各論-V-10-キ

担当者 矢崎 貴啓

テーマ： 全部床義歯学・各論 領域C

授業の一般目標： 無歯顎患者の診断と治療ができるようになるために、全部床義歯の治療手順とその理論的背景を理解する。

到達目標SBOs：

- 1) 全部床義歯装着時の診査項目を列挙し、説明することができる。
- 2) 全部床義歯のリマウントの目的とその方法について述べることができる。
- 3) 全部床義歯装着時の患者指導の項目を列挙し、説明することができる。
- 4) 全部床義歯の短期的および長期的管理について説明することができる。
- 5) 全部床義歯の術後トラブルを列挙し、説明することができる。
- 6) 全部床義歯のリラインとリベースについて説明することができる

=====

講義日	時限	国試出題基準
09月04日	3時限	各論-V-4-ア 各論-V-4-ウ 各論-V-3-キ 総論-XI-11-エ

担当者 小林 平

テーマ： クラウンブリッジ領域C各論

授業の一般目標： 最新の歯冠補綴治療を行うために、CAD/CAM応用の歯冠補綴装置の製作方法を学ぶ。

到達目標SBOs：

- 1) CAD/CAM応用の歯冠補綴装置の理論を説明できる。
- 2) CAD/CAM応用の歯冠補綴装置の種類を述べることができる。
- 3) CAD/CAM応用の歯冠補綴装置に用いる材料を述べることができる。

講義日	時限	国試出題基準
09月04日	4時限	各論-V-3-ク 各論-V-3-イ 各論-V-3-キ 各論-V-2-エ

担当者 小林 平

テーマ： クラウンブリッジ領域C各論

授業の一般目標： 最新の歯冠補綴治療を行うために、審美的な治療方法とデジタルデンティストリーの治療方法について述べることができる。

到達目標SBOs：

- 1) デジタルデンティストリーに必要な機材を述べることができる。
- 2) デジタルデンティストリーの将来性について述べることができる。
- 3) デジタルデンティストリーの治療方法について述べることができる。

=====

講義日	時限	国試出題基準
09月05日	1時限	各論-V-6-イ 各論-V-6-ウ

担当者 中田 浩史

テーマ： 歯科補綴学（全部床義歯）領域C

授業の一般目標： 総義歯患者の診断と治療ができるために、総義歯の治療手順とその理論的背景を理解する。

到達目標SBOs：

- 1) 総義歯治療に必要な下顎運動を述べることができる。
- 2) 総義歯の臨床ステップの概要を理解することができる。
- 3) 総義歯の治療に用いる印象材の種類と印象方法について述べることができる。
- 4) 作業模型上で行う操作を説明することができる。

講義日	時限	国試出題基準
09月05日	2時限	各論-V-6-エ 各論-V-6-オ 各論-V-6-カ

担当者 中田 浩史

テーマ： 歯科補綴学（全部床義歯）領域C

授業の一般目標： 総義歯患者の診断と治療ができるために、総義歯の治療手順とその理論的背景を理解する。

到達目標SBOs：

- 1) 仮想咬合平面の設定を説明することができる。
- 2) 垂直的顎の対向関係位の設定を説明することができる。
- 3) 水平的顎の対向関係位の設定を説明することができる。
- 4) フェイスボウトランスファーを説明することができる。
- 5) 咬合器への模型の付着と調整について述べるすることができる。
- 6) 人工歯の選択基準、排列方法について述べるすることができる。

=====

講義日	時限	国試出題基準
09月07日	1時限	各論-V-8-オ

担当者 玉木 大之

テーマ： 口腔インプラント学 領域C（各論）

授業の一般目標： 欠損補綴の回復方法を適切に患者に供給するために、インプラント治療に関する基本的知識を修得する。

到達目標SBOs：

- 1) インプラント外科処置について説明できる。

講義日	時限	国試出題基準
09月07日	2時限	各論-V-8-ケ 各論-V-8-イ 各論-V-8-キ 各論-V-8-コ 各論-V-8-ク 各論-V-8-カ 各論-V-8-サ

担当者 北川 剛至

テーマ： 口腔インプラント学 領域C（各論）

授業の一般目標： 欠損補綴の回復方法を適切に患者に供給するために、インプラント治療に関する基本的知識を修得する。

到達目標SBOs：

- 1) インプラントの補綴術式を説明する。
- 2) インプラント上部構造の種類・固定方法を説明する。
- 3) インプラント補綴処置に関する合併症を説明する。

=====

講義日	時限	国試出題基準
09月07日	3時限	各論-VI-15-ア 各論-VI-16-ア-c 各論-VI-16-イ-a 各論-VI-16-イ-b 各論-VI-16-イ-c

担当者 野本 たかと

テーマ： 障害者歯科学・各論（領域C）

授業の一般目標： 口腔リハビリテーションが行えるようになるために、加齢による口腔機能の変化を理解する。

到達目標SBOs：

- 1) 摂食・嚥下機能の加齢変化について述べられる。
- 2) 口腔のリハビリテーションについて説明できる。
- 3) 嚥下障害の診査・検査について述べられる。
- 4) 間接訓練、直接訓練を説明できる。
- 5) 舌接触補助床について述べられる。

講義日	時限	国試出題基準
09月08日	1時限	各論-V-4-ケ

担当者 小見山 道

テーマ： 咬合器とチェックバイト、ゴシックアーチ

授業の一般目標： 補綴歯科臨床の診査、診断、治療を適切に行うために、下顎運動と咬合の概念を理解する。

到達目標SBOs：

- 1) チェックバイトを説明できる。
- 2) 半調節性咬合器のプログラミングを説明できる。
- 3) ゴシックアーチ描記法を説明できる。
- 4) パントグラフ描記法と全調節性咬合器のプログラミングを説明できる。
- 5) 前方誘導要素と後方誘導要素の咬合面に及ぼす影響を説明できる。

=====

講義日	時限	国試出題基準
09月08日	2時限	各論-V-1-キ

担当者 小見山 道

テーマ： 歯科と睡眠関連疾患

授業の一般目標： 歯科に関連する睡眠関連疾患に対応できるようになるために、睡眠時ブラキシズムと睡眠時無呼吸症候群を理解する。

到達目標SBOs：

- 1) 睡眠時ブラキシズムの特徴を説明できる。
- 2) 睡眠時ブラキシズムへの対応を説明できる。
- 3) 睡眠時無呼吸症候群の特徴を説明できる。
- 4) 睡眠時無呼吸症候群への対応を説明できる。
- 5) マウスガードによる歯・口腔の外傷予防について説明できる。

講義日	時限	国試出題基準
09月08日	3時限	各論-VI-10-ア

担当者 小見山 道

テーマ： 高齢者の歯科治療と神経疾患

授業の一般目標： 高齢者に対する歯科治療を円滑に行うために、顎・顔面領域の神経疾患の特徴を理解する。

到達目標 S B O s :

- 1) 舌痛症の病態を説明できる。
- 2) 舌痛症の鑑別診断方法について説明できる。
- 3) 舌痛症の治療を説明できる。
- 4) 口腔ジスキネジアの病態とその対応を説明できる。
- 5) 口腔心身症の病態を説明できる。
- 6) 口腔領域に症状を発現する心因性疾患を説明できる。
- 7) 気分障害、双極性障害、不安障害、統合失調症、解離性障害、身体症状症の病態を説明できる。

=====

講義日	時限	国試出題基準
09月12日	1時限	各論-IV-16-イ 各論-IV-16-イ

担当者 福本 雅彦

テーマ： 感染症

授業の一般目標： 細菌・ウイルス感染により口腔症状を呈する疾患を呈する疾患を診断するためにその検査法を学習する。

到達目標 S B O s :

- 1) 感染症・炎症の診断に用いられる臨床検査項目を列挙できる。
- 2) 梅毒の臨床経過と臨床検査項目を列挙できる。
- 3) 結核の臨床経過と臨床検査項目を列挙できる。
- 4) 成人T細胞性白血病の臨床経過と臨床検査項目を列挙できる。
- 5) ウイルス性肝炎の臨床経過と臨床検査項目を列挙できる。
- 6) HIV感染の臨床経過と臨床検査項目を列挙できる。

講義日	時限	国試出題基準
09月12日	2時限	各論-IV-1 6-エ 各論-IV-1 6-オ

担当者 福本 雅彦

テーマ： 自己免疫疾患

授業の一般目標： 免疫反応により口腔症状を呈する疾患を理解するためにその臨床的特徴と原因を理解する。

到達目標 S B O s :

- 1) 自己免疫疾患の臨床検査所見を述べることができる。
- 2) 特発性血小板減少性紫斑病の臨床的特徴を列挙できる。
- 3) 天疱瘡の臨床的特徴を列挙できる。
- 4) GVHDの臨床的特徴を列挙できる。

=====

講義日	時限	国試出題基準
09月12日	3時限	各論-IV-1 6-キ

担当者 福本 雅彦

テーマ： 白血病

授業の一般目標： 白血病により口腔症状を呈する疾患を理解するためにその臨床的特徴と原因を学習する。

到達目標 S B O s :

- 1) 白血病の臨床検査所見を述べることができる。
- 2) 白血病の臨床経過を述べることができる。

講義日	時限	国試出題基準
09月14日	1時限	各論-IV-1 7-キ 各論-IV-1 6-キ

担当者 上 真奈

テーマ： 出血性素因

授業の一般目標： 有病者の歯科治療を安全に行うために、出血性素因の診断に必要な検査項目について理解する。

到達目標 S B O s :

- 1) 血液凝固機序を述べることができる。
- 2) 出血性素因を調べるための検査項目を述べることができる。

=====

講義日	時限	国試出題基準
09月14日	2時限	各論-IV-1 6-キ 各論-IV-1 7-キ

担当者 上 真奈

テーマ： 出血性素因

授業の一般目標： 有病者の歯科治療を安全に行うために、出血性素因の原因や症状について理解する。

到達目標 S B O s :

- 1) 出血性素因の疾患を述べることができる。
- 2) 出血性素因の原因と臨床症状を述べることができる。

講義日 時限 国試出題基準
09月14日 3時限 各論-IV-1 6-キ

担当者 深津 晶

テーマ： 貧血

授業の一般目標： 口腔領域に特徴的な症状を呈しかつ歯科治療に影響を及ぼす全身疾患、特に貧血について理解する。

到達目標SBOs：

- 1) 貧血の定義が述べられる。
- 2) 貧血を調べるための検査項目およびその意義を述べられる。
- 3) 貧血に伴う特徴的な症状が述べられる。
- 4) 貧血の治療方法が述べられる。

=====

講義日 時限 国試出題基準
09月14日 4時限 各論-IV-1 4-ス

担当者 内田 貴之

テーマ： 領域C：各論：顎関節疾患1

授業の一般目標： 顎関節疾患と顎関節疾患に類似した疾患との鑑別および適切な治療方針の決定ができるようになるために、診断法および治療法を理解する。

到達目標SBOs：

- 1) 顎関節疾患の特徴が説明できる。
- 2) 顎関節疾患に類似した疾患を列挙できる。
- 3) 顎関節疾患の診断法を説明できる。
- 4) 顎関節疾患の治療法を説明できる。

講義日	時限	国試出題基準
09月14日	5時限	各論-IV-1 4-サ

担当者 内田 貴之

テーマ： 領域C：各論：顎関節疾患 2

授業の一般目標： 顎関節症を診断し、治療方針を決定できるようになるために、顎関節症の病態および診
査、診断ならびに適切な治療法を理解する。

到達目標 S B O s：

- 1) 顎関節疾患における顎関節症の位置づけを説明できる。
- 2) 顎関節症の各病態を説明できる。
- 3) 顎関節症の治療手順を説明できる。
- 4) 顎関節症の治療方法を説明できる。
- 5) 顎関節症治療におけるスプリント治療について説明できる。

=====

講義日	時限	国試出題基準
09月15日	1時限	総論-VIII-5-ア 各論-VI-1 3-ア 各論-VI-1 3-ウ 各論-VI-1 3-カ

担当者 山口 秀紀

テーマ： 高齢者・妊婦の歯科治療

授業の一般目標： 高齢者および妊婦に対し、安全な歯科治療を行うために留意すべき事項について理解する。

到達目標 S B O s：

- 1) 高齢者の身体的特徴について説明できる。
- 2) 高齢者に対する局所麻酔時の注意点について説明できる。
- 3) 妊婦の歯科治療時の体位管理について説明できる。
- 4) 妊婦への局所麻酔時の注意点について説明できる。
- 5) 妊婦への薬物投与に関する注意点について説明できる。

講義日	時限	国試出題基準
09月15日	2時限	各論-IV-1 7-ア 各論-IV-1 7-ク 総論-VIII-6-ア 必修-1 5-ホ-b 必修-1 1-ウ-c

担当者 鈴木 正敏

テーマ： 呼吸器・内分泌・代謝系疾患

授業の一般目標： 呼吸器、内分泌および代謝系疾患の合併する患者の歯科治療を安全に行うために、全身状態の評価と歯科治療時の対応について理解する。

到達目標 S B O s :

- 1) 1) 歯科治療時に全身管理が必要な呼吸器疾患を述べることができる。
- 2) 2) 呼吸器疾患を有する患者の術前評価について述べることができる。
- 3) 3) 喘息患者の緊急合併症発症時の対応について述べることができる。
- 4) 4) 歯科治療時に全身管理が必要な代謝性疾患を述べることができる。
- 5) 5) 糖尿病患者の術前評価について述べることができる。
- 6) 6) 糖尿病患者に対する歯科治療時の注意点を述べることができる。
- 7) 7) 糖尿病患者の低血糖および高血糖発作時の対応について述べることができる。

=====

講義日	時限	国試出題基準
09月15日	3時限	各論-IV-1 6-エ 各論-IV-1 7-ク 総論-VIII-6-イ 必修-9-ア-a 必修-1 1-ウ-c 必修-1 5-ホ-b

担当者 鈴木 正敏

テーマ： 甲状腺・副甲状腺疾患

授業の一般目標： 内分泌疾患を合併する患者の歯科治療を行うために、全身状態の評価と歯科治療時の対応について理解する。

到達目標 S B O s :

- 1) 甲状腺疾患の種類と特徴について述べることができる。
- 2) 甲状腺疾患を有する患者の歯科治療時の注意点について述べることができる。
- 3) 副甲状腺疾患の種類と特徴について述べることができる。
- 4) 副甲状腺疾患を有する患者の歯科治療時の注意点について述べることができる。

講義日	時限	国試出題基準
09月15日	4時限	総論-X-6-ア 総論-X-6-イ 必修-15-コ-a 各論-IV-18-ウ 各論-IV-18-オ 各論-IV-18-カ

担当者 卯田 昭夫

テーマ： 局所麻酔法

授業の一般目標： 安全で快適な歯科治療を行うために、局所麻酔法の種類、特徴について理解する。

到達目標 S B O s：

- 1) 局所麻酔薬の作用機序を説明できる。
- 2) 局所麻酔薬の種類を説明することができる。
- 3) 局所麻酔薬の全身への影響を説明できる。
- 4) 局所麻酔薬中毒について、原因と対処法について説明することができる。
- 5) 血管収縮薬の添加目的を説明することができる。
- 6) 血管収縮薬の種類を説明することができる。
- 7) 血管収縮薬の薬物相互作用を説明できる。
- 8) アドレナリン過敏症について、原因と対処法について説明することができる。

=====

講義日	時限	国試出題基準
09月15日	5時限	各論-IV-18-ア 各論-IV-18-イ 各論-IV-18-ウ 各論-IV-18-エ 各論-IV-18-オ 各論-IV-18-カ 各論-IV-18-ア 各論-IV-18-ウ

担当者 卯田 昭夫

テーマ： 局所麻酔時の偶発症

授業の一般目標： 安全で快適な歯科治療を行うために、全身的偶発症、特に局所麻酔時発症しやすい全身的偶発症とその対応、予防について理解する。

到達目標 S B O s：

- 1) 血管迷走神経反射について説明することができる。
- 2) 血管迷走神経反射の対応と予防について説明することができる。
- 3) 過換気症候群の対応と予防について説明することができる。
- 4) 局所麻酔薬中毒発症時の対応と予防について説明することができる。
- 5) アナフィラキシーショックについて説明することができる。
- 6) アナフィラキシーショック発症時の対応について説明することができる。
- 7) 精神鎮静法の概念について説明することができる。

講義日	時限	国試出題基準
09月16日	1時限	各論-IV-9-オ

担当者 小椋 一朗

テーマ： 放射線学・各論（領域C）

授業の一般目標： 将来、歯科医師として顎顔面領域の画像検査法の適切な選択および画像診断ができるようになるために、炎症および外傷の特徴的な画像所見を学ぶ。

到達目標SBOs：

- 1) 炎症の特徴的な画像所見を説明できる。
- 2) 外傷の特徴的な画像所見を説明できる。

=====

講義日	時限	国試出題基準
09月16日	2時限	各論-IV-11-ア

担当者 小椋 一朗

テーマ： 放射線学・各論（領域C）

授業の一般目標： 将来、歯科医師として顎顔面領域の画像検査法の適切な選択および画像診断ができるようになるために、嚢胞および腫瘍の特徴的な画像所見を学ぶ。

到達目標SBOs：

- 1) 嚢胞の特徴的な画像所見を説明できる。
- 2) 腫瘍の特徴的な画像所見を説明できる。

講義日 時限
09月16日 3時限

担当者 大峰 浩隆

テーマ： 唇顎口蓋裂 C領域（各論）

授業の一般目標： 顎口腔領域の疾患について理解するために、先天奇形を主徴とする疾患について学習する。

到達目標 S B O s :

- 1) 口唇・口蓋裂及び類似疾患の病態について説明することができる。
- 2) 口唇・口蓋裂の治療計画について説明することができる。
- 3) 口唇・口蓋裂児への哺乳指導について説明することができる。
- 4) 口唇・口蓋裂の手術法について説明することができる。
- 5) 鼻咽腔閉鎖不全について説明することができる。

=====

講義日	時限	国試出題基準
09月16日	4時限	各論-IV-7-ア

担当者 大峰 浩隆

テーマ： 顎変形症 C領域（各論）

授業の一般目標： 顎口腔領域の疾患について理解するために、変形を主徴とする疾患について学習する。

到達目標 S B O s :

- 1) 顎変形症の治療法について説明することができる。
- 2) 顔面の異常を伴う症候群について説明することができる。
- 3) Down症候群について説明することができる。
- 4) 口腔・顔面の異常を示す代謝・内分泌疾患について説明することができる。

講義日	時限	国試出題基準
09月16日	5時限	各論-IV-13-ウ 各論-IV-13-イ 各論-IV-13-エ 各論-IV-13-キ 各論-IV-13-ク 各論-IV-13-ケ 各論-IV-13-コ 各論-IV-13-サ
担当者	牧山 康秀	

テーマ： 口腔顎顔面の神経疾患（領域C・各論）

授業の一般目標： 口腔顎顔面領域の神経疾患について概要を理解する

到達目標SBOs：

- 1) 舌咽神経痛を診断できる
- 2) 複合性局所疼痛症候群を説明できる
- 3) 口腔ジスキネジアを説明できる
- 4) 非定型歯痛を説明できる
- 5) 片側顔面痙攣の診断と治療を説明できる

=====

講義日	時限	国試出題基準
09月17日	1時限	各論-IV-6-オ 各論-IV-6-キ 各論-IV-6-チ 各論-IV-6-ツ 各論-IV-6-テ 各論-IV-6-ト 各論-IV-11-キ 各論-IV-11-ケ
担当者	伊藤 耕	

テーマ： 口腔外科 各論

授業の一般目標： 口腔粘膜ならびに前癌病変、主要類似疾患の診断と治療ができるようになるために、診断法、治療法について理解する。

到達目標SBOs：

- 1) 口腔粘膜疾患とその類似疾患の診断、病態について述べることができる。
- 2) 舌炎、口唇炎および類似疾患の診断、病態について述べることができる。
- 3) 前癌病変の定義について説明することができる。
- 4) 白板症と紅板症の診断法、病態について説明することができる。
- 5) 前癌病変を説明し、その疾患名を挙げられる。
- 6) エプーリスの分類法と治療法について説明できる。
- 7) 顎骨の骨隆起と骨腫の鑑別診断と治療の必要性の有無について判定できる。
- 8) 線維性異形成症の病態と治療法について述べることができる。
- 9) Langerhans細胞組織球腫の分類、病態および診断法について述べることができる。

講義日	時限	国試出題基準
09月17日	2時限	各論-IV-6-ア 各論-IV-6-イ 各論-IV-6-ク 各論-IV-6-タ

担当者 伊藤 耕

テーマ： 口腔外科 各論

授業の一般目標： 全身疾患を合併する患者の歯科治療をできるようになるために、全身疾患の口腔内症状について理解する。

到達目標 S B O s :

- 1) ウイルス性感染症とその口腔内症状について述べることができる。
- 2) 細菌感染症とその口腔内症状について述べることができる。
- 3) 免疫異常とその口腔内症状について述べることができる。
- 4) 内分泌障害・代謝障害とその口腔内症状について述べることができる。
- 5) 栄養障害とその口腔内症状について述べることができる。
- 6) 心因性病態について述べることができる。
- 7) 薬物の副作用について述べることができる。

=====

講義日	時限	国試出題基準
09月17日	3時限	各論-IV-8-ア 各論-IV-2-ア 各論-IV-2-イ 各論-IV-8-イ 各論-IV-8-ウ 各論-IV-8-エ 各論-IV-8-オ 各論-IV-8-カ

担当者 伊藤 耕

テーマ： 口腔外科 各論

授業の一般目標： 適切な口腔外科治療を行うために、口腔領域の損傷の適切な診断法を習得する。

到達目標 S B O s :

- 1) 顔面・口腔領域軟組織損傷の概念を説明し、適切な診断ができる。
- 2) 歯牙の脱臼、破折の適切な診断ができる。
- 3) 顎顔面骨骨折の特徴的な骨折様式を説明し、適切な診断ができる。

講義日	時限	国試出題基準
09月17日	4時限	各論-IV-2-ア 各論-IV-2-イ 各論-IV-2-ウ

担当者 伊藤 耕

テーマ： 口腔外科 各論

授業の一般目標： 適切な口腔外科治療を行うために、口腔領域の損傷による合併症と治療法を習得する。

到達目標 S B O s：

- 1) 軟組織損傷の治療法を説明し適切な対応ができる。
- 2) 顎顔面骨折に対する各種処置法を説明し適切な治療方針を述べることができる。
- 3) 合併症の診断法および治療法を説明し適切な対応がとれる。

=====

講義日	時限	国試出題基準
09月17日	5時限	各論-IV-10-ア 各論-IV-10-イ 各論-IV-10-ウ 各論-IV-10-エ 各論-IV-10-オ

担当者 萩原 美緒

テーマ： 口腔外科 各論

授業の一般目標： 歯源性腫瘍、非歯源性腫瘍を診断し、治療方針を決定できるようになるために、各歯源性腫瘍・非歯源性腫瘍の特徴を理解する。

到達目標 S B O s：

- 1) 歯源性腫瘍・非歯源性腫瘍の特徴を述べることができる。
- 2) 各疾患のエックス線像の特徴を述べることができる。
- 3) 歯源性腫瘍・非歯源性腫瘍を診断できる。
- 4) 歯源性腫瘍・非歯源性腫瘍の治療法について述べることができる。
- 5) 歯源性腫瘍・非歯源性腫瘍の予後について述べることができる。
- 6) 他の疾患（炎症性疾患・嚢胞性疾患）と鑑別診断を行うことができる。

講義日	時限	国試出題基準
09月18日	1時限	各論-IV-5-エ 各論-IV-5-ウ 各論-IV-5-オ 各論-IV-5-カ 各論-IV-5-キ 各論-IV-5-ク 各論-IV-5-ケ 各論-IV-5-タ-a

担当者 近藤 壽郎

テーマ： 口腔外科 各論

授業の一般目標： 適切な口腔癌の治療を行うために、その特性を理解する。

到達目標 S B O s :

- 1) 舌癌の特徴を述べられる。
- 2) 歯肉癌の特徴を述べられる。
- 3) 上顎洞癌の特徴を述べられる。
- 4) 口腔癌の転移の様式を述べられる。
- 5) 口腔癌のリンパ節転移を述べられる。
- 6) TNM分類を述べられる。
- 7) 病期分類を述べられる。
- 8) 頸部郭清術を述べられる。

=====

講義日	時限	国試出題基準
09月18日	2時限	各論-IV-5-コ 各論-IV-5-シ 各論-IV-5-ス

担当者 近藤 壽郎

テーマ： 口腔外科 各論

授業の一般目標： 適切な非歯源性間葉性腫瘍の治療を行うために、その特徴を理解する。

到達目標 S B O s :

- 1) 非歯源性間葉性腫瘍の特徴を述べられる。
- 2) 肉腫の特徴を述べられる。
- 3) 多発性骨髄腫の特徴を述べるができる。

講義日	時限	国試出題基準
09月18日	3時限	各論-IV-1 2-タ 各論-IV-1 2-ク 各論-IV-1 2-コ 各論-IV-1 2-チ

担当者 近藤 壽郎

テーマ： 口腔外科 各論

授業の一般目標： 唾液腺に生ずる疾患を適切に治療するために、その特徴を理解する。

到達目標 S B O s :

- 1) ドライマウスについて述べられる。
- 2) Sjögren症候群とMikulicz病の特徴を述べられる。
- 3) 流行性耳下腺炎について述べられる。
- 4) 唾液腺良性腫瘍の特徴を述べられる。
- 5) 唾液腺悪性腫瘍の特徴を述べられる。

=====

講義日	時限	国試出題基準
09月18日	4時限	各論-IV-1 0-ア 各論-IV-1 0-イ 各論-IV-1 0-ウ 各論-IV-1 0-キ 各論-IV-1 0-ク 各論-IV-1 0-サ

担当者 萩原 美緒

テーマ： 口腔外科 各論

授業の一般目標： 顎口腔領域に発生する嚢胞性疾患を診断し、治療方針を立てられるようになるために、その病態および特徴を理解する。

到達目標 S B O s :

- 1) 顎骨内に発生する歯源性嚢胞および非歯源性嚢胞を分類し、その特徴を述べるができる。
- 2) 顎骨内に発生する歯源性嚢胞および非歯源性嚢胞の鑑別診断をすることができる。
- 3) 顎骨内に発生する歯源性嚢胞および非歯源性嚢胞の治療法を説明することができる。
- 4) 顎骨内に発生する嚢胞類似疾患を分類し、その特徴を説明できる。
- 5) 顎骨内に発生する嚢胞類似疾患の鑑別診断ができる。
- 6) 顎骨内に発生する嚢胞類似疾患の治療法を説明できる。

講義日	時限	国試出題基準
09月18日	5時限	各論-IV-4-ウ 各論-IV-4-エ 各論-IV-4-オ 各論-IV-4-カ 各論-IV-4-キ 各論-IV-4-ク

担当者 萩原 美緒

テーマ： 口腔外科 各論

授業の一般目標： 軟組織内に発生する嚢胞性疾患の鑑別診断と処置ができるようになるために、病態と特徴を理解する。

到達目標 S B O s :

- 1) 軟組織に発生する嚢胞を分類し、その特徴を説明できる。
- 2) 軟組織に発生する嚢胞の鑑別診断ができる。
- 3) 軟組織に発生する嚢胞の治療法を説明できる。

=====

講義日	時限	国試出題基準
09月19日	1時限	各論-IV-17-ア 各論-IV-17-ス 各論-IV-17-イ 各論-IV-17-オ 各論-IV-17-ク 各論-IV-17-ケ

担当者 小宮 正道

テーマ： 口腔外科 各論

授業の一般目標： 歯科でみられる医科疾患患者の注意点を述べられるように病態と特徴を理解する

到達目標 S B O s :

- 1) 全身管理に留意する全身疾患・状態を説明できる。
- 2) 高齢者にみられる全身管理に留意する全身疾患・状態を説明できる。

講義日	時限	国試出題基準
09月19日	2時限	各論-IV-3-ア 各論-IV-3-イ 各論-IV-3-ウ 各論-IV-3-オ 各論-IV-3-カ 各論-IV-3-キ

担当者 小宮 正道

テーマ： 口腔外科 各論

授業の一般目標： 歯周組織、顎骨の炎症および顎骨周囲軟組織の炎症を診断し治療方針を決定できるようになるために、口腔・顎領域の炎症の病態を理解する。

到達目標 S B O s :

- 1) 歯性扁桃周囲炎の診断・病態・治療法について述べられる。
- 2) 口底・咽頭・頬部の炎症の拡大と隙について述べられる。
- 3) 口底部の炎症の診断・病態・治療法について述べられる。
- 4) 咽頭部の炎症の診断・病態・治療法について述べられる。
- 5) 歯冠周囲炎、歯周組織炎の診断・病態・治療法について述べられる。
- 6) 顎骨炎の分類・診断・病態・治療法について述べられる。
- 7) 放射線障害による口内炎、骨壊死、骨髓炎の病態について述べられる。
- 8) 歯性感染症の原因歯の治療方針について述べられる。
- 9) 歯性全身感染症の種類・原因・病態を述べるができる。

講義日	時限	国試出題基準
09月19日	3時限	各論-IV-3-ク

担当者 小宮 正道

テーマ： 口腔外科 各論

授業の一般目標： 肉芽腫性線炎（特異性炎）と歯性上顎洞炎を診断し治療方針を決定できるようになるために、原因・病態・治療法を理解する。

到達目標 S B O s :

- 1) 肉芽腫性線炎（特異性炎）の種類を述べられる。
- 2) 顎部放線菌症の診断・病態・治療法について述べられる。
- 3) 口腔結核の診断・病態・治療法について述べられる。
- 4) 歯性上顎洞炎の診断・病態・治療法について述べられる。

講義日	時限	国試出題基準
09月26日	1時限	各論-Ⅲ-5-イ 各論-Ⅲ-5-ア 各論-Ⅲ-5-ウ 各論-Ⅲ-5-エ 各論-Ⅲ-5-オ 各論-Ⅲ-5-カ

担当者 松島 潔

テーマ： 歯内療法学・領域B（臨床）

授業の一般目標： 歯髄・根尖歯周疾患の適切な診断と治療ができるようになるために、歯髄・根尖歯周疾患の症候、検査を習得する。

到達目標 S B O s：

- 1) 歯髄・根尖歯周疾患の症候の変化を説明できる。
- 2) 歯髄・根尖歯周疾患の主訴を説明できる。
- 3) 歯髄・根尖歯周疾患の検査の意図を説明できる。
- 4) 歯髄・根尖歯周疾患の検査を選択できる。
- 5) 歯髄・根尖歯周疾患の診断プロセスを説明できる。
- 6) 歯髄・根尖歯周疾患の処置方針を説明できる。
- 7) 鑑別診断を説明できる。

=====

講義日	時限	国試出題基準
09月26日	2時限	各論-Ⅲ-6-イ 各論-Ⅲ-6-ウ 各論-Ⅲ-6-エ 各論-Ⅲ-6-オ 各論-Ⅲ-6-カ 各論-Ⅲ-6-ス

担当者 岡部 達

テーマ： 歯内療法学・領域B（臨床）

授業の一般目標： 歯髄・根尖性歯周疾患の適切な診療をするために、歯内療法の原則、術式、器具、材料を理解する。

到達目標 S B O s：

- 1) 歯内療法の原則を説明できる。
- 2) 歯髄・根尖性歯周疾患の処置を選択できる。
- 3) 歯内療法の器具、材料を選択できる。
- 4) 歯内療法における高齢者に対する配慮を説明できる。
- 5) 顕微鏡を用いた歯内療法を説明できる。

講義日	時限	国試出題基準				
09月26日	3時限	各論-Ⅲ-6-オ 各論-Ⅲ-6-シ	各論-Ⅲ-6-キ 各論-Ⅲ-6-セ	各論-Ⅲ-6-ク	各論-Ⅲ-6-ケ	各論-Ⅲ-6-サ

担当者 神尾 直人

テーマ： 歯内療法学 領域B（臨床）

授業の一般目標： 歯髄・根尖歯周組織疾患の適切な診療をするために、歯内療法の種々の術式および特徴を理解する。

到達目標 S B O s：

- 1) 根未完成歯の歯内療法を説明できる。
- 2) 再根管治療を説明できる。
- 3) 歯内一歯周疾患の治療を説明できる。
- 4) 内部吸収・外部吸収の治療を説明できる。
- 5) 外科的歯内療法を説明できる。
- 6) 歯内療法処置の偶発症とその予防を説明できる。

=====

講義日	時限	国試出題基準				
09月28日	1時限	各論-Ⅱ-5-ウ 各論-Ⅳ-6-ウ	各論-Ⅱ-5-イ 各論-Ⅳ-6-エ	各論-Ⅱ-6-イ 各論-Ⅳ-6-リ	各論-Ⅳ-6-ア	各論-Ⅳ-6-イ

担当者 清水 邦彦

テーマ： 小児歯科学・領域B（臨床）

授業の一般目標： 小児の歯科疾患の診断および治療ができるようになるために、小児の外傷、乳歯の抜歯、口腔粘膜疾患、咬合誘導について理解する。

到達目標 S B O s：

- 1) 小児の外傷について説明できる。
- 2) 小児の抜歯について説明できる。
- 3) 小児の口腔粘膜疾患について説明できる。
- 4) 小児の咬合誘導について説明できる。

講義日	時限	国試出題基準
09月28日	2時限	各論-IV-15-ア 各論-II-1-エ 各論-II-1-ソ 各論-II-1-タ 各論-II-1-テ 各論-III-2-エ 各論-IV-15-ネ

担当者 清水 邦彦

テーマ： 小児歯科学・領域B（臨床）

授業の一般目標： 小児の歯科疾患の診断および治療ができるようになるために、歯の形成障害および小児疾患・症候群について理解する。

到達目標 S B O s :

1) 歯の形成障害について説明できる。

=====

講義日	時限	国試出題基準
09月28日	3時限	各論-I-1-オ 各論-I-1-キ 各論-III-3-ア

担当者 岡本 京

テーマ： 小児歯科学 領域B（臨床）

授業の一般目標： 小児の歯科疾患の診断および治療ができるようになるために、小児の齲蝕予防、歯冠修復について理解する。

到達目標 S B O s :

1) 小児の齲蝕予防について説明できる。
2) 小児の歯冠修復について説明できる。

講義日	時限	国試出題基準
09月28日	4時限	各論-Ⅲ-4-ア 各論-Ⅲ-4-イ 各論-Ⅲ-4-ウ 各論-Ⅲ-4-エ 各論-Ⅲ-7-ア

担当者 岡本 京

テーマ： 小児歯科学 領域B（臨床）

授業の一般目標： 小児の歯科疾患の診断および治療ができるようになるために、小児の歯内療法、歯周疾患について理解する。

到達目標SBOs：

- 1)小児の歯内療法について説明できる。
- 2)小児の歯周疾患について説明できる。

=====

講義日	時限	国試出題基準
09月28日	5時限	必修-3-キ-a 必修-3-キ-b 必修-3-キ-c 必修-3-ケ-a 必修-3-ケ-b 各論-I-6-ア 各論-I-6-イ 各論-I-6-ウ

担当者 田口 千恵子

テーマ： 歯科疾患の予防・管理

授業の一般目標： 歯科疾患の予防管理のためのフッ化物の応用、口腔清掃方法、口腔ケアについて理解する。

到達目標SBOs：

- 1)フッ化物の全身応用について説明できる。
- 2)フッ化物の局所応用について説明できる。
- 3)口腔清掃方法について説明できる。
- 4)歯磨き剤について説明できる。
- 5)口腔ケアについて説明できる。

講義日	時限	国試出題基準
09月29日	1時限	各論-Ⅱ-1 Ⅰ-ア

担当者 五関 たけみ

テーマ： 歯科矯正学・臨実（領域B）

授業の一般目標： 適切な乳歯・混合歯列期の矯正治療を行うために、顎顔面形態の特徴、診断、治療開始時期および治療法について理解する。

到達目標 S B O s :

- 1) 乳歯混合歯列期の治療目標を述べることができる。
- 2) 乳歯混合歯列期に用いる矯正装置を説明できる。
- 3) 乳歯混合歯列期の治療計画を立案できる。
- 4) 早期治療について説明できる。

=====

講義日	時限	国試出題基準
09月29日	2時限	各論-Ⅱ-1 Ⅰ-イ

担当者 五関 たけみ

テーマ： 歯科矯正学・臨実（領域B）

授業の一般目標： 永久歯列期の矯正治療を適切に行うために必要な唇アदन、治療方針および治療計画の立案について理解する。

到達目標 S B O s :

- 1) 治療目標の設定ができる。
- 2) 抜歯部位の選択ができる。
- 3) 矯正治療中の管理について説明できる。

講義日	時限	国試出題基準
09月29日	3時限	各論-Ⅱ-8-ウ 各論-Ⅱ-8-ア 各論-Ⅱ-8-イ 各論-Ⅱ-8-エ

担当者 五関 たけみ

テーマ： 歯科矯正学・臨実（領域B）

授業の一般目標： 適切な矯正治療を実践するために、治療計画の立案に必要な情報を収集し整理・統合できるように学修する。

到達目標 S B O s：

- 1) 口腔内写真から得られる所見を述べることができる。
- 2) エックス線写真から得られる所見を述べることができる。
- 3) 診断用口腔模型から得られる所見を述べることができる。
- 4) 軟組織診査から得られる所見を述べることができる。
- 5) 機能検査から得られる所見を述べることができる。

=====

講義日	時限	国試出題基準
09月29日	4時限	各論-Ⅱ-1-ア 各論-Ⅱ-8-エ 各論-Ⅱ-11-エ 各論-Ⅳ-7-オ-a

担当者 榎本 豊

テーマ： 歯科矯正学・臨実（領域B）

授業の一般目標： 顎変形症や先天異常を伴う患者の歯科矯正治療を適切に行うために必要な知識、診断、治療方針および治療計画の立案について理解する。

到達目標 S B O s：

- 1) 外科矯正治療における術前矯正治療の目的を説明できる。
- 2) 適切な外科手術法を選択できる。
- 3) 唇顎口蓋裂患者の特徴を説明できる。
- 4) 唇顎口蓋裂患者の歯科矯正治療の流れを説明できる。
- 5) 口腔領域に異常をきたす先天異常患者の特徴を説明できる。

講義日	時限	国試出題基準
09月30日	1時限	各論-Ⅲ-2-ウ 各論-I-5-ア 各論-I-5-イ 各論-I-5-ウ 各論-Ⅲ-2-エ 各論-Ⅲ-2-オ 各論-Ⅲ-2-カ 各論-Ⅲ-3-キ

担当者 平山 聡司

テーマ： 保存修復学（臨床実地）：Tooth wear、変色歯、外傷

授業の一般目標： Tooth wear、歯の変色および外傷により生じた歯の欠損や審美障害を解決するために、行うべき検査、診断、治療方針の立案と処置法に関する知識を修得する。

到達目標 S B O s：

- 1) Tooth wearに対する鑑別診断ができる。
- 2) Tooth wearに対する適切な治療方針が立案できる。
- 3) 変色歯の鑑別診断ができる。
- 4) 変色歯の原因や程度から適切な処置方針を立案できる。
- 5) 外傷歯の診断に必要な検査法を選択できる。
- 6) 外傷歯に対する適切な治療方針を立案できる。
- 7) 歯の完全破折と不完全破折の鑑別診断ができる。

=====

講義日	時限	国試出題基準
09月30日	2時限	各論-Ⅲ-3-ウ 各論-Ⅲ-3-エ 各論-Ⅲ-3-オ 各論-Ⅲ-3-カ

担当者 平山 聡司

テーマ： 保存修復学（臨床実地）：間接修復法

授業の一般目標： 歯の硬組織欠損に対して適切な間接修復処置が行えるようになるために、適切な検査、診断、治療方針の立案、術式、使用器具および術後管理について理解する。

到達目標 S B O s：

- 1) 間接修復法の選択基準について説明できる。
- 2) 各種間接修復法の臨床術式について説明できる。
- 3) 間接修復法の修復物装着に必要な処理材について説明できる。
- 4) 間接修復法における補修修復の手順と必要材料について説明できる。

講義日	時限	国試出題基準
09月30日	3時限	各論-Ⅲ-3-イ 各論-Ⅲ-3-エ 各論-Ⅲ-3-カ

担当者 平山 聡司

テーマ： 保存修復学（臨床実地）：接着修復と前準備

授業の一般目標： 歯の硬組織欠損に対して適切な接着修復を行うために、適切な検査、診断、治療方針の立案、術式、使用器具および術後管理について理解する。

到達目標 S B O s :

- 1) 歯の欠損状態に応じた接着修復法を選択できる。
- 2) 齲蝕の除去法とそれに用いる器具器材について説明できる。
- 3) 接着修復処置に必要な前準備とその器具について説明できる。
- 4) 接着修復法の臨床術式を説明できる。
- 5) 異種材料に対する接着前処理と必要な器材について説明できる。
- 6) 修復操作中に生じた偶発症とその対処法について説明できる。
- 7) 修復処置後に生じる臨床的問題点の原因とその対処法について説明できる。

=====

講義日	時限	国試出題基準
10月01日	1時限	各論-Ⅲ-9-イ 各論-Ⅲ-9-ウ 各論-Ⅲ-9-ケ 各論-Ⅲ-8-エ 各論-Ⅲ-8-ク 各論-Ⅲ-8-ケ

担当者 中山 洋平

テーマ： 歯周治療学（臨床実地）：歯周基本治療

授業の一般目標： 適切な歯周治療を行うために、歯周病の診査・診断・治療計画および歯周基本治療の内容・目的について理解する。

到達目標 S B O s :

- 1) 歯周病の分類と特徴について説明することができる。
- 2) 歯周病の治療計画について説明することができる。
- 3) 歯周基本治療の内容について説明できる。
- 4) 歯周治療におけるメンテナンスおよび S P T について説明できる。
- 5) 咬合性外傷の診断・治療法について説明できる。
- 6) 歯内歯周病変の診断・治療法について説明できる。

講義日	時限	国試出題基準
10月01日	2時限	各論-Ⅲ-9-エ 各論-Ⅲ-9-カ

担当者 中山 洋平

テーマ： 歯周治療学(臨床実地)：根分岐部病変および歯周外科治療

授業の一般目標： 適切な歯周治療を行うために、根分岐部病変の治療および歯周外科治療について理解する。

到達目標SBOs：

- 1) 根分岐部病変の分類に対する治療方法について説明できる。
- 2) 歯周ポケット搔爬術について説明できる。
- 3) 新付着術(ENAP)について説明できる。
- 4) 歯肉切除術について説明できる。
- 5) 歯肉剥離搔爬術について説明できる。

=====

講義日	時限	国試出題基準
10月01日	3時限	各論-Ⅲ-9-オ 各論-Ⅲ-8-ク 各論-Ⅲ-9-カ

担当者 中山 洋平

テーマ： 歯周治療学(臨床実地)：歯周組織再生療法

授業の一般目標： 適切な歯周治療を行うために、歯周組織再生療法および歯周形成手術の治療法について理解する。

到達目標SBOs：

- 1) 骨移植術について説明できる。
- 2) 歯周組織再生誘導法(GTR法)について説明できる。
- 3) エナメルタンパクを用いた再生療法について説明できる。
- 4) 歯周形成手術について説明できる。

講義日	時限	国試出題基準				
10月06日	1時限	各論-V-2-カ 各論-V-5-ア	各論-V-2-ア 各論-V-5-イ	各論-V-2-イ 各論-V-5-カ	各論-V-2-ウ	各論-V-2-エ
担当者	石井 智浩					

テーマ： 部分床義歯補綴学臨床実地

授業の一般目標： 損なわれた顎口腔系の形態および機能の回復を図るために必要な補綴臨床における診査・診断および治療方法に関する知識を習得する。

到達目標 S B O s :

- 1) 部分床義歯の診査方法について説明することができる。
- 2) 部分床義歯の診断について説明することができる。
- 3) 部分床義歯の治療計画について説明することができる。
- 4) 部分床義歯の口腔内前処置について説明することができる。
- 5) 部分床義歯の印象方法について説明することができる。

=====

講義日	時限	国試出題基準				
10月06日	2時限	各論-V-5-コ	各論-V-5-ウ	各論-V-5-キ	各論-V-5-ク	各論-V-5-ケ
担当者	石井 智浩					

テーマ： 部分床義歯補綴学臨床実地

授業の一般目標： 損なわれた顎口腔系の形態および機能の回復を図るために必要な補綴臨床における診査・診断および治療方法に関する知識を習得する。

到達目標 S B O s :

- 1) 部分床義歯の作業模型の製作について説明することができる。
- 2) 部分床義歯のフレームワークの製作について説明することができる。
- 3) 人工歯の選択・排列・削合について説明できる。
- 4) 歯肉形成について説明できる。
- 5) 蠟義歯の試適について説明できる。

講義日	時限	国試出題基準
10月06日	3時限	各論-V-5-ア 各論-V-5-サ 各論-V-5-シ 各論-V-5-ス 各論-V-5-セ

担当者 石井 智浩

テーマ： 部分床義歯補綴学臨床実地

授業の一般目標： 損なわれた顎口腔系の形態および機能の回復を図るために必要な補綴臨床における診査・診断および治療方法に関する知識を習得する。

到達目標 S B O s：

- 1) 部分床義歯の設計について説明することができる。
- 2) 部分床義歯の埋没方法を説明することができる。
- 3) 部分床義歯の重合方法を説明することができる。
- 4) 部分床義歯の咬合調整（削合）を説明することができる。
- 5) 部分床義歯の仕上げを説明することができる。
- 6) 部分床義歯の装着方法を説明することができる。
- 7) 部分床義歯の装着時の患者指導について説明することができる。

=====

講義日	時限	国試出題基準
10月06日	4時限	各論-V-2-エ

担当者 後藤 治彦

テーマ： クラウンブリッジ・臨床実地（領域C）

授業の一般目標： 損なわれた顎口腔系の形態および機能の回復を図るために必要な補綴臨床における診査・診断および治療法に関する知識を習得する。

到達目標 S B O s：

- 1) クラウンブリッジにおける診査・診断を行うことができる。
- 2) クラウンブリッジに対する治療計画を立案することができる。
- 3) クラウンブリッジにおける診断模型の分析を行うことができる。
- 4) 前処置の目的と具体的な方法を述べるることができる。

講義日	時限	国試出題基準
10月06日	5時限	各論-V-4-ス

担当者 後藤 治彦

テーマ： クラウンブリッジ・臨床実地（領域C）

授業の一般目標： 損なわれた顎口腔系の形態および機能の回復を図るために必要な補綴臨床における診査・診断および治療法に関する知識を習得する。

到達目標 S B O s :

- 1) クラウンブリッジにおける診査・診断を行うことができる。
- 2) クラウンブリッジに対する治療計画を立案することができる。
- 3) クラウンブリッジにおける診断模型の分析を行うことができる。
- 4) 前処置の目的と具体的な方法を述べることができる。
- 5) 印象採得の術式と特徴を述べることができる。
- 6) クラウンブリッジの試適調整の手順を具体的に述べることができる。
- 7) 合着の手順を具体的に述べることができる。

=====

講義日	時限	国試出題基準
10月07日	1時限	各論-VI-18-エ

担当者 中田 浩史、伊藤 誠康

テーマ： 有床義歯装着者における疼痛、発音、維持、誤咬、嚥下、嘔吐の障害や原因について

授業の一般目標： 損なわれた顎口腔系の形態および機能の回復を図るために必要な補綴臨床における診査・診断および治療法に関する知識を修得する。

到達目標 S B O s :

- 1) 有床義歯装着後の疼痛に関する原因について述べることができる。
- 2) 有床義歯装着後の発音障害に関する原因について述べることができる。
- 3) 有床義歯装着後の維持不良に関する原因について述べることができる。
- 4) 有床義歯装着後の誤咬に関する原因について述べることができる。
- 5) 有床義歯装着後の嚥下障害に関する原因について述べることができる。
- 6) 有床義歯装着後の嘔吐反射に関する原因について述べることができる。
- 7) 有床義歯装着後の患者指導について述べることができる。

講義日	時限	国試出題基準
10月07日	2時限	各論-V-5-エ 各論-V-4-ク 各論-V-5-オ 各論-V-4-ケ

担当者 伊藤 誠康、田中 孝明

テーマ： 部分床義歯とクラウン・ブリッジにおける咬合採得

授業の一般目標： 損なわれた顎口腔系の形態と機能の回復を図るために必要な補綴臨床における診査・診断および治療法に関する知識を習得する。

到達目標 S B O s :

- 1) 残存歯の咬合状態から咬合の安定度を測ることができる。
- 2) 咬合採得法の種類と特徴を述べることができる。
- 3) 支台歯形成後の咬合支持の状態から適切な咬合採得法を選択できる。
- 4) 歯の欠損状態から適切な咬合採得法を説明できる。
- 5) 少数歯あるいは多数歯欠損の咬合採得法を説明できる。
- 6) すれ違い咬合の咬合採得を説明することができる。
- 7) 咬合器付着とプログラミングについて説明することができる。
- 8) 咬合床を用いた咬合採得について説明できる。

=====

講義日	時限	国試出題基準
10月07日	3時限	各論-IV-11-コ-c 各論-IV-11-コ-d

担当者 飯島 守雄

テーマ： 顎顔面補綴学

授業の一般目標： 口腔周囲の癌治療や顎顔面の外傷治療、先天欠損による顎欠損を有する患者のQOL向上のために必要な知識・技能・態度を習得する。

到達目標 S B O s :

- 1) 顎顔面に欠損を有する患者の背景を説明できる。
- 2) 顎顔面に欠損を有する患者の機能障害を説明できる。
- 3) 顎骨欠損の成因を説明できる。
- 4) 顎顔面に欠損を有する患者の補綴方法を説明できる。

講義日	時限	国試出題基準
10月07日	4時限	各論-IV-1 1-コ-c 各論-IV-1 1-コ-d

担当者 飯島 守雄

テーマ： 顎顔面補綴学

授業の一般目標： 口腔周囲の癌治療や顎顔面の外傷治療、先天欠損による顎欠損を有する患者のQOL向上のために必要な知識・技能・態度を習得する。

到達目標 S B O s :

- 1) 顎顔面に欠損を有する患者の背景を説明できる。
- 2) 顎顔面に欠損を有する患者の機能障害を説明できる。
- 3) 顎骨欠損の成因を説明できる。
- 4) 顎顔面に欠損を有する患者の補綴方法を説明できる。

=====

講義日	時限	国試出題基準
10月08日	1時限	各論-V-6-ア

担当者 木本 統

テーマ： 全部床義歯・臨床実地

授業の一般目標： 損なわれた顎口腔系の形態および機能の回復を図るために必要な補綴臨床における診査・診断および治療方法に関する知識を修得する。

到達目標 S B O s :

- 1) 全部床義歯の治療手順と使用器具を説明できる。
- 2) 旧義歯の床外形、人工歯排列位置、咬合面形態の問題点を説明できる。
- 3) 適合試験の結果を説明できる。
- 4) 全部床義歯の咬合診査方法を説明できる。

講義日	時限	国試出題基準
10月08日	2時限	各論-V-10-キ

担当者 木本 統

テーマ： 全部床義歯・臨床実地

授業の一般目標： 損なわれた顎口腔系の形態および機能の回復を図るために必要な補綴臨床における診査・診断および治療方法に関する知識を修得する。

到達目標 S B O s :

- 1) 全部床義歯患者の顎堤に生じる粘膜病変を説明できる。
- 2) 全部床義歯の顎堤生じるトラブルを説明できる。
- 3) 義歯装着時の顔貌所見を説明できる。
- 4) 全部床義歯装着者の発音試験を説明できる。

=====

講義日	時限	国試出題基準
10月08日	3時限	各論-V-6-イ 各論-V-6-ウ

担当者 木本 統

テーマ： 全部床義歯・臨床実地

授業の一般目標： 損なわれた顎口腔系の形態および機能の回復を図るために必要な補綴臨床における診査・診断および治療方法に関する知識を修得する。

到達目標 S B O s :

- 1) 全部床義歯の印象採得に必要な解剖学的ランドマークを説明できる。
- 2) 動的印象を説明できる。
- 3) フレンジテクニックを説明できる。
- 4) 治療用義歯を説明できる。
- 5) 作業模型上で行う金属床義歯の技工手順を説明できる。
- 6) 作業模型上で行うリリーフおよびブロックアウトを説明できる。

講義日	時限	国試出題基準
10月08日	4時限	各論-V-6-カ

担当者 木本 統

テーマ： 全部床義歯・臨床実地

授業の一般目標： 損なわれた顎口腔系の形態および機能の回復を図るために必要な補綴臨床における診査・診断および治療方法に関する知識を修得する。

到達目標 S B O s :

- 1) 両側性咬合平衡を説明できる。
- 2) クリステンセン氏現象を説明できる。
- 3) ハノーの5要素を説明できる。
- 4) 片側性咬合平衡を説明できる。
- 5) 歯槽頂線の法則と歯槽頂間線の法則を説明できる。

=====

講義日	時限	国試出題基準
10月09日	1時限	各論-V-1-ア 各論-V-10-ウ 各論-V-10-エ 各論-V-10-カ 各論-V-10-キ

担当者 矢崎 貴啓

テーマ： 全部床義歯学・臨床実地

授業の一般目標： 無歯顎患者の損なわれたQOLの向上を図るために必要な義歯補綴による再建とリハビリテーションの知識・技能・態度を習得する。

到達目標 S B O s :

- 1) 無歯顎顎堤の生理的吸収への対応について説明することができる。
- 2) 無歯顎顎堤の病的吸収への対応について説明することができる。
- 3) 義歯床下粘膜の変化への対応について説明することができる。
- 4) 全部床義歯の咬合の変化への対応について説明することができる。
- 5) 人工歯の変化への対応について説明することができる。
- 6) 全部床義歯装着者の中心咬合位の変化について説明することができる。
- 7) 全部床義歯装着後の患者指導について説明することができる。

講義日	時限	国試出題基準
10月09日	2時限	各論-V-1-ア 各論-V-1 0-ウ

担当者 矢崎 貴啓、宇都宮 忠彦

テーマ： 全部床義歯学・臨床実地

授業の一般目標： 無歯顎患者の損なわれたQOLの向上を図るために必要な義歯補綴による再建とリハビリテーションの知識・技能・態度を習得する。

到達目標 S B O s :

- 1) 有床義歯装着に起因する粘膜病変を列挙することができる。
- 2) 褥瘡性潰瘍の原因と治療法を述べることができる。
- 3) フラビーガムの原因と治療法を述べることができる。
- 4) 義歯性線維症の原因と治療法を述べることができる。
- 5) 義歯性口内炎の原因と治療法を述べることができる。

=====

講義日	時限	国試出題基準
10月09日	3時限	各論-V-6-エ 各論-V-6-カ

担当者 木本 統

テーマ： 全部床義歯・臨床実地

授業の一般目標： 損なわれた顎口腔系の形態および機能の回復を図るために必要な補綴臨床における診査・診断および治療方法に関する知識を修得する。

到達目標 S B O s :

- 1) 咬合平面の設定方法を説明できる。
- 2) 咬合高径の設定方法を説明できる。
- 3) ゴシックアーチ描記法を説明できる。
- 4) フェースボウトランスファーを説明できる。
- 5) 咬合器のプログラミングを説明できる。
- 6) シングルデンチャーの咬合採得を説明できる。
- 7) 下顎法による咬合平面の設定を説明できる。
- 8) 転覆試験を説明できる。

講義日	時限	国試出題基準
10月09日	4時限	各論-V-6-カ 各論-V-6-ケ

担当者 木本 統

テーマ： 全部床義歯・臨床実地

授業の一般目標： 損なわれた顎口腔系の形態および機能の回復を図るために必要な補綴臨床における診査・診断および治療方法に関する知識を修得する。

到達目標 S B O s :

- 1) 全部床義歯の排列の限界を説明できる。
- 2) I 級・II 級・III 級排列を説明できる。
- 3) アメリカ法埋没とフランス法埋没について説明できる。

=====

講義日	時限	国試出題基準
10月09日	5時限	各論-V-6-サ 各論-V-6-キ

担当者 木本 統

テーマ： 全部床義歯・臨床実地

授業の一般目標： 損なわれた顎口腔系の形態および機能の回復を図るために必要な補綴臨床における診査・診断および治療方法に関する知識を修得する。

到達目標 S B O s :

- 1) 咬合採得の誤まりの原因を説明できる。
- 2) 咬合採得の誤りと義歯装着者に生じる痛みを関連付けることができる。
- 3) 咬合採得の誤りと義歯の脱離を関連付けることができる。
- 4) リマウントの意義を説明できる。
- 5) スプリットキャスト法とテンチのコア法によるリマウントの違いを説明できる。
- 6) 直接リラインと間接リラインの違いを説明できる。
- 7) リラインの技工操作を説明できる。

講義日	時限	国試出題基準
10月10日	1時限	各論-V-10-カ

担当者 谷本 安浩、中田 浩史、田中 孝明

テーマ： 補綴装置の破損とその対応

授業の一般目標： 損なわれた顎口腔系の形態と機能の回復を図るために必要な補綴臨床における診査・診断および治療法に関する知識を習得する。

到達目標 S B O s :

- 1) クラウン装着後の破損の原因を述べることができる。
- 2) 前装冠破損の原因を推測することができる。
- 3) 前装冠破損の修理方法について述べることができる。
- 4) 有床義歯の破損の原因を述べることができる。
- 5) 有床義歯の破損の修理方法について述べることができる。
- 6) 補綴物の破損に関する理工学的特性を述べることができる。

=====

講義日	時限	国試出題基準
10月10日	2時限	各論-VI-14-ウ

担当者 飯田 崇

テーマ： 高齢者の歯科治療(領域C)

授業の一般目標： 適切な高齢者の口腔管理を行うために、高齢者の口腔管理方法、摂食・嚥下障害の検査と対応について理解する。

到達目標 S B O s :

- 1) 高齢者の口腔管理について説明できる。
- 2) 摂食・嚥下機能について説明できる。
- 3) 高齢者における摂食・嚥下障害の原因について説明できる。
- 4) 摂食・嚥下障害の検査について説明できる。
- 5) 摂食・嚥下障害への対応について説明できる。
- 6) 高齢者の栄養管理について説明できる。

講義日	時限	国試出題基準
10月10日	3時限	各論-V-2-イ 各論-V-2-ウ 各論-V-4-エ

担当者 田中 孝明

テーマ： クラウンブリッジの検査・支台築造

授業の一般目標： 損なわれた顎口腔系の形態と機能の回復を図るために必要な補綴臨床における診査・診断および治療法に関する知識を習得する。

到達目標SBOs：

- 1) クラウンブリッジにおける診査・診断を行うことができる。
- 2) 支台築造の適応を選択し、具体的な手順を述べることができる。

=====

講義日	時限	国試出題基準
10月13日	1時限	各論-V-8-ウ

担当者 村上 洋

テーマ： 口腔インプラント学

授業の一般目標： 欠損補綴の回復方法を適切に患者に供給するために、インプラント治療に関する基本的知識を修得する。

到達目標SBOs：

- 1) インプラント治療のリスクファクターについて説明できる。
- 2) 治療計画について説明できる。
- 3) インプラント周囲炎について説明できる。

講義日	時限	国試出題基準
10月13日	2時限	各論-V-8-サ

担当者 玉木 大之

テーマ： 口腔インプラント学 領域C（臨床）

授業の一般目標： 欠損補綴の回復方法を適切に患者に供給するために、インプラント治療に関する基本的知識を修得する。

到達目標 S B O s :

1)インプラント外科処置における合併症について説明できる。

=====

講義日	時限	国試出題基準
10月13日	3時限	各論-V-8-ケ 各論-V-8-カ 各論-V-8-キ 各論-V-8-ク 各論-V-8-コ

担当者 北川 剛至

テーマ： 口腔インプラント学 領域C（臨床）

授業の一般目標： 欠損補綴の回復方法を適切に患者に供給するために、インプラント治療に関する基本的知識を修得する。

到達目標 S B O s :

1)インプラントの補綴術式を説明する。
2)インプラント上部構造の種類・固定方法を説明する。

講義日	時限	国試出題基準
10月17日	1時限	各論-IV-4-エ 各論-IV-5-ア 各論-IV-6-ア 各論-IV-10-ア 各論-IV-11-ア 各論-IV-12-ク

担当者 萩原 美緒、宇都宮 忠彦

テーマ： 口腔外科 臨床

授業の一般目標： 口腔領域疾患の診断および治療方針が立てられるようになるために、画像および病理の特徴と治療方針を体系的に学習する。

到達目標 S B O s :

- 1) 口腔領域に発生する種々の疾患の鑑別診断を行うことができる。
- 2) 口腔領域に発生する腫瘍の診断およびその治療法を述べることができる。
- 3) 口腔領域に発生する嚢胞の診断およびその治療法を述べることができる。
- 4) 口腔領域に発生する感染症の診断およびその治療法を述べることができる。
- 5) 口腔領域に発生する炎症の診断およびその治療法を述べることができる。
- 6) 口腔領域に発生する自己免疫疾患の診断およびその治療法を述べることができる。
- 7) 口腔領域に発生する奇形・変形症の診断およびその治療法を述べることができる。
- 8) 口腔領域に症状を呈する症候群の診断・症状およびその治療法を述べることができる。
- 9) 口腔領域に発生する神経疾患の診断およびその治療法を述べることができる。

講義日	時限	国試出題基準
10月17日	2時限	各論-IV-4-エ 各論-IV-5-ア 各論-IV-6-ア 各論-IV-10-ア 各論-IV-11-ア 各論-IV-12-ク

担当者 萩原 美緒、宇都宮 忠彦

テーマ： 口腔外科 臨床

授業の一般目標： 口腔領域疾患の診断および治療方針が立てられるようになるために、画像および病理の特徴と治療方針を体系的に学習する。

到達目標 S B O s :

- 1) 口腔領域に発生する種々の疾患の鑑別診断を行うことができる。
- 2) 口腔領域に発生する腫瘍の診断およびその治療法を述べることができる。
- 3) 口腔領域に発生する嚢胞の診断およびその治療法を述べることができる。
- 4) 口腔領域に発生する感染症の診断およびその治療法を述べることができる。
- 5) 口腔領域に発生する炎症の診断およびその治療法を述べることができる。
- 6) 口腔領域に発生する自己免疫疾患の診断およびその治療法を述べることができる。
- 7) 口腔領域に発生する奇形・変形症の診断およびその治療法を述べることができる。
- 8) 口腔領域に症状を呈する症候群の診断・症状およびその治療法を述べることができる。
- 9) 口腔領域に発生する神経疾患の診断およびその治療法を述べることができる。

講義日	時限	国試出題基準
10月19日	1時限	各論-IV-4-エ 各論-IV-5-ア 各論-IV-6-ア 各論-IV-10-ア 各論-IV-11-ア 各論-IV-12-ク

担当者 青木 暁宣、宇都宮 忠彦

テーマ： 口腔外科 臨実

授業の一般目標： 口腔領域疾患の診断および治療方針が立てられるようになるために、画像および病理の特徴と治療方針を体系的に学習する。

到達目標 S B O s :

- 1) 口腔領域に発生する種々の疾患の鑑別診断を行うことができる。
- 2) 口腔領域に発生する腫瘍の診断およびその治療法を述べることができる。
- 3) 口腔領域に発生する嚢胞の診断およびその治療法を述べることができる。
- 4) 口腔領域に発生する感染症の診断およびその治療法を述べることができる。
- 5) 口腔領域に発生する炎症の診断およびその治療法を述べることができる。
- 6) 口腔領域に発生する自己免疫疾患の診断およびその治療法を述べることができる。
- 7) 口腔領域に発生する奇経・変形症の診断およびその治療法を述べることができる。
- 8) 口腔領域に症状を呈する症候群の診断・症状およびその治療法を述べることができる。
- 9) 口腔領域に発生する神経疾患の診断およびその治療法を述べることができる。

=====

講義日	時限	国試出題基準
10月19日	2時限	各論-IV-4-エ 各論-IV-5-ア 各論-IV-6-ア 各論-IV-10-ア 各論-IV-11-ア 各論-IV-12-ク

担当者 青木 暁宣、宇都宮 忠彦

テーマ： 口腔外科 臨実

授業の一般目標： 口腔領域疾患の診断および治療方針が立てられるようになるために、画像および病理の特徴と治療方針を体系的に学習する。

到達目標 S B O s :

- 1) 口腔領域に発生する種々の疾患の鑑別診断を行うことができる。
- 2) 口腔領域に発生する腫瘍の診断およびその治療法を述べることができる。
- 3) 口腔領域に発生する嚢胞の診断およびその治療法を述べることができる。
- 4) 口腔領域に発生する感染症の診断およびその治療法を述べることができる。
- 5) 口腔領域に発生する炎症の診断およびその治療法を述べることができる。
- 6) 口腔領域に発生する自己免疫疾患の診断およびその治療法を述べることができる。
- 7) 口腔領域に発生する奇経・変形症の診断およびその治療法を述べることができる。
- 8) 口腔領域に症状を呈する症候群の診断・症状およびその治療法を述べることができる。
- 9) 口腔領域に発生する神経疾患の診断およびその治療法を述べることができる。

講義日	時限	国試出題基準
10月19日	3時限	各論-IV-4-エ 各論-IV-5-ア 各論-IV-6-ア 各論-IV-10-ア 各論-IV-11-ア 各論-IV-12-ク

担当者 青木 暁宣、宇都宮 忠彦

テーマ： 口腔外科 臨床

授業の一般目標： 口腔領域疾患の診断および治療方針が立てられるようになるために、画像および病理の特徴と治療方針を体系的に学習する。

到達目標 S B O s :

- 1) 口腔領域に発生する種々の疾患の鑑別診断を行うことができる。
- 2) 口腔領域に発生する腫瘍の診断およびその治療法を述べることができる。
- 3) 口腔領域に発生する嚢胞の診断およびその治療法を述べることができる。
- 4) 口腔領域に発生する感染症の診断およびその治療法を述べることができる。
- 5) 口腔領域に発生する炎症の診断およびその治療法を述べることができる。
- 6) 口腔領域に発生する自己免疫疾患の診断およびその治療法を述べることができる。
- 7) 口腔領域に発生する奇形・変形症の診断およびその治療法を述べることができる。
- 8) 口腔領域に症状を呈する症候群の診断・症状およびその治療法を述べることができる。
- 9) 口腔領域に発生する神経疾患の診断およびその治療法を述べることができる。

講義日	時限	国試出題基準
10月20日	1時限	各論-IV-4-エ 各論-IV-5-ア 各論-IV-6-ア 各論-IV-10-ア 各論-IV-11-ア 各論-IV-12-ク

担当者 萩原 美緒、久山 佳代

テーマ： 口腔外科 臨床

授業の一般目標： 口腔領域疾患の診断および治療方針が立てられるようになるために、画像および病理の特徴と治療方針を体系的に学習する。

到達目標 S B O s :

- 1) 口腔領域に発生する種々の疾患の鑑別診断を行うことができる。
- 2) 口腔領域に発生する腫瘍の診断およびその治療法を述べることができる。
- 3) 口腔領域に発生する嚢胞の診断およびその治療法を述べることができる。
- 4) 口腔領域に発生する感染症の診断およびその治療法を述べることができる。
- 5) 口腔領域に発生する炎症の診断およびその治療法を述べることができる。
- 6) 口腔領域に発生する自己免疫疾患の診断およびその治療法を述べることができる。
- 7) 口腔領域に発生する奇形・変形症の診断およびその治療法を述べることができる。
- 8) 口腔領域に症状を呈する症候群の診断・症状およびその治療法を述べることができる。
- 9) 口腔領域に発生する神経疾患の診断およびその治療法を述べることができる。

講義日	時限	国試出題基準
10月20日	2時限	各論-IV-4-エ 各論-IV-5-ア 各論-IV-6-ア 各論-IV-10-ア 各論-IV-11-ア 各論-IV-12-ク

担当者 池谷 美和、久山 佳代

テーマ： 口腔外科 臨床

授業の一般目標： 口腔領域疾患の診断および治療方針が立てられるようになるために、画像および病理の特徴と治療方針を体系的に学習する。

到達目標 S B O s :

- 1) 口腔領域に発生する種々の疾患の鑑別診断を行うことができる。
- 2) 口腔領域に発生する腫瘍の診断およびその治療法を述べることができる。
- 3) 口腔領域に発生する嚢胞の診断およびその治療法を述べることができる。
- 4) 口腔領域に発生する感染症の診断およびその治療法を述べることができる。
- 5) 口腔領域に発生する炎症の診断およびその治療法を述べることができる。
- 6) 口腔領域に発生する自己免疫疾患の診断およびその治療法を述べることができる。
- 7) 口腔領域に発生する奇形・変形症の診断およびその治療法を述べることができる。
- 8) 口腔領域に症状を呈する症候群の診断・症状およびその治療法を述べることができる。
- 9) 口腔領域に発生する神経疾患の診断およびその治療法を述べることができる。

講義日	時限	国試出題基準
10月20日	3時限	各論-IV-4-エ 各論-IV-5-ア 各論-IV-6-ア 各論-IV-10-ア 各論-IV-11-ア 各論-IV-12-ク

担当者 池谷 美和、宇都宮 忠彦

テーマ： 口腔外科 臨床

授業の一般目標： 口腔領域疾患の診断および治療方針が立てられるようになるために、画像および病理の特徴と治療方針を体系的に学習する。

到達目標 S B O s :

- 1) 口腔領域に発生する種々の疾患の鑑別診断を行うことができる。
- 2) 口腔領域に発生する腫瘍の診断およびその治療法を述べることができる。
- 3) 口腔領域に発生する嚢胞の診断およびその治療法を述べることができる。
- 4) 口腔領域に発生する感染症の診断およびその治療法を述べることができる。
- 5) 口腔領域に発生する炎症の診断およびその治療法を述べることができる。
- 6) 口腔領域に発生する自己免疫疾患の診断およびその治療法を述べることができる。
- 7) 口腔領域に発生する奇形・変形症の診断およびその治療法を述べることができる。
- 8) 口腔領域に症状を呈する症候群の診断・症状およびその治療法を述べることができる。
- 9) 口腔領域に発生する神経疾患の診断およびその治療法を述べることができる。

講義日	時限	国試出題基準
10月20日	4時限	各論-IV-13-ス 各論-IV-13-ク 各論-IV-13-ア 各論-IV-13-コ 各論-IV-13-シ 総論-X-10-ア 総論-X-10-オ

担当者 石橋 肇、岡部 靖子

テーマ： ペインクリニック

授業の一般目標： 疼痛管理、麻痺疾患管理を適切に行うために、疼痛管理の方法の実際、神経ブロック療法、理学療法について理解する。

到達目標 S B O s :

- 1) 顎顔面領域の疼痛疾患について説明することができる。
- 2) 顎顔面領域の麻痺性疾患について説明することができる。
- 3) 痛みの悪循環について説明することができる。
- 4) 星状神経節ブロックについて説明することができる。
- 5) 星状神経節ブロックの適応疾患について説明することができる。
- 6) 星状神経節ブロックの合併症とその対応について説明することができる。
- 7) 物理療法について説明することができる。
- 8) 運動療法について説明することができる。
- 9) 光線療法について説明することができる。
- 10) 癌性疼痛の治療法について説明することができる。

=====

講義日	時限	国試出題基準
10月20日	5時限	各論-IV-14-サ

担当者 内田 貴之

テーマ： 領域C：各論：顎関節症（臨床実地）

授業の一般目標： 顎関節症に対する診断および治療計画立案ができるようになるために、顎関節症の病態に合わせた治療方針を理解する。

到達目標 S B O s :

- 1) 歯科疾患と顎関節症とを鑑別する。
- 2) 顎関節症における画像診断結果を説明できる。
- 3) 顎関節症の病態分類について説明できる。
- 4) 各病態における特徴を説明できる。
- 5) 各病態に対する治療方針を説明できる。

講義日	時限	国試出題基準
10月21日	1時限	各論-IV-4-エ 各論-IV-5-ア 各論-IV-6-ア 各論-IV-10-ア 各論-IV-11-ア 各論-IV-12-ク

担当者 伊藤 耕

テーマ： 口腔外科 臨床

授業の一般目標： 口腔領域疾患の診断および治療方針が立てられるようになるために、画像および病理の特徴と治療方針を体系的に学習する。

到達目標 S B O s :

- 1) 口腔領域に発生する種々の疾患の鑑別診断を行うことができる。
- 2) 口腔領域に発生する腫瘍の診断およびその治療法を述べることができる。
- 3) 口腔領域に発生する嚢胞の診断およびその治療法を述べることができる。
- 4) 口腔領域に発生する感染症の診断およびその治療法を述べることができる。
- 5) 口腔領域に発生する炎症の診断およびその治療法を述べることができる。
- 6) 口腔領域に発生する自己免疫疾患の診断およびその治療法を述べることができる。
- 7) 口腔領域に発生する奇形・変形症の診断およびその治療法を述べることができる。
- 8) 口腔領域に症状を呈する症候群の診断・症状およびその治療法を述べることができる。
- 9) 口腔領域に発生する神経疾患の診断およびその治療法を述べることができる。

講義日	時限	国試出題基準
10月21日	2時限	各論-IV-4-エ 各論-IV-5-ア 各論-IV-6-ア 各論-IV-10-ア 各論-IV-11-ア 各論-IV-12-ク

担当者 伊藤 耕

テーマ： 口腔外科 臨床

授業の一般目標： 口腔領域疾患の診断および治療方針が立てられるようになるために、画像および病理の特徴と治療方針を体系的に学習する。

到達目標 S B O s :

- 1) 口腔領域に発生する種々の疾患の鑑別診断を行うことができる。
- 2) 口腔領域に発生する腫瘍の診断およびその治療法を述べることができる。
- 3) 口腔領域に発生する嚢胞の診断およびその治療法を述べることができる。
- 4) 口腔領域に発生する感染症の診断およびその治療法を述べることができる。
- 5) 口腔領域に発生する炎症の診断およびその治療法を述べることができる。
- 6) 口腔領域に発生する自己免疫疾患の診断およびその治療法を述べることができる。
- 7) 口腔領域に発生する奇形・変形症の診断およびその治療法を述べることができる。
- 8) 口腔領域に症状を呈する症候群の診断・症状およびその治療法を述べることができる。
- 9) 口腔領域に発生する神経疾患の診断およびその治療法を述べることができる。

講義日	時限	国試出題基準
10月21日	3時限	各論-IV-4-エ 各論-IV-5-ア 各論-IV-6-ア 各論-IV-10-ア 各論-IV-11-ア 各論-IV-12-ク

担当者 高橋 康輔、宇都宮 忠彦

テーマ： 口腔外科 臨床

授業の一般目標： 口腔領域疾患の診断および治療方針が立てられるようになるために、画像および病理の特徴と治療方針を体系的に学習する。

到達目標 S B O s :

- 1) 口腔領域に発生する種々の疾患の鑑別診断を行うことができる。
- 2) 口腔領域に発生する腫瘍の診断およびその治療法を述べることができる。
- 3) 口腔領域に発生する嚢胞の診断およびその治療法を述べることができる。
- 4) 口腔領域に発生する感染症の診断およびその治療法を述べることができる。
- 5) 口腔領域に発生する炎症の診断およびその治療法を述べることができる。
- 6) 口腔領域に発生する自己免疫疾患の診断およびその治療法を述べることができる。
- 7) 口腔領域に発生する奇経・変形症の診断およびその治療法を述べることができる。
- 8) 口腔領域に症状を呈する症候群の診断・症状およびその治療法を述べることができる。
- 9) 口腔領域に発生する神経疾患の診断およびその治療法を述べることができる。

=====

講義日	時限	国試出題基準
10月21日	4時限	各論-IV-4-エ 各論-IV-5-ア 各論-IV-6-ア 各論-IV-10-ア 各論-IV-11-ア 各論-IV-12-ク

担当者 高橋 康輔、久山 佳代

テーマ： 口腔外科 臨床

授業の一般目標： 口腔領域疾患の診断および治療方針が立てられるようになるために、画像および病理の特徴と治療方針を体系的に学習する。

到達目標 S B O s :

- 1) 口腔領域に発生する種々の疾患の鑑別診断を行うことができる。
- 2) 口腔領域に発生する腫瘍の診断およびその治療法を述べることができる。
- 3) 口腔領域に発生する嚢胞の診断およびその治療法を述べることができる。
- 4) 口腔領域に発生する感染症の診断およびその治療法を述べることができる。
- 5) 口腔領域に発生する炎症の診断およびその治療法を述べることができる。
- 6) 口腔領域に発生する自己免疫疾患の診断およびその治療法を述べることができる。
- 7) 口腔領域に発生する奇経・変形症の診断およびその治療法を述べることができる。
- 8) 口腔領域に症状を呈する症候群の診断・症状およびその治療法を述べることができる。
- 9) 口腔領域に発生する神経疾患の診断およびその治療法を述べることができる。

講義日	時限	国試出題基準
10月21日	5時限	各論-IV-4-エ 各論-IV-5-ア 各論-IV-6-ア 各論-IV-10-ア 各論-IV-11-ア 各論-IV-12-ク

担当者 小宮 正道、久山 佳代

テーマ： 口腔外科 臨実

授業の一般目標： 口腔領域疾患の診断および治療方針が立てられるようになるために、画像および病理の特徴と治療方針を体系的に学習する。

到達目標 S B O s :

- 1) 口腔領域に発生する種々の疾患の鑑別診断を行うことができる。
- 2) 口腔領域に発生する腫瘍の診断およびその治療法を述べることができる。
- 3) 口腔領域に発生する嚢胞の診断およびその治療法を述べることができる。
- 4) 口腔領域に発生する感染症の診断およびその治療法を述べることができる。
- 5) 口腔領域に発生する炎症の診断およびその治療法を述べることができる。
- 6) 口腔領域に発生する自己免疫疾患の診断およびその治療法を述べることができる。
- 7) 口腔領域に発生する奇形・変形症の診断およびその治療法を述べることができる。
- 8) 口腔領域に症状を呈する症候群の診断・症状およびその治療法を述べることができる。
- 9) 口腔領域に発生する神経疾患の診断およびその治療法を述べることができる。

講義日	時限	国試出題基準
10月22日	1時限	各論-IV-11-ア

担当者 金田 隆

テーマ： 放射線学・臨実（領域C）

授業の一般目標： 将来、歯科医師として顎顔面領域の画像検査法の適切な選択および画像診断ができるようになるために、画像検査の選択と正常解剖および鑑別診断の基本を修得する。

到達目標 S B O s :

- 1) 診断に効果的な画像検査法を選択できる。
- 2) 正常画像解剖を説明できる。
- 3) 画像診断ができる。

講義日	時限	国試出題基準
10月22日	2時限	各論-IV-5-キ

担当者	金田 隆
-----	------

テーマ： 放射線学・臨実（領域C）

授業の一般目標： 将来、歯科医師として日常臨床で悪性腫瘍の正確なTNM分類ができるようになるために、TNM分類の基本と各画像モダリティによる画像診断の基本を学ぶ。

到達目標SBOs：

- 1) TNM分類を説明できる。
- 2) 悪性腫瘍に有効な画像検査法を列挙できる。
- 3) 悪性腫瘍の画像診断ができる。

=====

講義日	時限	国試出題基準
10月22日	3時限	各論-IV-5-ケ

担当者	小椋 一朗
-----	-------

テーマ： 放射線学・臨実（領域C）

授業の一般目標： 将来、歯科医師として顎顔面領域の画像診断ができるようになるために、鑑別診断を学ぶ。

到達目標SBOs：

- 1) 顎顔面領域疾患の特徴的な画像所見を説明できる。
- 2) 鑑別診断について説明できる。

講義日	時限	国試出題基準				
10月22日	4時限	各論-IV-5-ア 各論-IV-4-イ	各論-IV-5-イ 各論-IV-4-ウ	各論-IV-5-セ 各論-IV-4-エ	各論-IV-5-ソ	各論-IV-4-ア

担当者 宇都宮 忠彦

テーマ： 口腔外科臨床実地・病理学のまとめ（1）

授業の一般目標： 正確な病理診断を行うために、口腔・顎・顔面領域の嚢胞、腫瘍及び腫瘍類似疾患の病態について学修する。

到達目標 S B O s :

- 1) 軟組織に発生する嚢胞の病理組織学的特徴について説明できる。
- 2) 顎骨内に発生する嚢胞の病理組織学的特徴について説明できる。
- 3) 口腔・顎・顔面領域に発生する腫瘍の病理組織学的特徴について説明できる。
- 4) 腫瘍類似疾患の病理組織学的特徴について説明できる。

=====

講義日	時限	国試出題基準				
10月22日	5時限	各論-IV-6-テ 各論-IV-6-ト	各論-IV-6-ア 各論-IV-6-ヌ	各論-IV-6-イ 各論-IV-6-ネ	各論-IV-6-オ	各論-IV-6-チ

担当者 宇都宮 忠彦

テーマ： 口腔外科臨床実地・病理学のまとめ（2）

授業の一般目標： 正確な病理診断を行うために、口腔・顎・顔面領域の非腫瘍性疾患及びこの領域に症状を伴う系統的疾患に関する病理学的特徴について学修する。

到達目標 S B O s :

- 1) 口腔粘膜疾患の病理学的特徴について説明できる。
- 2) 顎骨の非腫瘍性疾患の病理学的特徴について説明できる。
- 3) 唾液腺の非腫瘍性疾患の病理学的特徴について説明できる。
- 4) 口腔・顎・顔面領域に症状を伴う全身疾患や先天異常の病理組織学的特徴について説明できる。

講義日	時限	国試出題基準
10月27日	1時限	必修-6-ア-e 必修-6-イ-e 必修-6-イ-d 必修-6-イ-f 必修-6-イ-g 必修-6-イ-h 必修-6-イ-a

担当者 近藤 信太郎

テーマ： 解剖学（必修）

授業の一般目標： 頭頸部の各器官系の構造を理解する。

到達目標SBOs：

- 1) 頭蓋骨の構造が説明できる。
- 2) 頭頸部の筋の走行と働きが説明できる。
- 3) 脳神経の分布が説明できる。
- 4) 外頸動脈の分布が説明できる。
- 5) 口腔内臓の構造を説明できる。

=====

講義日	時限	国試出題基準
10月27日	2時限	必修-6-エ-d

担当者 栞原 紀子

テーマ： 微生物学（必修）

授業の一般目標： 口腔領域における宿主と微生物の関わりを理解するために、口腔微生物と性状について学習する。

到達目標SBOs：

- 1) 口腔常在微生物叢について説明できる。
- 2) バイオフィルムの形成過程を説明できる。
- 3) 宿主の防御機能に抵抗する機序について説明できる。

講義日	時限	国試出題基準
10月27日	3時限	必修-6-ア-c

担当者 岡田 裕之

テーマ： 上皮組織

授業の一般目標： 上皮組織を理解する。

到達目標 S B O s :

- 1) 上皮の種類とその特徴を説明できる。
- 2) 口腔粘膜上皮の種類とその特徴を説明できる。
- 3) 唾液腺の種類とその特徴を説明できる。

=====

講義日	時限	国試出題基準
10月27日	4時限	必修-6-ア-e 必修-6-ア-b 必修-6-ア-c 必修-6-イ-b

担当者 加藤 治

テーマ： 生理学（必修）

授業の一般目標： 生理学に関する基本的知識を理解する。

到達目標 S B O s :

- 1) 循環調節を説明できる。
- 2) 呼吸の機序について説明できる。
- 3) ホルモン分泌臓器と作用機序を説明できる。
- 4) 興奮の伝導と伝達機構を説明できる。
- 5) 興奮収縮連関を説明できる。
- 6) 生体における電気現象について説明できる。

講義日	時限	国試出題基準
10月27日	5時限	必修-6-ア-d 必修-6-ア-a 必修-6-ア-b 必修-6-ウ-c 必修-6-ウ-d 必修-6-エ-c 必修-6-エ-d

担当者 平塚 浩一

テーマ： 生化学（必修）

授業の一般目標： 生化学に関する基本的知識を理解する。

到達目標 S B O s :

- 1) 生命を構成する基本物質を説明できる。
- 2) 消化や代謝を説明できる。
- 3) 細胞の構造と機能を説明できる。
- 4) ペリクルやプラークの構成と特徴を説明できる。
- 5) う蝕や歯周病の原因を説明できる。
- 6) 歯の硬組織を構成する主要成分を説明できる。
- 7) 血液成分とその機能を説明できる。
- 8) 医学・医療に関する自然科学に関連する一般教養を述べられる。

講義日	時限	国試出題基準
10月28日	1時限	必修-6-イ-a

担当者 松野 昌展

テーマ： 解剖学（必修）

授業の一般目標： これまで学んできた内容から頭頸部の基本的な構造を中心に再確認を行い、確実な知識として習得する。

到達目標 S B O s :

- 1) 頭蓋骨の構造を説明できる。
- 2) 頭頸部の筋の構造と機能を説明できる。
- 3) 頭頸部の神経の分布を説明できる。
- 4) 頭頸部の脈管の分布を説明できる。
- 5) 口腔の構造を説明できる。
- 6) 歯の構造を説明できる。

講義日	時限	国試出題基準
10月28日	2時限	必修-6-ア-f

担当者 落合 智子

テーマ： 免疫学（必修）

授業の一般目標： 人体の正常構造・機能としての免疫を理解する。

到達目標 S B O s :

- 1) 自然免疫を説明できる。
- 2) 獲得免疫を説明できる。
- 3) 免疫血清学検査を説明できる。

=====

講義日	時限	国試出題基準
10月28日	3時限	必修-15-ヒ-i 必修-9-エ-a

担当者 山根 潤一

テーマ： 薬物療法（必修）

授業の一般目標： 薬物療法を理解するために、薬理学の基本的事項に関する知識を修得する。

到達目標 S B O s :

- 1) 口腔に現れる薬物の副作用を列挙し、説明できる。
- 2) 薬物投与上の注意について説明できる。
- 3) 薬物の保管・管理について説明できる。

講義日	時限	国試出題基準
10月28日	4時限	必修-2-ア-a 必修-2-ア-f 必修-2-イ-b 必修-2-ウ-a 必修-2-ウ-e 必修-2-ウ-f 必修-2-エ-a 必修-2-エ-b

担当者 有川 量崇

テーマ： 社会歯科領域（必修）

授業の一般目標： 歯科医師として、歯科保健・医療を取り巻く変化に対応するために必要な歯科医療の社会的背景の知識を修得する。

到達目標 S B O s :

- 1) 疾病・障害の概念・構造について説明できる。
- 2) 国際生活機能分類（ICF）について説明できる。
- 3) 国民医療費について説明できる。
- 4) 歯科医師法について説明できる。
- 5) 歯科衛生士法について説明できる。
- 6) 医療法について説明できる。
- 7) GCPについて説明できる。
- 8) 臨床研究、疫学研究の倫理指針について説明できる。

講義日	時限	国試出題基準
10月28日	5時限	必修-1-ア-b 必修-4-ア-d

担当者 後藤田 宏也

テーマ： 衛生学領域（必修）

授業の一般目標： 良き歯科医師となるために、患者の人権、医の倫理、社会および歯科医療について理解する。また適切な歯科医療を行うために、歯科医療の質、安全の確保、診療情報の利用および患者記録の管理方法の重要性を理解する。

到達目標 S B O s :

- 1) 医の倫理と生命倫理について説明できる。
- 2) 歯科医師と患者・家族との関係について説明できる。
- 3) 医療の質の確保について説明できる。
- 4) 医療事故の防止について説明できる。
- 5) 医療裁判について説明できる。

講義日	時限	国試出題基準
10月29日	1時限	必修-15-マ-b 必修-15-マ-c 必修-15-マ-d 必修-15-マ-e 必修-15-マ-f 必修-15-マ-g 必修-15-マ-h 必修-15-マ-i

担当者 谷本 安浩

テーマ： 歯科理工学（必修）

授業の一般目標： 歯科材料を適切に使用するために、その基礎的な性質を学習する。

到達目標SBOs：

- 1) 印象材の種類、組成および性質について説明できる。
- 2) 模型材の種類、組成および性質について説明できる。
- 3) 成形修復材の種類、組成および性質について説明できる。
- 4) 合着用セメントの種類、組成および性質について説明できる。
- 5) 義歯用材料の種類、組成および性質について説明できる。
- 6) 予防填塞材の種類、組成および性質について説明できる。
- 7) 歯内療法用材料の種類、組成および性質について説明できる。
- 8) 切削・研削・研磨用材料の種類、組成および性質について説明できる。

=====

講義日	時限	国試出題基準
10月29日	2時限	必修-11-カ-b 必修-11-カ-a

担当者 宇都宮 忠彦

テーマ： 病理検査

授業の一般目標： 歯科医療に必要不可欠な基本的事項を理解するために、病理検査の基本について学修する。

到達目標SBOs：

- 1) 病理検査の意義について説明できる。
- 2) 病理検査法を列挙できる。
- 3) 病理組織検査の種類と術式について説明できる。
- 4) 細胞診の種類と術式について説明できる。
- 5) 病理組織診と細胞診の特色を比較し、相違点について説明できる。

講義日	時限	国試出題基準
10月29日	3時限	必修-1 4-ア-a 必修-1 4-ア-b 必修-1 4-ア-c 必修-1 4-ア-d 必修-1 4-ア-e 必修-1 4-ア-f 必修-1 4-ア-h 必修-1 4-ア-i

担当者 宇都宮 忠彦

テーマ： 主要な疾患の病因・病態

授業の一般目標： 歯科医療に必要不可欠な基本的事項を理解するために、主要な疾患の病因・病態について学習する

到達目標 S B O s :

- 1) 6大病変及びその疾患概念について説明できる。
- 2) 歯・口腔・顎・顔面疾患の病因について説明できる。

=====

齒科医師国家試験出題基準

平成26年版

厚生労働省医政局歯科保健課

ブループリント（歯科医師国家試験設計表）

「必修の基本的事項」（約 20%）

1	医の倫理と歯科医師のプロフェッショナルリズム	約 2%
2	社会と歯科医療	約 2%
3	予防と健康管理・増進	約 5%
4	歯科医療の質と安全の確保	約 7%
5	診療記録と診療情報	約 2%
6	人体の正常構造・機能	約 14%
7	人体の発生・成長・発達・加齢	約 7%
8	医療面接	約 4%
9	主要な症候	約 10%
10	診察の基本	約 4%
11	検査の基本	約 10%
12	臨床判断の基本	約 2%
13	初期救急	約 1%
14	主要な疾患と障害の病因・病態	約 12%
15	治療の基礎・基本手技	約 12%
16	チーム歯科医療	約 2%
17	一般教養的事項	約 4%

「歯科医学総論」（約 30%）

総論Ⅰ	保健医療論	約 12%
総論Ⅱ	健康管理・増進と予防	約 9%
総論Ⅲ	人体の正常構造と機能	約 5%
総論Ⅳ	歯・口腔・顎・顔面の正常構造と機能	約 9%
総論Ⅴ	発生、成長、発達、加齢	約 3%
総論Ⅵ	病因、病態	約 9%
総論Ⅶ	主要症候	約 4%
総論Ⅷ	診察	約 7%
総論Ⅸ	検査	約 16%
総論Ⅹ	治療	約 13%
総論Ⅺ	歯科材料と歯科医療機器	約 13%

「歯科医学各論」（約 50%）

各論Ⅰ	歯科疾患の予防・管理	約 6%
各論Ⅱ	成長発育に関連した疾患・病態	約 19%
各論Ⅲ	歯・歯髄・歯周組織の疾患	約 23%
各論Ⅳ	顎・口腔領域の疾患	約 23%
各論Ⅴ	歯質・歯・顎顔面欠損による障害とその他の口腔・顎顔面の機能障害	約 23%
各論Ⅵ	高齢者の歯科診療	約 6%

主な検査項目の表記

出題に際して、主な検査項目の記載は以下に準拠する。また、略して標記することもある。なお、「2 血液学検査」、「3 生化学検査」、「4 免疫血清学検査」、「7 生体機能検査」及び「8 栄養学検査」については、「*」のある検査項目以外は、出題に際して必ず基準値を記載する。

1. 一般臨床検査

分類	項目
尿検査	肉眼的所見
	尿量
	比重
	浸透圧
	pH
	尿蛋白
	尿糖
	ウロビリノゲン
	ケトン体
	ビリルビン
	アミラーゼ
	尿潜血
	尿沈渣所見
	細菌検査
	尿細胞診
	白血球反応
	妊娠反応
	【例】尿所見：尿蛋白 1+、糖(－)、沈渣に赤血球10-20/1視野、白血球多数/1視野、赤血球 円柱+。
糞便検査	肉眼的所見
	顕微鏡検査〈虫卵など〉
	便潜血反応
	細菌検査
喀痰検査	肉眼的所見
	細胞診
	細菌検査
脳脊髄液検査	圧〈Queckenstedt現象〉
	肉眼的所見
	初圧
	細胞数（種類）
	蛋白定量
	糖定量
	IgG%
	ミエリン塩基性タンパク
	クロール定量
	細菌検査
	細胞診
	オリゴクローナルバンド

分類	項目
穿刺液検査	肉眼的所見
	比重
	蛋白定量
	細胞数（種類）
	細胞診
	細菌検査

2 血液学検査

分類	項目
血球検査	赤血球 *
	ヘモグロビン〈Hb〉 *
	ヘマトクリット〈Ht〉 *
	平均赤血球容積〈MCV〉
	平均赤血球ヘモグロビン〈MCH〉
	平均赤血球ヘモグロビン濃度〈MCHC〉
	網赤血球
	白血球 *
	白血球分画 *
	血小板 *
	末梢血・骨髓血塗抹
	【例】血液所見：赤血球396万/ μ l、Hb 12.9g/dl、Ht 38%、網赤血球 1.2%、白血球7,800/ μ l（桿状核好中球 12%、分葉核好中球 51%、好酸球 2%、好塩基球 1%、単球 6%、リンパ球 28%）、血小板 20万/ μ l
凝固・線溶・血小板機能検査	出血時間
	PT〈プロトロンビン時間〉（秒、%、INRで表示） *
	APTT〈活性化部分トロンボプラスチン時間〉
	血漿アンチトロンビン
	トロンビン・アンチトロンビン複合体〈TAT〉
	血漿フィブリノゲン
	血清FDP
	Dダイマー
	プラスミン・プラスミンインヒビター複合体〈PIC〉
	血小板凝集能

分類	項目
溶関 血す に る 検 査	赤血球浸透圧抵抗試験
	Ham試験
輸関 血連 検 査	血液型
	交差適合試験〈クロスマッチ〉
赤 沈	赤沈 *

3 生化学検査

分類	項目
蛋白・蛋白分画	総蛋白〈TP〉 *
	蛋白分画
	アルブミン〈A1b〉 *
	α_1 ・ β_2 -マイクログロブリン
	IgG
	IgA
	IgM
	IgE
	フェリチン
	心筋トロポニンT
	心筋トロポニンI
生色 体素	総ビリルビン *
	直接ビリルビン *
酵素、 アイソザイム	AST *
	ALT *
	LD〈LDH〉
	ALP
	γ -GTP〈 γ GT〉
	コリンエステラーゼ〈ChE〉
	アミラーゼ
	リパーゼ
	CK
	CK-MB
	アンジオテンシン変換酵素〈ACE〉
含窒素成分	尿素窒素〈UN, BUN〉 *
	クレアチニン〈Cr〉 *
	尿酸〈UA〉
	アンモニア
糖代謝 関連	{随時} 血糖 *
	空腹時血糖 *
	ブドウ糖負荷試験〈OGTT〉
	NGSP値〔HbA1c値〕 *

分類		項目		
脂質代謝関連	総コレステロール〈TC〉		*	
	トリグリセライド〈TG〉		*	
	HDLコレステロール			
	LDLコレステロール			
電解質・酸塩基平衡	Na		*	
	K		*	
	Cl			
	Ca			
	P			
	Mg			
	浸透圧			
微量元素	Cu			
	Fe		*	
	Zn			
	TIBC〈鉄結合能〉			
	UIBC〈不飽和鉄結合能〉			
ビタミン	ビタミンB ₁			
	ビタミンB ₁₂			
	葉酸			
ホルモン	下垂体	TSH〈甲状腺刺激ホルモン〉		
		GH〈成長ホルモン〉		
		LH〈黄体化ホルモン〉		
		ACTH〈副腎皮質刺激ホルモン〉		
		FSH〈卵胞刺激ホルモン〉		
		PRL〈プロラクチン〉		
		ADH〈抗利尿ホルモン、バソプレシン〉		
	甲状腺	FT ₃ 〈遊離トリヨードサイロニン〉		
		FT ₄ 〈遊離サイロキシン〉		
		甲状腺 ¹²³ I摂取率		
		サイログロブリン		
		カルシトニン		
	副甲状腺 （上皮小体）	PTH〈副甲状腺ホルモン〉		
	副腎	コルチゾール		
		アルドステロン		
		17α-ヒドロキシprogテストロン		
		アドレナリン		
		ノルアドレナリン		
	消化管	ガストリン		

分類	項目
ホルモン	膵島
	インスリン
	グルカゴン
	Cペプチド〈CPR〉
	腎臓
	血漿レニン活性〈PRA〉
	アンジオテンシン
	エリスロポエチン
	性腺・胎盤
	エストラジオール〈E ₂ 〉
	エストリオール〈E ₃ 〉
	プロゲステロン
	テストステロン
	絨毛性ゴナドトロピン〈hCG〉
	心臓
	心房性ナトリウム利尿ペプチド〈H. ANP〉
	心室性ナトリウム利尿ペプチド〈BNP〉
	尿中ホルモン
	5-ヒドロキシインドール酢酸〈5-HIAA〉
	遊離コルチゾール
	カテコラミン
	バニルマンデル酸〈VMA〉
腫瘍マーカー	α-フェトプロテイン〈AFP〉
	CEA
	CA19-9
	CA125
	SCC
	PSA
線維化マーカー	RL-6

4 免疫血清学検査

分類	項目
炎症マーカー	C反応性蛋白〈CRP〉 *

分類	項目
感染の抗原・抗体	梅毒血清反応
	Weil-Felix反応
	ASO
	トキソプラズマ抗体
	寒冷凝集反応
	マイコプラズマ抗体
	ウイルス血清反応
	β-D-グルカン
	HTLV-I抗体
	HIV抗体
自己抗体	HBs抗原・HBs抗体
	HCV抗体
	リウマトイド因子〈RF〉
	抗CCP抗体
	抗好中球細胞質抗体〈ANCA〉
	LE細胞
	抗核抗体
	抗DNA抗体
	抗ssDNA抗体
	抗dsDNA抗体
	抗RNP抗体
	抗Sm抗体
	抗SS-A抗体
	抗SS-B抗体
	抗Jo-1抗体
	抗Scl-70抗体
	抗ミトコンドリア抗体
	抗平滑筋抗体
	抗サイログロブリン抗体
	抗甲状腺ペルオキシダーゼ〈TPO〉抗体
	抗TSH受容体抗体
	直接・間接Coombs試験
	抗アセチルコリン受容体抗体
	抗デスモグレイン3抗体
	抗BP180抗体
免疫蛋白	免疫電気泳動
	Bence Jones 蛋白
アレルギーに関する検査	アレルギー検査
	IgE、特異的IgE
	皮膚反応〈パッチテスト、皮内反応〉
	誘発試験

分類	項目
補 体	血清補体価 (CH ₅₀)、C3、C4
	免疫複合体
細食 胞菌 免疫 能検 査	リンパ球表面抗原検査
	CD4/8比
	好中球機能検査
	リンパ球刺激試験
	ツベルクリン反応
移免 植疫	組織適合検査 【例】HLA-B27

5 微生物学検査

分類	項目
病 原 体 検 査	塗抹標本の顕微鏡観察【例】結果はグラム陰性桿菌などと表記、結核・抗酸菌の場合はGaffky号数で表記
	培養法【例】嫌気培養法
	同定法【例】生化学的方法、免疫学的方法、遺伝学的方法。結果は <i>Porphyromonas gingivalis</i> などと表記
	薬剤感受性試験【例】微量液体希釈法、ディスク法。結果はメチシリン耐性などと表記
	遺伝子検査
	微生物の学名はイタリック体で表記。ただしウイルス名はローマン体で表記 【例】 <i>Staphylococcus aureus</i> , Poliovirus

6 病理組織学検査、細胞診

分類	項目
光顕・電顕標本	
染 色 法	Hematoxylin-eosin染色 (H-E染色)
	SudanⅢ染色
	PAS染色
	Congo-Red染色
	Gram染色
	Ziehl-Neelsen染色
	Grocott染色
	May-Giemsa染色
	Papanicolaou染色
	【例】舌生検H-E標本、生検材料の電顕写真、ケラチン免疫染色、ペルオキシダーゼ酵素組織化学

7 生体機能検査

分類	項目
動 脈 血 ガ ス 分 析	pH *
	PaCO ₂ *
	PaO ₂ *
	HCO ₃ ⁻
	BE
	【例】動脈血ガス分析(自発呼吸、room air) : pH 7.41、PaCO ₂ 41 Torr、PaO ₂ 83 Torr
呼 機 吸 能	%VC
	FEV ₁ %
	経皮的動脈血酸素飽和度 (SpO ₂) *
心 機 能	{12誘導}心電図
	運動負荷心電図
	心臓超音波検査
	心臓カテーテル検査
消 化 器 系	唾液分泌検査
	胃液検査
	消化管内圧検査
	色素排泄試験 BT-PABA排泄試験
内 分 泌 ・ 代 謝 機 能	インスリン負荷試験
	グルカゴン負荷試験
	ブドウ糖負荷試験
	絶食試験
	TRH試験
	CRH試験
	GHRH試験
	LHRH試験
	デキサメサゾン抑制試験
	水制限試験
	高張食塩水負荷試験
	ACTH試験
	フロセミド負荷試験
	PTH負荷試験 (Ellsworth-Howard試験)
	プロゲステロン負荷試験
	エストロゲン・プロゲステロン負荷試験
	ゴナドトロピン負荷試験
腎 機 能	クレアチニークリアランス
	濃縮試験 (Fishberg試験)
	糸球体濾過値 (GFR)
	レノグラム

分類	項目
神経運動・機能	脳波
	筋電図

8 栄養学検査

分類	項目
身計 体測	身長
	体重
	Body Mass Index (BMI)
血学 液検査 生化学	総蛋白 (TP) *
	アルブミン (Alb) *
包括的 栄養的 評価表	SGA
	MNA®

9 内視鏡検査

分類	項目
	{鼻咽喉内視鏡検査、顎関節内視鏡検査などと表記}

10 画像検査

分類	項目
エックス線 撮影	口内法
	二等分法
	平行法
	偏心投影法
	咬翼法
	咬合法
	Waters法
	頭部後前方エックス線撮影
	頭部側方向エックス線撮影
	顎関節エックス線撮影
	胸部エックス線撮影
	パノラマエックス線撮影
エックス線 造影 線	唾液腺造影
	血管造影
CT	単純CT
	造影CT
歯科用 コーンビームCT	

分類	項目
画像 磁気共鳴 MRI	単純MRI
	造影MRI
	磁気共鳴血管撮影 (MRA)
超音波 検査	頸部超音波検査
	カラードプラ法
シンチ グラフィ	骨シンチグラフィ
	唾液腺シンチグラフィ
	シングルフォトンエミッション断層撮影 (SPECT)
	ポジトロンエミッション断層撮影 (PET)

11 口腔検査

分類	項目
歯・歯 髄・根 管の 検査	視診
	透照診
	触診
	打診
	温度診
	化学診
	麻酔診
	切削診
	歯髄電気診 (電気歯髄診断)
	楔応力検査
	インピーダンス測定検査
	動揺度検査
	歯周ポケット検査
	塗抹検査
	細菌培養検査
	レーザー蛍光強度測定
	根管長測定
	DMF
	CFI
口腔 状態 の 検査	OHI
	OHI-S
	PII
	O' LearyのPCR
	PHP

分類	項目
歯周組織の検査	GI
	BI
	SBI
	PMA Index
	GBI
	PDI
	RussellのPI
	CPI
	PPD
	CAL
	BOP
	歯周病リスク検査
顎間関係の検査	安静空隙利用法〈下顎安静位利用法〉
	嚥下運動利用法
	発音利用法
	最大咬合力利用法
	習慣性閉口路利用法
	ゴシックアーチ描記法
唾液の検査	唾液分泌能検査 {ガム試験、Saxonテストなどと表記}
	唾液成分検査
	唾液腺シンチグラフィ
口臭の検査	官能検査
	ガスクロマトグラフィー検査
	ガスセンサー検査

分類	項目
言語機能検査	呼気持続時間の測定
	発声持続時間の測定
	発語明瞭度検査
	単音節復唱検査
	パラボグラム検査
外機能検査 聴覚検査	ブローイング検査
	発声言語の聴覚判定
	鼻漏出検査
味覚検査	電気味覚検査
	濾紙ディスク法
	点滴法 {滴下法、全口腔法などと表記}
皮膚知覚検査	痛覚検査
	触覚検査
	温度覚検査
	二点識別検査

12 口腔機能検査

分類	項目
咀嚼機能検査	咀嚼能力検査
	咬合力検査〈咬合圧検査〉
	咬合音検査
	筋電図検査
下顎運動検査	下顎運動路検査
	開口量・限界運動範囲の検査
嚥下機能検査	嚥下造影検査〈VF検査〉
	嚥下内視鏡検査〈VE検査〉
	改訂水飲み検査〈MWST〉
	反復唾液嚥下テスト〈RSST〉
	頸部聴診法
	フードテスト

必修の基本的事項

大 項 目	中 項 目	小 項 目
1 医の倫理と歯科医師のプロフェッショナルリズム 約2%	ア 医の倫理、生命倫理	a 患者の人権と医療
		b ニュルンベルグ綱領、ジュネーブ宣言、ヘルシンキ宣言、リスボン宣言、ヒポクラテスの誓い
		c 守秘義務、プライバシーの尊重、法の遵守
	イ 歯科医師と患者・家族との関係	a 患者中心の歯科医療、インフォームドコンセント、セカンドオピニオン
		b 患者の権利と義務
		c 自己決定権
2 社会と歯科医療 約2%	ア 患者・障害者のもつ心理・社会的問題	a 疾病・障害の概念・構造(社会的関わり)
		b QOL<生活の質、quality of life>
		c リハビリテーションの理念
		d ノーマライゼーション、バリアフリー
		e 患者・障害者の心理と態度
		f 国際生活機能分類<ICF>、国際障害分類<ICIDH>
		g ニーズとディマンド
	イ 歯科医療の社会的背景	a 健康意識、疾病構造
		b 国民医療費
	ウ 保健・医療・福祉・介護の制度	a 歯科医師法
		b 歯科衛生士法
		c 歯科技工士法
		d 薬事法
		e 医療法
		f 保健・医療・福祉・介護の各制度と職種
		g 地域歯科保健活動での各職種の連携に関する制度
	エ 臨床試験・治験と倫理	a GCP<医薬品の臨床試験の実施の基準>
		b 臨床研究、疫学研究の倫理指針
3 予防と健康管理・増進 約5%	ア 健康増進と疾病予防	a 概念
		b プライマリーヘルスケア、アルマ・アタ宣言
		c ヘルスプロモーション、オタワ憲章
		d 健康日本21
		e メタボリックシンドローム
		f 行動レベル、行動変容
	イ 地域保健	a 地域保健法、地域保健体制
		b 健康増進法
		c 歯科口腔保健の推進に関する法律
		d 8020運動
		e 健康危機管理
	ウ 母子保健	a 歯科健康診査(妊産婦、1歳6か月児、3歳児)
		b 妊産婦・乳幼児の保健指導
	エ 学校保健	a 保健教育・保健管理の概要
	オ 産業保健	a 労働者の健康管理、トータルヘルスプロモーションプラン<THP>
	カ 成人・高齢者保健	a 特定健康診査、特定保健指導
		b 健康増進事業、歯周疾患検診
		c 介護予防(地域支援事業、予防給付)

大項目	中項目	小項目
		d 福祉、介護保険
	キ フッ化物応用	a 全身的応用
		b 局所的応用
		c 安全性
	ク 保健指導	a 栄養と食生活
		b 喫煙、飲酒
		c ストレス、運動
		d 生活習慣病
	ケ 口腔清掃	a 機械的・化学的プラーク〈口腔バイオフィルム〉コントロール
		b プラーク形成機序・付着抑制
		c 口腔清掃行動
	コ 口腔のケア	a 口腔衛生管理のための口腔のケア
		b 口腔機能維持向上のための口腔のケア
4 歯科医療の質と安全の確保 約7%	ア 医療の質の確保	a 患者満足度
		b 患者説明文書
		c 診療録開示
		d クリニカルパス
	イ 医療事故の防止	a 医療事故と医療過誤
		b 医療事故の発生要因
		c 患者の安全管理(誤飲、誤嚥、誤薬、出血、外傷、感染、被曝、目の保護)
		d 医療者の安全管理(感染、針刺し事故、外傷、被曝、目の保護)
		e 医療危機管理<リスクマネジメント>
		f ヒヤリハット、アクシデント、インシデント、医療事故報告書、インシデントレポート
		g 医療安全対策(医薬品・医療機器の安全管理)
	ウ 院内感染対策	a スタンダードプレコーション<標準予防策>
		b 抗菌薬の適正使用と薬剤耐性菌
		c 医療廃棄物処理
		d 院内感染対策委員会
	エ 医療裁判	a 医事紛争、賠償
		b 医療訴訟(刑事裁判、民事裁判)
	オ 医薬品・医療機器による健康被害	a 副作用・有害事象への対応(報告義務、治療、補償)
	カ 血液・血液製剤の安全性	a 保管、管理
5 診療記録と診療情報 約2%	ア 診療録、医療記録	a 診療に関する記録(診療録、同意書、処方箋、検査所見記録、画像記録、手術記録、入院診療計画書、退院時要約、技工指示書、模型)
		b 診療録の管理・保存
		c SOAP(主観的情報、客観的情報、評価、計画)
	イ 診療情報	a 個人情報保護
		b 診療情報の開示
	ウ 診断書	a 診断書、死亡診断書

大 項 目	中 項 目	小 項 目
6 人体の正常構造・機能 約14%	ア 全身の構造・機能	a 遺伝子、染色体
		b 細胞・細胞内小器官の構造・機能
		c 組織(上皮組織、支持組織(血液を含む)、筋組織、神経組織)
		d 生体構成成分の構造・機能
		e 器官系(骨格系、筋系、消化器系、呼吸器系、循環器系<脈管系>、泌尿器系、生殖器系、神経系、感覚器系、内分泌系)
		f 免疫(自然免疫、獲得免疫)
	イ 口腔・顎顔面の構造・機能	a 口腔の構造(口腔前庭、固有口腔、口蓋、舌、口(腔)底、唾液腺、頬、口唇、口峡、歯列)
		b 口腔の機能(咬合、咀嚼、嚥下、呼吸、発声と構音、消化、皮膚・粘膜の体性感覚、味覚)
		c 唾液の種類
		d 頭部の筋(表情筋・咀嚼筋の種類)
		e 頭蓋を構成する骨(神経頭蓋、内臓頭蓋)
		f 頭頸部の神経(三叉神経、顔面神経、舌咽神経、迷走神経、副神経、舌下神経)
		g 頭頸部の動脈(総頸動脈、外頸動脈、内頸動脈、舌動脈、顔面動脈、顎動脈)
		h 顎関節の構造(下顎頭、下顎窩、関節円板、関節包、関節結節、靱帯)
	ウ 歯・歯周組織の構造・組成・機能	a 歯の形態(歯種の鑑別)
		b 歯式
		c 歯の構造・組成
		d 歯周組織の構造・組成(根尖歯周組織、辺縁歯周組織)
		e 歯髄の感覚
		f 歯根膜の感覚
		g 歯・歯周組織が受ける力
	エ 口腔の生態系	a 常在微生物叢
		b 食品の影響
		c 唾液の作用
		d プラーク<口腔バイオフィルム>
7 人体の発生・成長・発達・加齢 約7%	ア 人体の成長発育	a 発育区分(出生前期、新生児期、乳児期、幼児期、学童期、思春期)
		b 発育期の特徴
		c 成長発育・発達の特徴(身体成長、原始反射、運動の発達、社会性の発達、言語の発達、情動の発達)
		d 小児の生理的特徴
		e 身体成長と精神発達の評価法(Kaup指数、Rohrer指数、BMI、暦年齢、生理的年齢、発達スクリーニング検査)
	イ 歯・口腔・顎・顔面の発生・成長発育	a 歯・歯列の成長発育(歯の発生、発育時期、萌出時期・順序、歯の脱落・交換時期、歯齢)
		b 上顎骨・下顎骨の成長発育の特徴
	ウ 加齢による歯・口腔・顎・顔面の変化	a 歯の変化
		b 歯周組織の変化

大 項 目	中 項 目	小 項 目
		c 顎骨・顎堤の変化
		d 顔面の変化
		e 歯列・咬合の変化
		f 顎関節の変化
		g 筋の変化
		h 神経系の変化
		i 口腔粘膜の変化
		j 唾液腺の変化
	エ 歯の喪失に伴う変化	a 形態的变化
		b 機能的変化
8 医療面接 約4%	ア 意義, 目的	a 医療情報の収集・提供
		b 患者歯科医師関係の確立
		c 患者の指導、動機付け、治療への参加
	イ 面接のマナー	a 身だしなみ
		b 挨拶、態度
		c 会話のマナー、言葉遣い
		d コミュニケーションの進め方(質問法、傾聴の仕方、非言語的コミュニケーション)
		e プライバシーの保護
		f 感情面への対応
	ウ 病歴聴取	a 主訴
		b 現病歴
		c 常用薬、アレルギー歴
		d 既往歴
		e 家族歴
		f 患者背景(生活習慣、喫煙歴、社会歴)
		g 患者・家族の考え方・希望
9 主要な症候 約10%	ア 全身の症候	a 発熱、全身倦怠感、体重減少・増加、ショック、意識障害、失神、脱水、浮腫、けいれん、めまい、咳、喀痰、喘鳴、チアノーゼ、胸痛、呼吸困難、息切れ、動悸、頻脈、徐脈、不整脈、血圧上昇・低下、食思(欲)不振、悪心、嘔吐、下痢、貧血、睡眠障害、頭痛、頭重感、摂食・嚥下障害
	イ 歯・口腔・顎・顔面の症候のとらえ方	a 口腔・顎・顔面の一般的症候(疼痛、腫脹、腫瘍、色調の変化、熱感、出血、瘻、硬さの異常、触覚の異常、機能障害)
		b 歯の症候(齲蝕、硬組織欠損、変色、亀裂、破折)
		c 歯髄の症候(自発痛、誘発痛)
		d 根尖・辺縁歯周組織の症候
		e 歯列・咬合の症候
		f 口腔粘膜の症候
		g 顎骨の症候(形態の異常)
		h 顎関節の症候(関節痛、関節雑音、運動障害)
		i 筋の症候(圧痛、運動麻痺)
		j リンパ節の症候
		k 唾液腺の症候

大 項 目	中 項 目	小 項 目
	ウ 全身的疾患による主な口腔症状	l 感覚異常(味覚、体性感覚)
		a 貧血による舌炎
		b 出血性素因による歯肉出血・抜歯後出血
		c 急性白血病による歯肉出血・腫脹
		d 後天性免疫不全症候群(AIDS)によるカンジダ症・歯周病
		e ウイルスによるアフタ性潰瘍
		f 結核・梅毒による粘膜潰瘍
		g 金属によるアレルギー性変化(苔癬様病変)
		h 糖尿病による口腔乾燥・歯周病の増悪
		i ビタミン欠乏による歯肉出血
		j 臓器移植に関連した口腔症状(免疫抑制、移植片対宿主病(GVHD))
		k 脳血管疾患、神経筋疾患の摂食・嚥下障害
		l 他臓器癌の口腔症状
		m 認知症患者の口腔症状
	エ 薬物の有害事象による口腔症状	a 多形(滲出性)紅斑・歯肉肥厚(歯肉増殖)・歯の着色・唾液分泌量減少・唾液分泌量増加・味覚異常・顎骨壊死・抗腫瘍薬による口内炎、菌交代現象(菌交代症)
10 診察の基本 約4%	ア 診察のあり方	a 安全と感染への配慮
		b プライバシー・羞恥心・苦痛への配慮
		c 自己紹介、患者の確認
		d 患者への説明
		e 患者への声かけ・例示
	イ 基本手技	a 視診
		b 触診
		c 打診
		d 聴診
	ウ 診察時の体位	a 患者の体位
		b 術者の姿勢・位置
	エ 口腔診察用器材の準備と選択	
	オ 全身の診察	a 全身の外観(体型、栄養、姿勢、歩行、発声)
		b 意識状態、精神状態
		c バイタルサイン(呼吸、脈拍、血圧、体温)
	カ 口腔・顎・顔面の診察	a 顔貌の対称性、顔色、皮膚
		b 口腔粘膜
		c 所属リンパ節
		d 唾液腺
		e 下顎運動
	キ 歯列・咬合状態の診察	a 歯列弓の形態・大きさ
		b 前歯部の被蓋
		c 臼歯部の咬合状態
	ク 歯・歯周組織の診察	a 歯の所見
		b 歯髓の症状
		c 根尖・辺縁歯周組織の症状

大 項 目	中 項 目	小 項 目
	ケ 心理・社会的側面についての配慮	a 患者の心理・社会的側面・性格の把握 b 家族背景
11 検査の基本 約10%	ア 意義、目標	a 診断 b 治療経過の評価 c 医療情報の収集
	イ 検査の安全	a 患者・検体の確認 b 実施(必要性)の説明 c 検査の合併症
	ウ 検体検査の種類	a 一般臨床検査(尿、穿刺液、関節液) b 血球検査、凝固・線溶、血液型・輸血関連検査、赤沈 c 生化学検査(糖質、糖、代謝関連物質、蛋白、含窒素成分、脂質代謝関連物質、電解質、酸塩基平衡、酵素、ホルモン) d 免疫血清学検査(抗体、補体、炎症反応、感染症の血清学的診断) e 微生物学検査
	エ 歯・歯周組織・口腔・顎・顔面の検査	a 歯の検査(硬組織、歯髄) b 根尖歯周組織の検査 c 辺縁歯周組織の検査 d 顎関節の検査 e 筋の検査 f 唾液腺の検査 g 味覚の検査
	オ 画像検査	a エックス線撮影(口内法、パノラマエックス線検査、CT、歯科用コーンビームCT、造影検査)
	カ 病理検査	a 細胞診 b 組織診
	キ 結果の解釈	a 病歴との関連(既往歴・投与薬物との関連) b 症候との関連
12 臨床判断の基本 約2%	ア 根拠に基づいた医療<EBM>	a 意義 b 齲蝕予防法の評価 c 歯周病予防法の評価
	イ 基準値	a 基準範囲の概念 b 生理的変動 c 性差、年齢差
	ウ 有効性、効率性	a 効率とリスク b 費用対効果
13 初期救急 約1%	ア 救急患者の診察	a 全身的偶発症の原因推定 b バイタルサインの把握 c 意識障害の評価 d 病態・疾患の鑑別 e 重要臓器の機能状態の把握
	イ 救急処置	a 一次救命処置<BLS>、気道確保、人工呼吸、胸骨圧迫、除細動、静脈確保、酸素療法、基本的救急薬品、止血法、輸液療法、輸血

大 項 目	中 項 目	小 項 目
		b 救急処置を要する症状(失神、ショック、けいれん、呼吸困難、胸痛、嘔吐、皮膚症状、誤飲と誤嚥)
14 主要な疾患と障害 の病因・病態 約12%	ア 疾病の概念	a 健康・疾病の概念
		b 先天異常、発育異常
		c 損傷
		d 炎症
		e 感染症
		f 嚢胞
		g 腫瘍
		h 循環障害
		i 代謝障害、萎縮、壊死、壊疽
		j 病的増殖
		k 精神・神経疾患
		l 放射線の影響
	イ 歯・口腔・顎・顔面の疾患と障害の概念	a 歯の硬組織疾患
		b 歯髄疾患
		c 根尖性歯周組織疾患
		d 歯周病
		e 不正咬合
		f 咬合・咀嚼障害
		g 免疫異常
		h 先天異常、発育異常
		i 損傷
		j 炎症性疾患
		k 嚢胞
		l 腫瘍、腫瘍類似疾患
		m 顎関節疾患
		n 口腔粘膜疾患
		o 唾液腺疾患
		p 口腔に症状を現す血液疾患・出血性素因
		q 薬物・放射線による有害事象
		r 神経疾患、心因性病態
		s 摂食・嚥下障害
15 治療の基礎・基本 手技 約12%	ア 意義, 目標	a 疾患の治療、自然治癒
	イ 種類, 特性	a 原因療法、対症療法
		b 保存療法、根治療法
	ウ 治療の適応・選択	a 適応
		b 禁忌
	エ 治療の場	a 外来
		b 入院
		c 施設
		d 居宅
		e 地域
		f 隔離
	オ 使用器材、取扱法	a 基本的器材

大 項 目	中 項 目	小 項 目
	カ 乳幼児・高齢者・妊産婦・障害者・要介護者の治療	a 治療環境
		b 患者の体位
		c コミュニケーション
		d チーム医療
	キ 器械の安全な取扱法	a 歯科用ユニット
		b エックス線撮影装置
	ク 消毒・滅菌と感染対策	a 消毒・滅菌法
		b 手術野の防湿・消毒、清潔操作
		c 手術室
	ケ 注射法の種類	a 皮内
		b 皮下
		c 筋肉
		d 静脈
	コ 麻酔法	a 局所麻酔(局所麻酔法、局所麻酔薬、血管収縮薬、合併症、偶発症)
		b 全身麻酔(吸入麻酔法、静脈麻酔法)
		c 精神鎮静法(吸入鎮静法、静脈内鎮静法)
	サ 創傷の処置	a 洗浄、消毒
		b 止血
		c 縫合
	シ 膿瘍の処置	a 穿刺、切開、ドレナージ
	ス 抜歯	a 基本的術式
	セ 歯の切削	a 基本的術式
	ソ 歯の硬組織疾患の治療	a 基本的術式
	タ 歯髄疾患の治療	a 基本的術式
	チ 感染根管の治療	a 基本的術式
	ツ 根尖性歯周組織疾患の治療	a 基本的術式
	テ 歯周病の治療	a 基本的術式
	ト 歯質・歯の欠損による障害の治療	a 基本的術式
	ナ 不正咬合の治療	a 基本的術式
	ニ 印象採得	a 基本的術式
	ヌ 顎間関係の記録	a 基本的術式
	ネ 咬合器	a 種類
		b 基本的使用法
	ノ 歯科鑄造	a 鑄造法の基本的術式
	ハ 合着・接着法	a 基本的術式
	ヒ 薬物療法	a 薬物作用の種類(局所作用、全身作用、直接作用、間接作用)
		b 薬物の適用方法
		c 薬物の体内動態(吸収、分布、代謝、排泄)
		d 薬物の効果に影響する因子(年齢、個体差、種差、性差、プラセボ効果)
		e 薬物の作用部位

大項目	中項目	小項目
		f 薬物の反復投与
		g 用量と薬理作用(LD ₅₀ 、ED ₅₀ 、治療係数<安全域>、TDM<therapeutic drug monitoring><薬物の血中濃度モニタリング>)
		h 薬物の併用(協力作用、拮抗作用)
		i 薬物の副作用・有害作用(薬物アレルギー(アナフィラキシーショック)、皮膚障害、血液障害、消化器障害、肝障害、腎障害、呼吸器障害、中枢神経障害)
		j 薬物投与上の注意(禁忌、小児、妊婦、高齢者、全身疾患を有する患者)
		k 薬物の保管・管理
	フ 栄養療法	a 経口栄養、経静脈栄養、経管栄養(経腸栄養、胃瘻<PEG>)
	ヘ 口腔機能のリハビリテーション	a 機能の回復(咀嚼機能、摂食・嚥下機能、構音機能)
		b 口腔機能管理
		c コミュニケーションと社会参加
	ホ 患者管理の基本	a 口腔環境の評価(口腔清掃状態、補綴装置の清掃状態、残存歯の状態、口腔粘膜の状態、咬合状態、補綴装置の適合状態、顎堤の状態、唾液、味覚)
		b 全身管理に留意すべき疾患・対象(気管支炎、気管支喘息、肺炎、慢性閉塞性肺疾患<COPD>、心筋梗塞、狭心症、高血圧症、心不全、心内膜炎、脳内出血、脳梗塞、胃潰瘍、十二指腸潰瘍、急性・慢性肝炎、肝硬変、胃食道逆流症<GERD>、腎炎、慢性・急性腎不全、貧血、急性白血病、出血性素因、血友病、von Willebrand病、糖尿病、骨粗鬆症、甲状腺機能亢進症、甲状腺機能低下症、副腎機能亢進症、副腎機能低下症、膠原病、後天性免疫不全症候群<AIDS>、認知症、統合失調症、うつ病、双極性障害、てんかん、Alzheimer病、Parkinson病、アルコール・薬物依存症、悪性腫瘍、周術期、妊婦、小児、高齢者、免疫不全、臓器移植患者、菌交代現象<菌交代症>)
		c 日常生活動作<ADL>の評価
	マ 歯科材料	a 基本的性質
		b 印象材
		c 模型材
		d 修復用材料
		e 合着・接着材
		f 義歯用材料
		g 予防填塞材
		h 歯内療法用材料
		i 切削・研削・研磨用材料
16 チーム歯科医療 約2%	ア 医療機関でのチームワーク	a 歯科医師・医師間
		b 歯科医師・歯科衛生士・歯科技工士間
		c 多職種連携
	イ 地域医療でのチームワーク	a 病診連携
		b 診診連携

大 項 目	中 項 目	小 項 目
		c 保健・医療・福祉・介護・教育の連携
		d 家族との連携
		e 地域連携クリニカルパス
	ウ チームワーク形成	a リーダーシップ
		b チームの調整技能
	エ コンサルテーション	a 自己責任と自分の限界
	オ 社会生活	a 社会復帰
		b 社会保障制度(所得、介護、障害)
		c 人的支援
		d 物的支援(福祉用具)
		e 社会的支援
		f 自立
17 一般教養的事項 約4%	ア 医学史、歯科医学史	
	イ 医学・医療に関する 人文、社会科学、自 然科学、芸術などに 関連する一般教養的 知識や考え方	
	ウ 歯科医療に必要な基 本的医学英語	

齒科医学総論

総論 I 保健医療論〔約 12%〕

大 項 目	中 項 目	小 項 目	備 考
1 健康・疾病・障害の概念	ア 健康の概念		
	イ 健康に関わる要因		
	ウ 社会環境の変化		
	エ 疾病の自然史と対応		
	オ 障害の概念と対応		
2 保健・医療・福祉・介護関係法規	ア 医事衛生法規		
	イ 保健衛生法規		
	ウ 医療保障・社会福祉・介護保険関連法規		
	エ 予防衛生法規		
	オ 薬事衛生法規		
3 保健・医療・福祉・介護の仕組みと資源	ア 衛生行政の組織		
	イ 医療機関		
	ウ 福祉施設		
	エ 介護施設		
	オ 医療関係職種		
	カ 福祉・介護の制度と職種		
	キ 医療連携、チーム医療		
	ク 保健・医療・福祉・介護の制度と連携		
4 地域保健、地域医療	ア 公衆衛生活動、地域保健活動		医療政策を含む
	イ 医療計画、健康増進計画		
	ウ ヘルスプロモーション		
	エ 地域保健活動の進め方		
	オ 都道府県、市町村、保健所の歯科保健業務		
	カ プライマリケア		
	キ かかりつけ歯科医機能		
	ク 救急・災害時等の歯科保健医療対策		大規模災害を含む
	ケ へき地医療		
	コ 在宅医療、在宅歯科医療		
5 歯科法医学	ア 死体解剖と死因究明制度		
	イ 死後変化		
	ウ 個人識別、身元確認		
6 社会保障と医療経済	ア 社会保障制度		
	イ 医療保険、介護保険		
	ウ 医療経済と国民医療費		
7 国際保健	ア 世界の保健・医療の問題と方向性		
	イ 国際保健・医療協力		

総論Ⅱ 健康管理・増進と予防〔約9%〕

大項目	中項目	小項目	備考
1 健康の保持・増進と予防	ア 健康教育・学習、保健指導、健康相談		
	イ 健康づくり(栄養、運動、休養)		
	ウ 禁煙指導・支援		
	エ 健康診断、スクリーニング検査		
	オ 口腔の環境・機能		
	カ 口腔の診察・検査		
	キ 歯への沈着物		
	ク 歯科口腔保健の推進に関する法律		
2 母子保健、母子歯科保健	ア 現状、動向		
	イ 母性保健		
	ウ 小児保健		
	エ 児童虐待		
	オ 母子歯科保健の意義		
	カ 妊産婦の歯科保健		
	キ 乳幼児の歯科保健		
	ク 乳幼児歯科健康診査		
3 学校保健、学校安全、学校歯科保健	ア 現状、動向		
	イ 学校保健の領域・内容		
	ウ 学校保健関係者		
	エ 学校歯科保健教育		
	オ 学校歯科保健管理		
	カ 組織活動		
	キ 学校安全		
4 産業保健、産業歯科保健	ア 現状、動向		
	イ 労働安全衛生管理		
	ウ 業務上疾病、作業関連疾患		
	エ 健康診断、事後措置		
	オ 産業歯科保健の意義		
	カ 産業歯科保健活動		
	キ 職業性歯科疾患		
5 成人保健、成人歯科保健	ア 現状、動向		
	イ 特定健康診査、特定保健指導		
	ウ 成人歯科保健		
	エ 成人の口腔保健管理		
6 高齢者保健	ア 現状、動向		
	イ 高齢者の特性		
	ウ QOL<quality of life>、日常生活動作<ADL>		
	エ 要介護高齢者の歯科保健・医療		
	オ 地域支援事業		
7 精神保健福祉	ア 現状、動向		
	イ 精神的健康の保持・増進		

大項目	中項目	小項目	備考
	ウ 精神的健康の破綻と対応		
	エ 精神的健康と社会整備		
	オ 精神障害と歯科保健		
8 障害者保健福祉	ア 現状、動向		
	イ 障害者と社会		
	ウ 障害者の保健と医療・福祉		
	エ 障害者の歯科保健と医療・福祉		
9 人口統計と保健統計	ア 人口統計		
	イ 保健統計		
10 疫学とその応用	ア 疫学の概念		
	イ 疫学指標		
	ウ 統計解析		
	エ 因果関係の成立		
	オ 観察研究		
	カ 介入研究		
	キ 歯科集団検診		
	ク 歯科領域における統計指標		
	ケ 歯科領域における疫学調査		
	コ 齲蝕の疫学要因		
	サ 歯周病の疫学要因		
	シ 不正咬合の疫学要因		
	ス 口腔癌の疫学要因		
11 感染症対策	ア 感染症の疫学		
	イ 感染症対策		
	ウ 院内感染対策		
12 国民栄養と食品保健	ア 国民栄養の現状		
	イ 食事摂取基準		
	ウ 食生活指針		
	エ 食育基本法		
	オ 食の安全性と機能性		
	カ 食の機能と口腔保健		
13 環境保健	ア 環境と適応		
	イ 地球環境の変化・健康影響		
	ウ 環境汚染の発生要因・健康影響		
	エ 公害の健康影響と対策		
	オ 環境汚染の評価と対策		
	カ 廃棄物処理		
	キ 大気・水と健康		
	ク 放射線と健康		
	ケ 騒音・振動と健康		
	コ 住居と健康		

総論Ⅲ 人体の正常構造と機能〔約5%〕

大項目	中項目	小項目	備考
1 細胞、組織	ア 生体を構成する基本物質		
	イ 細胞の構造・機能		
	ウ 細胞間情報伝達機構		
	エ 遺伝子、遺伝		
	オ 上皮組織		
	カ 支持組織		血液を含む
	キ 筋組織		
	ク 神経組織		
2 器官系	ア 骨格・筋系<運動器系>		
	イ 消化器系		
	ウ 呼吸器系		
	エ 循環器系<脈管系>		
	オ 泌尿器系		
	カ 生殖器系		
	キ 神経系<中枢・末梢神経系>		
	ク 感覚器系		
	ケ 内分泌系		血清カルシウム調節機構を含む
3 免疫	ア 免疫系臓器、免疫担当細胞		
	イ 免疫応答とその調節		
	ウ 自然免疫		
	エ 獲得免疫		

総論Ⅳ 歯・口腔・顎・顔面の正常構造と機能〔約9%〕

大項目	中項目	小項目	備考
1 頭頸部の構造	ア 頭頸部の骨		副鼻腔を含む
	イ 頭頸部の筋		
	ウ 頭頸部の脈管		
	エ 頭頸部の神経		
	オ 頭頸部の内臓		咽頭、喉頭を含む
	カ 顔面		
2 口腔・顎・顔面の構造	ア 口腔前庭		
	イ 固有口腔		
	ウ 口蓋		
	エ 舌		
	オ 口(腔)底		
	カ 唾液腺		
	キ 頬		
	ケ 口唇		
	コ 口峽		
	サ 歯列		
	シ 顎関節		
3 口腔・顎・顔面・頭頸部の機能	ア 下顎位、下顎運動		
	イ 咬合接触、咬合様式		
	ウ 顎関節の機能		
	エ 吸啜		
	オ 咀嚼		
	カ 嚥下		
	キ 嘔吐		
	ケ 嗅覚		
	コ 発音、構音		
	サ 顎・口腔領域の反射		
	シ 味覚		
	ス 顔面皮膚の感覚		
	セ 粘膜の感覚		
	ソ 唾液分泌		
	タ 呼吸		
4 歯・歯周組織の構造と機能	ア 歯の形態		
	イ 歯式		
	ウ エナメル質		
	エ 象牙質・歯髄複合体		
	オ セメント質		
	カ 歯肉		
	キ 歯根膜<歯周靱帯>		
	ケ 歯槽骨		
	コ 歯・歯列の機能		
5 口腔の生態系	ア 唾液		
	イ 常在微生物叢		
	ウ プラーク<口腔バイオフィルム>		

総論Ⅴ 発生、成長、発達、加齢〔約3%〕

大項目	中項目	小項目	備考
1 人体の発生・成長・発達・加齢	ア 生殖、初期発生		
	イ 胎芽期		
	ウ 胎児期		
	エ 新生児期、乳児期		
	オ 幼児期、学童期		
	カ 思春期		
	キ 成長・発達の評価		
	ク 加齢、老化		
	ケ 骨格・筋系〈運動器系〉		
2 機能の発達	ア 運動・感覚機能		
	イ 認知機能		
	ウ 言語機能		
	エ 情緒・社会性		
3 歯・口腔・顎・顔面の発生	ア 顔面		
	イ 顎、口蓋		
	ウ 舌		
	エ 唾液腺		
	オ 顎関節		
	カ 歯の形成・萌出		
	キ 歯周組織の形成		
	ク 軟骨内骨化、膜内骨化		
	ケ 骨の形成・吸収・改造〈リモデリング〉		
	コ 石灰化機構		
4 歯・口腔・顎・顔面・頭蓋の成長発育	ア 脳頭蓋の成長発育		
	イ 顔面頭蓋の成長発育		
	ウ 歯列・咬合の成長発育		
5 口腔・顎の機能の発達	ア 咀嚼		
	イ 嚥下		
	ウ 唾液分泌		
	エ 味覚		
6 加齢・老化による歯・口腔・顎・顔面の変化	ア 形態的变化		
	イ 機能的変化		

総論Ⅵ 病因、病態〔約9%〕

大項目	中項目	小項目	備考
1 病因論	ア 染色体・遺伝子・発生の異常		
	イ 環境と疾患		
2 細胞組織の傷害	ア 代謝障害(変性)		
	イ 萎縮		
	ウ 細胞死		
3 修復と再生	ア 口腔の診察・検査		
	イ 肥大、過形成(増生)		
	ウ 化生		
	エ 再生		
	オ 創傷治癒		
	カ 異物処理		
4 循環障害	ア 全身の循環障害		
	イ 局所の血液分布異常		
	ウ 閉塞性の循環障害		
5 炎症	ア 炎症の概念		
	イ 炎症の原因		
	ウ 炎症に関与する細胞		
	エ 炎症の機序・病態		
	オ 急性炎症、慢性炎症		
	カ 肉芽腫性炎の種類・特徴		
6 感染症、アレルギー、免疫疾患	ア 感染の概念		
	イ 病原微生物		
	ウ 宿主側の因子		
	エ 感染症		
	オ 免疫不全		
	カ 自己免疫疾患		
	キ アレルギー反応(過敏症)		
7 腫瘍	ア 腫瘍の概念		
	イ 腫瘍発生の病因		
	ウ 腫瘍の疫学		
	エ 腫瘍の発育様式		
	オ 腫瘍の組織学的構造		
	カ 構造異型、細胞異型		
	キ 良性腫瘍、悪性腫瘍		
	ク 前癌状態、前癌病変		
	ケ 腫瘍と宿主の関係		
8 疼痛	ア 侵害受容性疼痛		
	イ 神経障害性疼痛		
	ウ 心因性疼痛		
	エ 口腔・顔面領域の疼痛		
9 中毒、放射線障害	ア 中毒の発生要因・病態生理		
	イ 放射線の身体的影響		
	ウ 放射線の遺伝的影響		
	エ 放射線の確率的・確定的影響		
10 医原病	ア 検査・診断に伴う医原病		

大 項 目	中 項 目	小 項 目	備 考
	イ 治療に伴う医原病		
11 歯・口腔・顎・顔面・ 頭蓋疾患の病因・病態	ア 先天異常・後天異常		
	イ 歯の硬組織・歯髄・根尖歯周組織 ・辺縁歯周組織の疾患		
	ウ 口腔粘膜の疾患		
	エ 唾液腺の疾患		
	オ 顎・顎関節の疾患		
	カ 嚢胞		
	キ 腫瘍		
	ク 損傷		
	ケ 口腔・顎顔面領域に症状を伴う全 身疾患		
	コ 口腔疾患の治療に伴う変化		
	サ リスクファクター		
12 歯の喪失に伴う口腔・ 顎・顔面の変化	ア 口腔の形態・機能の変化		
	イ 顎骨の形態変化		
	ウ 顔貌の変化		
	エ 顎関節の変化		
	オ 全身への影響		
13 個体の死	ア 死の概念・判定		
	イ 生物学的な個体の死		

総論Ⅶ 主要症候〔約4%〕

大項目	中項目	小項目	備考
1 全身の症候	ア 一般的症候		発熱、全身倦怠感、体重減少・増加、ショック、意識障害、失神、脱水、浮腫、けいれん、めまい、咳、喀痰、喘鳴、チアノーゼ、胸痛、呼吸困難、息切れ、動悸、頻脈、徐脈、不整脈、血圧上昇・低下、食思(欲)不振、悪心、嘔吐、下痢、貧血、睡眠障害、頭痛、頭重感、摂食・嚥下障害
	イ 皮膚、外表		
	ウ 呼吸器、心臓、血管		
	エ 消化器		
	オ 血液、造血器、免疫		
	カ 口腔の診察・検査		
	キ 心理、精神機能		
	ク 神経(知覚障害と運動障害を含む)		
	ケ 内分泌、代謝、栄養		
2 歯・口腔・顎・顔面の症候	ア 歯、歯髄・根尖歯周組織		
	イ 辺縁歯周組織		
	ウ 歯列、咬合		
	エ 口腔粘膜		
	オ 顎骨		
	カ 顎関節		
	キ 顔面		
	ク 舌、軟組織、唾液腺、リンパ節		
	ケ 口腔機能障害	a 開口・閉口障害、咀嚼障害、摂食・嚥下障害、発音・構音障害、味覚障害、呼吸障害、感覚障害、口腔乾燥	

総論Ⅷ 診察〔約7%〕

大項目	中項目	小項目	備考
1 診察総論	ア 医療面接		
	イ 診察の基本		
	ウ 全身の診察		
	エ 救急時の診察		
	オ 根拠に基づいた医療<EBM>		
	カ 評価の基本		
2 小児への対応	ア 身体的特徴		
	イ 心理・社会的特徴		
	ウ 診察		
	エ 評価		
	オ 留意すべき疾患		発達障害(学習障害<LD>、注意欠陥多動性障害<ADHD>、自閉症スペクトラム障害<ASD>)の概念と対応
3 障害者への対応	ア 障害の概念		
	イ 障害の分類		
	ウ 診察		
	エ 評価		
	オ 介助、介護、患者管理		
4 妊婦・授乳婦への対応	ア 身体的特徴		
	イ 心理・社会的特徴		
	ウ 診察		
	エ 評価		
	オ 歯科治療上留意すべき事項		
5 高齢者への対応	ア 身体的特徴		
	イ 心理・社会的特徴		
	ウ 医療情報の収集		
	エ 診察		
	オ 評価		
	カ 要介護高齢者の歯科治療		
	キ 在宅歯科医療		
	ク 摂食・嚥下障害とリハビリテーション		
	ケ 多職種連携		
6 全身疾患を有する者への対応	ア 留意すべき疾患		悪性新生物、心疾患、脳血管疾患、腎不全、肝疾患、糖尿病、高血圧性疾患、感染症など
	イ 身体的特徴		
	ウ 心理・社会的特徴		
	エ 医療情報の収集		
	オ 診察		
	カ 評価		
	キ 医療連携、チーム医療		

総論Ⅸ 検査〔約16%〕

大項目	中項目	小項目	備考
1 口腔内検査・口腔機能検査	ア 歯の硬組織の検査		
	イ 歯髄検査		
	ウ 根尖歯周組織検査		
	エ 辺縁歯周組織検査		
	オ 舌・口腔粘膜検査		
	カ 歯列・咬合検査		
	キ 唾液・唾液腺検査		
	ク 口腔清掃状態検査		
	ケ 下顎位検査		
	コ 下顎運動検査		
	サ 顎関節・筋機能検査		
	シ 舌運動・舌圧検査		
	ス 咀嚼機能検査		
	セ 咬合力検査		
	ソ 嚥下機能検査		
	タ 構音機能検査		
	チ 鼻咽腔閉鎖機能検査		
	ツ 味覚検査		
	テ 口臭検査		
2 画像検査	ア 電離放射線		
	イ 放射線の単位・測定		
	ウ 放射性同位元素		
	エ エックス線撮影装置・器材		
	オ エックス線画像の形成		
	カ デジタル画像システム		
	キ 放射線の防護・管理		
	ク 検査における医療情報		検査情報検索システム、診療支援システム、画像情報システム、画像診断支援システム<CAD>
	ケ 口内法エックス線検査		
	コ パノラマエックス線検査		
	サ 顎顔面頭蓋部エックス線検査		
	シ CT		
	ス 歯科用コーンビームCT		
	セ MRI		
	ソ シンチグラフィ		SPECT、PETを含む
	タ 超音波検査		
	チ 造影検査		
	ツ 内視鏡検査		
3 検体検査	ア 検体の採取・保存		
	イ 一般臨床検査		
	ウ 血液学検査		
	エ 生化学検査		

大項目	中項目	小項目	備考
	オ 免疫学検査		
	カ 微生物学検査		
	キ 病理組織学検査、細胞診		
	ク 染色体・遺伝子検査		
4 生体機能検査	ア 呼吸機能検査		パルスオキシメトリ
	イ 心機能検査		
	ウ 消化管機能検査		
	エ 肝・胆道機能検査		ICG試験
	オ 脾機能検査		
	カ 内分泌・代謝機能検査		
	キ 基礎代謝検査		
	ク 腎機能検査		
	ケ 脳波検査		
	コ 筋電図・神経伝導検査		徒手筋力テスト
5 その他の検査	ア 皮膚検査		ブリックテスト、皮内テスト、針反応テスト、パッチテスト
	イ 皮膚知覚検査		

総論X 治療〔約13%〕

大項目	中項目	小項目	備考
1 治療計画	ア 治療計画の立案		
	イ 治療計画を左右する因子		
	ウ 治療計画の提示		
	エ 治療の評価		
2 治療の基礎	ア 主訴の改善		
	イ キュアとケア		
	ウ 原因療法		
	エ 対症療法		
	オ 保存療法と外科療法		
	カ 緩和療法		
	キ 再生療法		
	ク 再建療法		
	ケ 小児の治療		
	コ 障害者の治療		
	サ 成人の治療		
	シ 高齢者の治療		
3 救急医療	ア 乳児に対する一次救命処置		
	イ 小児に対する一次救命処置		
	ウ 成人に対する一次救命処置		
	エ 高度な気道管理		
	オ 成人・小児に対する二次救命処置		
	カ 窒息・誤飲・誤嚥に対する対応		
4 手術・周術期の管理	ア 手術の適応		
	イ 口腔環境の評価		
	ウ 全身状態の評価		
	エ 全身的偶発症		
	オ 術前管理		
	カ 術中管理		
	キ 術後管理		疼痛の管理、感染予防、栄養管理
	ク 外科的侵襲に対する反応		
5 手術基本手技	ア 消毒と滅菌		
	イ 切開法		
	ウ 止血法		
	エ 縫合法		
	オ 穿刺、切開排膿、ドレナージ		
	カ 拔牙		
	キ 口腔の小手術		
	ク 移植、再植		
	ケ 創傷の治療		
6 麻酔、緩和医療	ア 局所麻酔法		
	イ 局所麻酔薬、血管収縮薬		
	ウ 全身麻酔法		日帰り全身麻酔を含む
	エ 吸入麻酔薬、静脈麻酔薬		

大項目	中項目	小項目	備考
	オ 筋弛緩薬とその拮抗薬		
	カ 麻酔補助薬		
	キ 術前管理と麻酔前投薬		
	ク 術中・術後管理とモニタリング		
	ケ 吸入鎮静法、静脈内鎮静法		
	コ 合併症、偶発症		
	サ 疼痛とQOL<quality of life>		
	シ 緩和ケア		癌性疼痛治療法、ペインコントロール
7 リハビリテーション	ア リハビリテーションの概念		
	イ 摂食・嚥下障害のリハビリテーション		咀嚼障害、摂食・嚥下障害
	ウ 発音障害・構音障害のリハビリテーション		構音機能障害
	エ 口腔機能管理		
	オ 栄養管理		経口栄養、経静脈栄養、経管栄養
	カ 栄養サポートチーム<NST>		
	キ 多職種連携		
8 放射線治療	ア 放射線治療の生物学的・物理学的基礎		
	イ 口腔領域の放射線治療		
	ウ 照射の有害反応		
	エ 放射線治療患者の口腔管理		
9 薬物療法	ア 薬物療法の種類		
	イ 適用方法と剤形		
	ウ 薬物動態		
	エ 薬効に影響を及ぼす因子		
	オ 薬物の作用部位・作用機序		
	カ 用量と反応		
	キ 薬物の連用		
	ク 服薬指導		
	ケ 薬物の副作用・有害作用・薬物相互作用		
	コ 薬物適用の注意		服薬計画
	サ 鎮痛薬		麻薬性・非麻薬性鎮痛薬
	シ 抗炎症薬		抗アレルギー薬、ステロイド性抗炎症薬、非ステロイド性抗炎症薬
	ス 抗感染症薬		抗菌薬、抗真菌薬、抗ウイルス薬、消毒薬
	セ 抗腫瘍薬		

大項目	中項目	小項目	備考
	ソ 代謝改善薬、ビタミン		硬組織代謝改善治療薬
	タ 止血薬、抗血栓薬		
	チ 齲蝕予防薬		
	ツ 薬物の保管・管理		麻薬・向精神薬
	テ 臨床試験		二重盲検法、無作為化、GCP<医薬品の臨床試験の実施の基準>、治験審査委員会<IRB>
10 その他の治療法	ア 理学療法		温熱、寒冷、水、光、電気、徒手、マッサージ、呼吸理学療法
	イ 超音波療法		
	ウ 運動療法		筋機能療法
	エ 凍結療法		
	オ レーザー療法		
	カ 免疫療法		
	キ 酸素療法		
	ク 高気圧酸素療法		
	ケ 心身医学療法		自律訓練法、行動療法、認知行動療法、カウンセリング
	コ IVR<Interventional Radiology>		
	サ 輸液療法		
	シ 輸血療法		
	ス 精神療法		

総論XI 歯科材料と歯科医療機器〔約13%〕

大項目	中項目	小項目	備考
1 生体材料の科学	ア 有機材料		
	イ セラミック材料		
	ウ 金属材料		
	エ 複合材料		
	オ 物理的性質		
	カ 機械的性質		
	キ 化学的性質		
	ク 生物学的性質と生体安全性		インプラントにおけるオッセオインテグレーションを含む
2 診療用器械	ア 歯科用ユニット		
	イ エアータービン		
	ウ マイクロモータ		
	エ レーザー装置		
3 切削、研削、研磨	ア 切削・研削工具		
	イ 研磨剤		
4 印象用材料	ア 酸化亜鉛ユージノール		
	イ モデリングコンパウンド		
	ウ 印象用石膏		
	エ 印象用ワックス		
	オ アルジネート		
	カ 寒天		
	キ シリコーンゴム		
	ク ポリエーテルゴム		
	ケ ポリサルファイドゴム		
	コ 機能印象材		
	サ 印象用トレー		
5 模型用材料	ア 歯科用石膏		
	イ レジン系模型材		
6 歯科用ワックス	ア インレーワックス		
	イ パラフィンワックス		
	ウ シートワックス、レディキャスト イングワックス、スティッキー ワックス、ユーティリティーワッ クス		
7 予防填塞・成形修復・ 歯内療法用材料	ア コンポジットレジン		
	イ 歯質接着処理材、接着性モノマー		
	ウ グラスアイオノマーセメント		
	エ 歯科用アマルガム		
	オ 予防填塞材		
	カ 仮封材		
	キ 裏層材		
	ク 覆髄材		
	ケ 根管充填材		
8 歯冠修復用材料	ア レジン		

大 項 目	中 項 目	小 項 目	備 考
	イ 陶材		
	ウ 金属焼付陶材		
	エ アルミナ		
	オ ジルコニア		
	カ ガラスセラミックス		
	キ 金合金		
	ク 金銀パラジウム合金		
	ケ 銀合金		
	コ 陶材焼付用合金		
	サ チタン、チタン合金		
	シ 支台築造材		
	ス 暫間補綴・修復用材料		
9 義歯用材料	ア 基礎床材料		
	イ 加熱重合型アクリルレジン		
	ウ 常温重合型アクリルレジン		
	エ ポリスルフォン、ポリカーボネート		
	オ 人工歯		
	カ 義歯床用裏装材		軟質裏装材を含む
	キ 金合金		
	ク 金銀パラジウム合金		
	ケ コバルトクロム合金		
	コ チタン、チタン合金		
	サ ステンレス鋼		
	シ 歯科用磁性合金		
	ス ろう材		
10 レジンの成形技術・機器	ア 加熱重合		
	イ 常温重合(流し込み成形)		
	ウ 光重合		
	エ 加熱・加圧形成		
11 セラミックスの成形技術・機器	ア 陶材の築盛・焼成		
	イ 陶材と金属の接合		
	ウ セラミックスの成形加工		
	エ CAD/CAM		
12 金属の成形技術・機器	ア 鋳造工程		
	イ 石膏系鋳型材		
	ウ リン酸塩系鋳型材		
	エ 鋳造精度		
	オ 鋳造欠陥		
	カ ろう付け		
	キ 鋳接、溶接		
	ク 塑性加工と焼きなまし		
	ケ 軟化熱処理と硬化熱処理		
13 歯科接着技術・機器	ア エナメル質被着面処理		
	イ 象牙質被着面処理		

大 項 目	中 項 目	小 項 目	備 考
	ウ セラミックス被着面処理		
	エ 金属被着面処理		
14 合着・接着・仮着用材料	ア レジンセメント、接着性モノマー		
	イ グラスアイオノマーセメント		
	ウ ポリカルボキシレートセメント		
	エ リン酸亜鉛セメント		
	オ 酸化亜鉛ユージオールセメント		
	カ EBAセメント		
15 歯科矯正用材料	ア 線材料、ワイヤー		
	イ バンド、ブラケット		
	ウ 接着材		
	エ エラスティック		
	オ 床用レジン		
16 歯周治療・口腔外科・インプラント用材料	ア インプラント材料		インプラントの基本構造を含む
	イ 骨補填材		
	ウ 骨接合・顎骨再建プレート		
	エ 組織再生用材料		
	オ 縫合糸、包帯		

齒科医学各論

各論 I 歯科疾患の予防・管理〔約6%〕

大項目	中項目	小項目	備考
1 齲蝕の予防・管理	ア 齲蝕の病因		
	イ 齲蝕リスク検査・評価		
	ウ 初期齲蝕の診断		
	エ ライフステージと齲蝕		第一次・第二次・第三次予防を含む
	オ 齲蝕の予防手段		
	カ 齲蝕の予防効果の評価		
	キ フッ化物の応用法		
	ク 根面齲蝕の予防		
2 歯周病の予防・管理	ア 歯周病の病因		
	イ 歯周病のリスクファクター・診断		
	ウ ライフステージと歯周病		第一次・第二次・第三次予防を含む
	エ 歯周病と生活習慣病のリスク		誤嚥性肺炎など関連するリスクを含む
	オ 歯周病の予防手段		
	カ 歯周病の予防効果の評価		
3 不正咬合の予防・管理	ア 不正咬合発生・進行の要因		
	イ 不正咬合発生の予防		
	ウ 不正咬合進行の抑制		
4 口臭の予防・管理	ア 口臭の原因		
	イ 口臭の診断		
	ウ 口臭の予防・治療		
5 その他の疾患の予防・管理	ア 歯の損耗<Tooth Wear>		咬耗症、摩耗症、酸蝕症、アブフラクション、くさび状欠損
	イ 歯・歯肉の着色・変色		
	ウ 歯・口腔の外傷		
	エ 唾液腺疾患、口腔乾燥症		
	オ 顎関節疾患		
	カ 味覚障害		
	キ 口腔粘膜疾患、口腔癌		
	ク スポーツによる歯・口腔の外傷予防		マウスガードを含む
6 保健指導	ア 口腔清掃の意義		
	イ 口腔清掃法		
	ウ 口腔清掃指導		
	エ 生活習慣指導		
	オ 禁煙指導・支援		
	カ ライフステージと口腔機能育成・増進指導		
7 食育と食の支援	ア 食生活と健康課題		
	イ 食事摂取基準と食事バランスガイド		
	ウ 間食指導		
	エ ライフステージと食の支援		

各論Ⅱ 成長発育に関連した疾患・病態〔約19%〕

大項目	中項目	小項目	備考
1 歯・口腔・顎・顔面の発育を障害する先天異常	ア 口唇・口蓋裂		
	イ 顔面裂		
	ウ 鎖骨頭蓋骨異形成症<鎖骨頭蓋異骨症>		
	エ 骨形成不全症		
	オ Treacher Collins症候群<下顎顔面異骨症>		
	カ Crouzon症候群<頭蓋顔面異骨症>		
	キ Apert症候群<尖頭合指症>		
	ク 軟骨無形成症		
	ケ 第一第二鰓弓症候群		Goldenhar症候群を含む
	コ Marfan症候群		
	サ Russell-Silver症候群		
	シ Turner症候群		
	ス Beckwith-Wiedemann症候群<EMG症候群>		
	セ Robinシークエンス<Pierre Robin症候群>		
	ソ エナメル質形成不全{症}		Turnerの歯、エナメル質減形成症
	タ 象牙質形成不全症		
	チ 象牙質異形成症		
	ツ 先天性表皮水疱症		
	テ 先天性外胚葉形成不全<先天性外胚葉異形成症>		
	ト 先天性色素失調症		
	ナ 低フォスファターゼ症		
	ニ Papillon-Lefèvre症候群		
	ヌ 先天性好中球機能不全症		
	ネ Down症候群<21トリソミー症候群、21トリソミー>		
	ノ Klinefelter症候群		
	ハ 18トリソミー症候群<Edwards症候群>		
	ヒ 猫鳴き症候群<5p-症候群>		
	フ その他の先天異常・遺伝性疾患		
2 顎口腔領域の発育異常	ア 下顎頭欠損		
	イ 関節突起発育不全		
	ウ 下顎頭肥大		
	エ 顎関節疾患		
3 歯の異常	ア 過剰歯		正中歯
	イ 歯の先天欠如		部分性無歯症、全部性無歯症
	ウ 癒合歯、癒着歯、双生歯		

大項目	中項目	小項目	備考
	エ 異常咬頭・結節		中心結節、第六咬頭、第七咬頭、切歯結節、カラベリー結節、プロトスタイリッド
	オ 歯内歯		
	カ 矮小歯		円錐歯
	キ 巨大歯		
	ク タウロドント		
	ケ 歯根の異常		
	コ 異所性エナメル質		エナメル滴、エナメル突起
	サ 歯のフッ素症		
	シ エナメル質形成不全{症}		Turnerの歯、エナメル質減形成症
4 歯・口腔・顎疾患	ア 歯牙腫		
	イ 歯の異所萌出		
	ウ 埋伏歯		
	エ 低位乳歯		
	オ 早期萌出乳歯		先天歯、新生児歯
	カ 歯の萌出遅延		
	キ 口唇炎		
	ク 口角びらん		
	ケ 口唇ヘルペス		
	コ 先天性下唇瘻・口角瘻		
	サ 萌出嚢胞		
	シ 上皮真珠		
	ス 舌の異常		巨舌症、小舌症、地図状舌
	セ Riga-Fede病		
	ソ Bednarアフタ		
	タ 疱疹性歯肉口内炎		
	チ 手足口病		
	ツ ヘルパンギーナ		
	テ Koplik斑		
	ト 上唇・舌小帯異常		
	ナ 粘液嚢胞		粘液瘤、ガマ腫、Blandin-Nuhn(腺)嚢胞嚢<前舌腺嚢胞>
5 歯の外傷	ア 歯の外傷の状況と影響		
	イ 診察と診断、治療方針		
	ウ 乳歯・幼若永久歯の外傷の処置と経過		
	エ 小児の歯の外傷の予防		
6 歯列・咬合異常の予防	ア 歯列・咬合異常の要因		
	イ 咬合誘導の考え方		
	ウ 保隙		

大項目	中項目	小項目	備考
	エ 動的咬合誘導		
	オ 口腔習癖とその対応		

●不正咬合

大項目	中項目	小項目	備考
7 不正咬合の病因・病態	ア 正常咬合の概念と成立の条件		
	イ 不正咬合の種類		
	ウ 不正咬合の分類		
	エ 不正咬合の原因		
	オ 不正咬合による障害		
8 不正咬合の診断	ア 診察		
	イ 検査		
	ウ 診断		抜歯・非抜歯の判定を含む
	エ 治療計画		
9 矯正力と固定	ア 狭義の矯正力		
	イ 顎整形力		
	ウ 生体反応		
	エ 固定		
10 矯正装置	ア 咬合斜面板		
	イ 咬合挙上板		
	ウ アクチバトール		
	エ バイオネーター		
	オ Fränkel装置		
	カ リップバンパー		
	キ ヘッドギア<上顎顎外固定装置>		
	ク チンキャップ<オトガイ帽装置>		
	ケ 上顎前方牽引装置		
	コ スライディングプレート		
	サ マルチブラケット装置		
	シ リンガルアーチ<舌側弧線装置>		
	ス 急速拡大装置		
	セ クワドヘリックス装置		
	ソ タングクリブ		
	タ Nanceのホールディングアーチ		
	チ トランスパラタルアーチ		
	ツ セクショナルアーチ		
	テ Hawleyタイプリテーナー		
	ト Beggタイプリテーナー<ラップアラウンドリテーナー、サーカムフェレンシャルタイプリテーナー>		
	ナ トゥースポジショナー		
	ニ 犬歯間保定装置		
11 不正咬合の治療	ア 乳歯列期・混合歯列期の不正咬合の治療		

大 項 目	中 項 目	小 項 目	備 考
	イ 永久歯列期の不正咬合の治療		
	ウ 先天性疾患を伴う不正咬合の治療		
	エ 顎変形症の治療		
	オ 補綴・歯周治療との併用		
	カ 治療中の管理		
	キ 保定		
	ク 偶発症		

良和醫學書

一 良 骨 良 糸 糸 (糸 糸)

一 良 骨 良 糸 糸 (糸 糸)

一 良 骨 良 糸 糸 (糸 糸)

一 良 骨 良 糸 糸 (糸 糸)

大項目	中項目	小項目	備考
	ケ 歯内-歯周疾患の治療		
	コ 外傷歯の治療		
	サ 内部吸収歯・歯根外部吸収歯の治療		
	シ 外科的歯内療法		
	ス 顕微鏡を用いた歯内療法		
	セ 歯髄・根管処置における偶発症と安全対策		
	ソ 根管処置後の歯冠修復		
	タ 全身疾患を有する者の歯内療法		

●歯周病

大項目	中項目	小項目	備考
7 小児の歯周病	ア 歯周病の特徴		
	イ 歯周病への対応		
8 成人の歯周病	ア 歯肉病変		
	イ 歯肉病変の病原因子		
	ウ 歯周炎		
	エ 歯周炎のリスクファクター		
	オ 壊死性歯周疾患		
	カ 咬合性外傷		
	キ 歯周組織の膿瘍		
	ク 歯肉退縮		
	ケ 歯周-歯内病変		
	コ 歯周病と健康の関わり		
9 歯周病の治療	ア 急性症状を有する歯周病への対応		
	イ 歯周基本治療		
	ウ 咬合性外傷に対する治療		
	エ 歯周外科治療		組織付着療法、切除療法、歯周形成手術を含む
	オ 歯周組織再生治療		
	カ 根分岐部病変の治療		
	キ 口腔機能回復治療		
	ク 歯周病の抗菌療法		
	ケ メインテナンス、SPT<supportive periodontal therapy>		
	コ 全身疾患を有する者の歯周病治療		

各論Ⅳ 顎・口腔領域の疾患〔約23%〕

●主として軟組織に関連する疾患の病態と治療

大項目	中項目	小項目	備考
1 先天異常と変形を主徴とする疾患	ア 口唇・口蓋裂		
	イ 先天性鼻咽腔閉鎖不全		
	ウ 顔面裂		
	エ 口唇・頬部の異常		
	オ 舌・口底の異常		
	カ 歯肉・口蓋の異常		
	キ 小帯の異常		
	ク 先天異常と変形に対する治療		言語治療を含む
2 軟組織の損傷	ア 口腔軟組織の損傷		
	イ 顔面軟組織の損傷		
	ウ 損傷に対する治療		
3 軟組織の炎症	ア 歯冠周囲炎<智歯周囲炎>		
	イ 口腔軟組織の炎症		
	ウ 蜂窩織炎		
	エ 所属リンパ節の炎症		
	オ 歯性扁桃周囲炎		
	カ 歯性上顎洞炎		
	キ 歯性全身感染症		菌血症、敗血症、歯性病巣感染、全身性炎症(性)反応症候群<SIRS>
	ク 肉芽腫性炎		放線菌症、口腔結核、口腔梅毒
	ケ 炎症に対する治療		
4 軟組織に発生する嚢胞	ア 萌出嚢胞		
	イ 歯肉嚢胞		
	ウ 粘液嚢胞		
	エ 類皮嚢胞、類表皮嚢胞		
	オ 鼻歯槽嚢胞		
	カ 鰓嚢胞<側頸嚢胞、リンパ上皮性嚢胞>		
	キ 甲状舌管嚢胞		
	ク 嚢胞に対する治療		
	ケ 炎症に対する治療		
5 軟組織に発生する腫瘍および腫瘍類似疾患	ア 歯原性良性腫瘍		
	イ 非歯原性良性腫瘍		
	ウ 口唇癌		
	エ 舌癌		
	オ 頬粘膜癌		
	カ 口蓋癌		
	キ 上顎・下顎歯肉癌		
	ク 口底癌		
	ケ 上顎洞癌		
	コ 軟組織の肉腫		
	サ 白血病		

大項目	中項目	小項目	備考
	シ 悪性リンパ腫		
	ス 悪性黒色腫		
	セ 前癌病変、前癌状態		
	ソ 腫瘍類似疾患		エプーリス、義歯性線維腫、フェニトイン・シクロスポリン歯肉増殖症など
	タ 腫瘍・腫瘍類似疾患に対する治療	a 外科療法	再建術、頸部郭清術を含む
		b 化学療法	
		c 放射線療法	
		d 免疫療法	
	チ ガン治療患者の管理	a ガンの告知	
		b 治療時の患者管理	
		c 社会復帰	
		d 末期癌患者の管理	
		e 口腔衛生管理、口腔ケア	
		f 緩和医療	
6 口腔粘膜疾患	ア 単純疱疹〈疱疹性口内炎〉		
	イ 帯状疱疹		
	ウ ヘルパンギーナ		
	エ 手足口病		
	オ 天疱瘡		
	カ 類天疱瘡		
	キ 表皮水疱症		
	ク 多形〈滲出性〉紅斑		
	ケ 粘膜・皮膚・眼症候群〈Stevens-Johnson症候群〉		
	コ 中毒性表皮壊死剥離症〈TEN〉		
	サ 全身性エリテマトーデス〈SLE〉		
	シ 慢性再発性アフタ		
	ス Behçet病		
	セ 壊死性潰瘍性歯肉口内炎		
	ソ 壊疽性口内炎		
	タ 薬物性口内炎		
	チ 口腔扁平苔癬		
	ツ 口腔カンジダ症〈鵝口瘡〉		
	テ 白板症		
	ト 紅板症		
	ナ メラニン色素沈着症		
	ニ 外因性色素沈着		
	ヌ 色素性母斑		
	ネ Peutz-Jeghers症候群		

大項目	中項目	小項目	備考
	ノ Addison病		
	ハ von Recklinghausen病<神経線維腫症>		
	ヒ McCune-Albright症候群<多骨性線維性骨異形成症>		
	フ 口角びらん		
	ヘ 口腔乾燥症		
	ホ 鉄欠乏性貧血		
	マ Hunter舌炎		
	ミ 溝(状)舌		
	ム 黒毛舌		
	メ 化膿性舌炎		
	モ 地図状舌		
	ヤ 正中菱形舌炎		
	ユ 肉芽腫性口唇炎、 Melkersson-Rosenthal症候群		
	ヨ 接触性口唇炎		
	ラ 口角炎		
	リ 口腔粘膜疾患に対する治療		

●主として硬組織に関連する疾患の病態と治療

大項目	中項目	小項目	備考
7 顎顔面の変形を来す疾患・病態	ア 顎変形症		
	イ 骨増生		
	ウ 下顎頭欠損		
	エ 顎顔面に異常を来す骨系統疾患・症候群		
	オ 顎顔面骨の変形に対する治療	a 顎矯正手術	
		b 補綴前外科手術	
		c 顎骨形成術	
		d 骨移植術<骨増量術>	
		e 骨延長術	
8 歯・歯槽骨・顎骨・顔面骨の損傷	ア 歯の亀裂・破折・脱臼		
	イ 骨折の様態		
	ウ 歯槽骨骨折		
	エ 下顎骨骨折		
	オ 関節突起骨折		
	カ 上顎骨骨折		
	キ 頬骨・頬骨弓骨折		
	ク 鼻骨骨折		
	ケ 眼窩壁吹き抜け骨折		

大項目	中項目	小項目	備考
9 歯槽骨・顎骨の炎症	コ 口腔上顎洞瘻		
	サ 損傷に対する治療		
	ア 歯槽骨炎		
	イ 顎骨炎		
	ウ 顎骨骨膜炎		
	エ 顎骨周囲炎		
	オ 顎骨骨髓炎		
	カ 歯性上顎洞炎		
	キ 放射線性骨壊死		
	ク 薬剤関連顎骨疾患		薬剤関連顎骨壊死・ 壊疽・顎骨骨髓炎
	ケ 外歯瘻、内歯瘻		
	コ 顎骨周囲軟組織の炎症		
	サ 炎症に対する治療		
10 顎骨に発生する嚢胞性疾患	ア 歯根嚢胞		
	イ 歯周嚢胞		
	ウ 含歯性嚢胞〈濾胞性歯嚢胞〉		
	エ 原始性嚢胞		
	オ 腺性歯原性嚢胞		
	カ 鼻口蓋管嚢胞〈切歯管嚢胞〉		
	キ 術後性上顎嚢胞		
	ク 単純性骨嚢胞		
	ケ 脈瘤性骨嚢胞		
	コ 静止性骨空洞		
	サ 嚢胞に対する治療		
11 顎骨に発生する腫瘍および腫瘍類似疾患	ア 歯原性良性腫瘍		
	イ 歯原性悪性腫瘍		
	ウ 非歯原性良性腫瘍		
	エ 非歯原性悪性腫瘍		
	オ 骨関連病変		
	カ 骨増生〈骨隆起〉		
	キ 線維骨性病変		
	ク 巨細胞性病変		
	ケ Langerhans細胞性組織球症		
	コ 顎骨に発生する腫瘍・腫瘍類似疾患に対する治療	a 顎骨腫瘍の外科療法	
		b 顎骨の再建	
		c 顎顔面補綴	
		d 顎顔面インプラント治療	

●主として機能に関連する疾患の病態と治療

大項目	中項目	小項目	備考
12 唾液腺疾患	ア 発育異常		
	イ 異所性唾液腺		

大項目	中項目	小項目	備考
	ウ 唾液瘻		
	エ 口腔乾燥症		放射線障害を含む
	オ 流涎症		
	カ 唾液管炎		
	キ 唾液腺炎		
	ク ウイルス性唾液腺炎		
	ケ 免疫異常による唾液腺炎		
	コ Sjögren症候群		
	サ Frey症候群		
	シ 唾石症		
	ス 外来異物		
	セ 粘液嚢胞		粘液瘤、ガマ腫、Blandin-Nuhn(腺)嚢胞<前舌腺嚢胞>
	ソ リンパ上皮性嚢胞		
	タ 良性腫瘍		
	チ 悪性腫瘍		
	ツ 腫瘍類似疾患		
	テ 唾液腺疾患の治療		
13 神経疾患	ア 三叉神経痛		
	イ 舌咽神経痛		
	ウ 非定型顔面痛、非歯原性歯痛		
	エ 複合性局所疼痛症候群<complex regional pain syndrome>		
	オ 舌痛症		
	カ 癌性疼痛		
	キ 舌神経麻痺		
	ク 顔面神経麻痺		
	ケ 軟口蓋麻痺		
	コ Ramsay Hunt症候群<Hunt症候群>		
	サ 顔面けいれん		
	シ 三叉神経麻痺		
	ス 舌下神経麻痺		
	セ 神経疾患の治療		
14 顎関節疾患	ア 下顎頭欠損		
	イ 下顎頭肥大		
	ウ 関節突起發育不全		
	エ 関節突起骨折		
	オ 顎関節脱臼		
	カ 非感染性顎関節炎		外傷性{顎}関節炎を含む
	キ 感染性顎関節炎		
	ク リウマチ性顎関節炎		
	ケ 痛風性顎関節炎		
	コ 顎関節強直症		

大 項 目	中 項 目	小 項 目	備 考
	サ 顎関節症		変形性(顎)関節症を含む
	シ 顎関節に発生する腫瘍および腫瘍類似疾患		骨軟骨腫症、滑膜骨軟骨腫症を含む
	ス 顎関節疾患の治療		

●主として全身に関連する疾患の病態と治療

大 項 目	中 項 目	小 項 目	備 考
15 口腔・顎顔面に異常を来す骨系統疾患・症候群	ア 鎖骨頭蓋骨異形成症<鎖骨頭蓋異骨症>		
	イ 大理石骨病		
	ウ McCune-Albright症候群<多骨性線維性骨異形成症>		
	エ 骨形成不全症		
	オ Treacher Collins症候群<下顎顔面異骨症>		
	カ Crouzon症候群<頭蓋顔面異骨症>		
	キ 第一第二鰓弓症候群		Goldenhar症候群を含む
	ク 口腔・顔面・指趾症候群<OFD症候群>		
	ケ Apert症候群<尖頭合指症>		
	コ Marfan症候群		
	サ 基底細胞母斑症候群		
	シ Peutz-Jeghers症候群		
	ス Gardner症候群		
	セ Robinシークエンス<Pierre Robin症候群>		
	ソ Papillon-Lefèvre症候群		
	タ von Recklinghausen病<神経線維腫症>		
	チ Sturge-Weber症候群		
	ツ Ramsay Hunt症候群<Hunt症候群>		
	テ Beckwith-Wiedemann症候群<EMG症候群>		
	ト Melkersson-Rosenthal症候群		
	ナ 18トリソミー症候群<Edwards症候群>		
	ニ Down症候群<21トリソミー症候群、21トリソミー>		
	ヌ その他の口腔・顎顔面に異常を来す症候群		
16 口腔症状を呈する疾患	ア ウイルス感染症		ヒト免疫不全ウイルス<HIV>感染症、ウイルス性肝炎、風疹、麻疹、水痘・带状疱疹

大項目	中項目	小項目	備考
			疹、手足口病
	イ 細菌感染症		梅毒、破傷風、結核
	ウ 免疫異常	a アレルギー疾患	金属アレルギー、アレルギー性紫斑病、Quincke浮腫
		b 免疫不全	後天性免疫不全症候群<AIDS>
		c 自己免疫疾患	天疱瘡、類天疱瘡、関節リウマチ、全身性エリテマトーデス<SLE>、円板状エリテマトーデス<DLE>、特発性血小板減少性紫斑病<ITP>、悪性貧血
		d 移植片対宿主病<GVHD>	
	エ 内分泌障害、代謝障害		下垂体性巨人症、下垂体性小人症、甲状腺機能亢進症、甲状腺機能低下症、副甲状腺機能亢進症、Cushing病、アルドステロン症、Addison病、糖尿病、アミロイドーシス、鉄欠乏性貧血
	オ 栄養障害		くる病、悪性貧血、壊血病
	カ 血液疾患、出血性素因	a 赤血球系疾患	貧血、赤血球増多症
		b 白血球系疾患	白血病、無顆粒球症、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫
		c 出血性素因	Osler病、アレルギー性紫斑病、特発性血小板減少性紫斑病<ITP>、血小板無力症、血友病A・B、von Willebrand病、播種性血管内凝固症候群<DIC>
	キ 血液疾患・出血性素因に対する観血的治療		
	ク 口腔領域に関連して現れる心因性病態		気分(感情)障害、不安障害、解離性障害、身体表現性障害、心身症

大 項 目	中 項 目	小 項 目	備 考
	ケ 薬物の副作用		薬疹、口腔乾燥症
	コ 口腔症状に対する治療		
17 全身管理に留意すべき 全身疾患・状態	ア 呼吸器疾患		
	イ 心臓・脈管疾患		
	ウ 消化器疾患		
	エ 泌尿器・生殖器疾患		
	オ 神経・運動器疾患		
	カ 精神・心身医学的疾患		
	キ 血液・造血器疾患		
	ク 内分泌疾患		
	ケ 代謝性疾患		
	コ 免疫疾患		
	サ 乳幼児		
	シ 小児		
	ス 高齢者		
	セ 妊娠		
18 歯科における全身的偶 発症	ア 血管迷走神経反射		
	イ 過換気症候群		
	ウ 局所麻酔薬中毒		
	エ アナフィラキシーショック		
	オ 血管収縮薬による反応		
	カ メトヘモグロビン血症		
	キ 誤飲と誤嚥		
	ク 全身疾患の増悪		
19 歯科治療時の患者管理	ア 麻酔管理		
	イ 術前管理		
	ウ 術中管理		
	エ 術後管理		

各論Ⅴ 歯質・歯・顎顔面欠損による障害とその他の口腔・顎顔面の機能障害〔約23%〕

大項目	中項目	小項目	備考
1 病態	ア 咬合・咀嚼障害		
	イ 摂食・嚥下障害		
	ウ 発語・構音障害		
	エ 審美障害		
	オ 社会・心理的障害		
	カ 顎関節症・口腔顔面痛		
	キ ブラキシズム		
	ク 睡眠時無呼吸症候群		
2 診察・検査・診断・前処置	ア 診察		
	イ 検査		咬合・顎機能の診察と検査、使用中の義歯の診察と検査、研究用模型による検査等を含む
	ウ 診断		
	エ 治療計画の立案		治療法の選択を含む
	オ 患者指導		
	カ 前処置		
3 補綴装置の要件	ア 生物学的要件		
	イ 機能的要件		
	ウ 形態的要件		
	エ 力学的要件		
	オ 咬合力の支持様式		
	カ 咬合様式		
	キ 審美的要件		
	ク 材料的要件		
	ケ 社会・心理的要件		
	コ 栄養的要件		
4 クラウンブリッジによる治療	ア 歯冠補綴装置の選択		
	イ ブリッジの設計		
	ウ 支台歯形成		
	エ 支台築造		
	オ プロビジョナルレストレーション		
	カ 印象採得		
	キ 作業模型の製作		
	ク 顎間関係の記録		
	ケ 咬合器装着・調節		
	コ ワックスパターン形成		
	サ 埋没		
	シ 鋳造、ろう付け、熱処理、研磨		
	ス 口腔内試適		
	セ 装着		
	ソ 患者指導		
5 部分床義歯による治療	ア 義歯の設計		義歯の構成要素を含む

大 項 目	中 項 目	小 項 目	備 考
	イ 印象採得		
	ウ 作業模型の製作		
	エ 顎間関係の記録		
	オ 咬合器装着・調節		
	カ サベイング		
	キ フレームワークの製作		
	ク 人工歯の選択・排列・削合		
	ケ 歯肉形成		
	コ 蠟義歯の試適		
	サ 埋没、重合		
	シ 咬合調整(削合)と仕上げ		
	ス 装着		
	セ 患者指導		
6 全部床義歯による治療	ア 義歯の設計		
	イ 印象採得		
	ウ 作業模型の製作		
	エ 顎間関係の記録		フェイスボウトランスファーを含む
	オ 咬合器装着・調節		
	カ 人工歯の選択・排列・削合		
	キ 歯肉形成		
	ク 蠟義歯の試適		
	ケ 埋没、重合		
	コ 咬合調整(削合)と仕上げ		
	サ 装着		
	シ 患者指導		
7 オーバーデンチャー	ア 基本構造		
	イ 利点と欠点		
8 インプラント義歯による治療	ア オッセオインテグレーションの獲得		初期固定(一次固定)、生物学的固定(二次固定)を含む
	イ 補綴装置の設計		アバットメントの種類、固定方法(スクリー固定、セメント固定)の選択、インプラントオーバーデンチャーを含む
	ウ インプラント埋入の治療計画		1回法と2回法の選択を含む
	エ インフォームドコンセント		他の補綴歯科治療法との違いについての説明を含む
	オ 外科処置		コンピュータ支援手術、骨造成等の付随手術および2次手術の術式を含む

大 項 目	中 項 目	小 項 目	備 考
	カ プロビジョナルレストレーション		荷重時期の選択を含む
	キ 補綴装置の印象採得		クローズドトレー法、オープントレー法を含む
	ク 顎間関係の記録		
	ケ 補綴装置の製作		
	コ 補綴装置の装着		
	サ 合併症		
	シ 患者指導		メンテナンスを含む
9 特殊な装置による治療	ア 顎顔面補綴装置による治療		
	イ オクルーザルスプリントによる治療		
	ウ 摂食嚥下補助床による治療		
	エ 構音補助床による治療		
	オ 下顎前方保持装置による治療		睡眠時無呼吸症候群の治療
10 管理	ア リコール		
	イ ホームケア、プロフェッショナルケア		
	ウ 残存組織の変化とその対応		
	エ 咬合の変化とその対応		
	オ 機能低下とその対応		
	カ 補綴装置の破損とその対応		
	キ 義歯の管理		
	ク 栄養指導		

各論VI 高齢者の歯科診療〔約6%〕

●高齢者の歯・歯髄・歯周組織の疾患

大項目	中項目	小項目	備考
1 歯の硬組織疾患	ア 齲蝕の特徴		
	イ 非齲蝕性硬組織疾患の特徴		
	ウ 歯の変色・着色の特徴		
	エ 歯の硬組織疾患への対応		
2 歯髄・根尖性歯周組織疾患	ア 歯髄疾患の特徴		
	イ 根尖性歯周組織疾患の特徴		
	ウ 歯髄・根尖性歯周組織疾患の治療		
3 歯周病	ア 歯周病の特徴		
	イ 歯周病への対応		
	ウ 歯周病と全身疾患の関わり		

●高齢者の軟組織に関連する疾患

大項目	中項目	小項目	備考
4 軟組織の損傷	ア 口腔軟組織の損傷		
	イ 顔面軟組織の損傷		
	ウ 損傷に対する治療		
5 軟組織の炎症	ア 口腔軟組織の炎症		
	イ 蜂窩織炎		
	ウ 歯性全身感染症		菌血症、敗血症
6 軟組織に発生する腫瘍および腫瘍類似疾患	ア 腫瘍類似疾患		義歯性線維腫
	イ 前癌病変、前癌状態		
	ウ 良性腫瘍		
	エ 口腔癌		
	オ 肉腫		
	カ 白血病		
	キ 悪性リンパ腫		
	ク 他臓器からの転移腫瘍		
	ケ 腫瘍に対する治療		姑息的治療、ターミナルケア
	コ 治療前後の管理		
7 口腔粘膜疾患	ア 口腔カンジダ症		
	イ 口腔乾燥症		
	ウ 帯状疱疹		
	エ 口腔扁平苔癬		
	オ 口角びらん、口角炎		
	カ 黒毛舌		
	キ 鉄欠乏性貧血		
	ク Hunter舌炎		
	ケ 褥瘡性潰瘍		
	コ 口腔粘膜疾患に対する治療		

●高齢者の硬組織に関連する疾患

大項目	中項目	小項目	備考
8 顎骨の損傷	ア 下顎骨骨折		

大項目	中項目	小項目	備考
	イ 関節突起骨折		
	ウ 頬骨・頬骨弓骨折		
	エ 骨折に対する治療		
9 顎骨の炎症	ア 顎骨炎		
	イ 顎骨骨膜炎		
	ウ 顎骨骨髓炎		
	エ 放射線骨壊死		
	オ 薬剤関連顎骨壊死・壊疽・顎骨骨髓炎		

●高齢者の機能に関連する疾患

大項目	中項目	小項目	備考
10 神経疾患	ア 舌痛症		
	イ 三叉神経痛		
	ウ 顔面神経麻痺		
	エ 義歯によるオトガイ神経圧迫		
	オ 口腔ジスキネジア		
	カ 中枢性神経麻痺		
	キ 味覚異常		
11 唾液腺疾患	ア 口腔乾燥症		放射線障害を含む
	イ 良性腫瘍		
	ウ 悪性腫瘍		
	エ 腫瘍類似疾患		
	オ 唾液腺疾患の治療		
12 顎関節疾患	ア 顎関節脱臼		
	イ 顎関節症		変形性(顎)関節症
	ウ リウマチ性顎関節炎		
	エ 顎関節疾患の治療		

●高齢者に多い留意すべき全身疾患

大項目	中項目	小項目	備考
13 管理に留意すべき全身疾患	ア 循環器疾患		高血圧性疾患、脳梗塞、虚血性心疾患
	イ 悪性新生物		大腸癌、肺癌、胃癌
	ウ 呼吸器疾患		気管支炎、慢性閉塞性肺疾患(COPD)、肺炎
	エ 腎臓疾患		腎不全
	オ 精神・心身医学的疾患		うつ病、認知症
	カ その他の高頻度に見られる全身疾患・症状		胃食道逆流症(GERD)、血液透析、糖尿病、骨粗鬆症
	キ 要介護の原因疾患		脳血管疾患、認知症、Parkinson病、肺炎、転倒・骨折、廃用症候群

●高齢者の口腔管理と摂食・嚥下機能に関する障害および治療

大項目	中項目	小項目	備考
14 訪問歯科診療	ア 口腔管理プランの策定		
	イ 口腔衛生管理のための口腔のケア		
	ウ 口腔機能管理のための口腔のケア		
	エ 補綴装置の管理		
15 摂食・嚥下機能	ア 摂食・嚥下機能の加齢変化		
	イ 摂食・嚥下障害の病因・病態		
	ウ 摂食・嚥下障害の評価・検査		
	エ 摂食・嚥下障害の主な原因		
	オ 摂食・嚥下に関する諸因子		
16 摂食・嚥下障害	ア 摂食・嚥下障害の評価・検査	a 身体所見	
		b 栄養、食事	
		c スクリーニングテスト	
		d 検査	
	イ 摂食・嚥下障害の対応	a リハビリテーションの理念	
		b 間接訓練	
		c 直接訓練、段階的摂食訓練	
		d 食事指導、食事介助	
		e 歯科的アプローチ	摂食・嚥下機能および音声言語機能改善のための補助装置
17 高齢者の栄養管理	ア 栄養状態の評価		
	イ 食内容の管理		
	ウ 食形態の管理		
	エ 栄養療法	a 経口栄養	
		b 経静脈栄養	
		c 経管栄養	
	オ 栄養指導		

●高齢者の補綴歯科治療

大項目	中項目	小項目	備考
18 補綴歯科治療	ア 残存組織の変化とその対応		
	イ 咬合の変化とその対応		
	ウ 機能低下とその対応		
	エ 補綴装置の破損とその対応		
	オ 義歯の管理		

平成 25 年度
歯科医学総合講義 6
必修領域 英単語集
(科目別)

A ランク (最重要) : 和訳、英訳の両方ができる
べき単語 (科目名も含む)

B ランク (重要) : 和訳できるべき単語

C ランク (標準) : 知っておくべき単語

<解剖学 Anatomy>

Aランク

Tooth	歯(複数形 teeth)
dental	歯(学)の
jaw(s)	顎(骨)
mandible	下顎骨
maxilla	上顎骨
incisor	切歯
canine	犬歯
premolar	小臼歯
molar	大臼歯
tongue	舌
lip	口唇

Bランク

mesial	近心
distal	遠心
buccal	頬側
lingual	舌側
palatal	口蓋側
anterior	前
posterior	後
alveolus (-ar)	歯槽

Cランク

pterygoid-	翼状-
------------	-----

<組織学 Histology>

Aランク

enamel	エナメル質
dentin(e)	象牙質
cementum	セメント質
dental pulp	歯髄
tissue	組織

Bランク

epithelial tissue	上皮組織
connective tissue	結合組織
muscle tissue	筋組織
nervous tissue	神経組織

Cランク

stratified squamous epithelium	重層扁平上皮
--------------------------------	--------

pseudostratified epithelium	多列線毛上皮
simple columnar epithelium	単層円柱上皮
simple squamous epithelium	単層扁平上皮
simple cuboidal epithelium	単層立方上皮
transitional epithelium	移行上皮

<生化学 Biochemistry>

Aランク

biology	生物学
molecular	分子(の)
serum	血清
metabolism	代謝
saliva	唾液
biofilm	バイオフィルム
antibiotics	抗生物質
collagen	コラーゲン

Bランク

growth factor	増殖因子
antibacterial factor	抗菌因子
osteoblast	骨芽細胞
osteoclast	破骨細胞
adenosine triphosphate	ATP (アデノシン三リン酸)
Interleukin	IL (インターロイキン)
Prostaglandin E2	PGE2 (プロスタグランジン E2)

<生理学 Physiology>

Aランク

vessel	血管
artery	動脈
vein	静脈
endocrine	内分泌
exocrine	外分泌
homeostasis	恒常性
saline	生理食塩水

Bランク

action potential	活動電位
sympathetic nerve	交感神経
parasympathetic nerve	副交感神経

<病理学 Pathology>

Aランク

(病名)

tumor, neoplasm	腫瘍
inflammation	炎症
cyst	嚢胞
dental caries	う蝕
pulpitis	歯髄炎
periodontitis	歯周炎
infarct (infarction)	梗塞
disease	疾患
lesion	病変(疾患)
epulis	エプーリス

(症状)

acute	急性
chronic	慢性
swelling	腫脹
pain	疼痛
bleeding, hemorrhage	出血
fever	発熱
hyperemia	充血
anemia	貧血
congestion	うっ血
symptom	症状
diagnosis	診断

Bランク

(その他)

carcinoma	癌(腫)
sarcoma	肉腫
adenoma	腺腫
papilloma	乳頭腫
squamous cell carcinoma	扁平上皮癌

<薬理学 Pharmacology>

Aランク

Drug, Medicine, medication	薬物
Pharmacy	薬局
Allergy	アレルギー

Bランク

Pharmacotherapy	薬物療法
bioavailability	生物学的利用能（バイオアベイラビリティ）
first pass effect	初回通過効果
side effect	副作用
drug dependence	薬物依存
drug tolerance	薬物耐性
drug hypersensitivity	薬物過敏症
drug interaction	薬物相互作用
oral administration	経口投与
intravenous injection	静脈内投与
dose	用量
blood-brain barrier	血液脳関門

<感染免疫学 Microbiology and Immunology>

Aランク

bacteria	細菌
fungus	真菌
virus	ウイルス
saliva	唾液
plaque	歯垢
bone marrow	骨髄
thymus	胸腺
immunity	免疫
infection	感染
microbiology	微生物学

Bランク

natural (innate) immunity	自然免疫
acquired immunity	獲得免疫
adaptive immunity	適応免疫
phagocytosis	貪食

<放射線学 Radiology>

Aランク

radioactivity	放射能
ionizing radiation	電離放射線
film processing	写真処理
speed	感度
summation effect	重積効果
tangential effect	接線効果

sialography	唾液腺造影法
arthrography	顎関節腔造影法
video fluorography	嚥下造影法
angiography	血管造影法

<臨床検査医学 Laboratory Medicine>

A ランク

clinic	臨床
clinical	臨床の
laboratory	検査室
medicine	医学
examination	検査(法)
blood pressure	血圧
erythrocyte, red blood cell: RBC	赤血球
leukocyte, white blood cell: WBC	白血球
platelet	血小板
plasma	血漿
serum	血清
anemia	貧血
HIV (human immunodeficiency virus)	HIV (ヒト免疫不全ウイルス)
AIDS (acquired immunodeficiency syndrome)	後天性免疫不全症候群
hypertension	高血圧
diabetes	糖尿病
hepatitis	肝炎

<歯科生体材料学 Dental Biomaterials>

A ランク

material	材料
resin	レジン
metal	金属(の)
ceramic	陶材(の)
amalgam	アマルガム

B ランク

acrylic resin	アクリルレジン
methyl methacrylate	メチルメタクリレート
elastic modulus (Young's modulus)	弾性係数 (ヤング率)
resilience (elastic energy)	レジリエンス (弾性エネルギー)
stress-strain curve	応力-ひずみ曲線
light cured composite resin	光重合型コンポジットレジン

chemical cured composite resin
hybrid layer
glass ionomer cement
amalgam alloy

化学重合型コンポジットレジン
樹脂含浸層
グラスアイオノマーセメント
アマルガム合金

<総合診療学 Oral Diagnostics>

Aランク

Diagnosis	診断
Oral	口腔の
Oral cavity	口腔

Bランク

Open-ended Question	開放型質問
Closed Question	閉鎖型質問
Neutral Question	中立型質
Focused Question	集中型質問
Repeat Question	繰り返しの質問
Multiple Choice Question	多選択肢の質問
Double Question	重複型質問
Leading Question	誘導型質問

<保存修復学 Operative Dentistry>

Aランク

caries cavity	齲窩
secondary caries	二次齲蝕
recurrent caries	再発齲蝕
dental caries	象牙質齲蝕
discolored dentin	着色象牙質
abrasion	摩耗症
attrition	咬耗症
erosion	酸蝕症
dentin hypersensitivity	象牙質知覚過敏
wedge shaped defect	くさび状欠損
spontaneous pain	自発痛
palpation	触診
percussion	打診
thermal test	温度診
transillumination test	透照診

< 歯内療法学 Endodontics >

Aランク

acute suppurative (serious) pulpitis	急性化膿性 (漿液性) 歯髄炎
pulpectomy	抜髄
necrosis	壊死
gangrene	壊疽
abscess	膿瘍
granuloma	肉芽
fistel	瘻孔
electric pulp test	歯髄電気診
thermal test	温度診
dull pain	鈍痛
sharp pain	鋭痛

< 歯周病学 Periodontology >

Aランク

gingivitis	歯肉炎
periodontitis	歯周炎
dental calculus, tartar	歯石
dental plaque	歯垢
periodontal tissue	歯周組織
gingiva	歯肉
gingival	歯肉 (の)
periodontal ligament	歯根膜、歯周靱帯
cementum	セメント質
alveolar bone	歯槽骨

Bランク

food impaction	食片圧入
plaque control record	PCR
bleeding on probing	BOP
mobility	動揺度
occlusal trauma	咬合性外傷
flap operation	FOP
guided tissue regeneration	GTR
supportive periodontal therapy	SPT
professional mechanical tooth cleaning	PMTC

<総義歯学 Complete Denture Prosthodontics>

Aランク

prosthodontics	補綴学
prosthesis	補綴物
edentulous	無歯顎
ridge	顎堤
complete dentures	全部床義歯（総義歯）
immediate dentures	即時義歯
preliminary impressions	予備印象
border mold	筋形成（辺縁形成）
final impressions	最終印象

Bランク

record bases	基礎床
occlusal rim	咬合（蟬）堤
mount	模型付着
set up	人工歯排列
tooth arrangement	人工歯排列
phonetics	構音（発音）
postpalatal seal area	後堤域
esthetic	審美
denture processing	重合
face-bow record	フェイスボウ
placement, delivery, insertion	装着
occlusal equilibration	咬合調整

<部分床義歯学 Removable Partial Prosthodontics>

Aランク

abutment	支台歯 アバットメント
appointment	予約
articulator	咬合器
artificial teeth	人工歯
attrition	咬耗
bruxism	歯ぎしり
case	症例, 患者
occlusion	咬合
prosthesis	義歯, 補綴
mucosal	粘膜の
removable	可撤性の
mastication	咀嚼

B ランク

flange	義歯床縁部
esthetics	美容的効果, 審美性
masseter muscle	咬筋
Evidence-Based Medicine (EBM)	科学的根拠に基づく医療
bruxist	歯軋り常習者

C ランク

free-end saddle partial denture	遊離端義歯
Problem-Oriented System (POS)	問題解決志向システムの医療
Problem-Oriented Medical Record (POMR)	問題志向型診療録
SOAP;	
Subject	患者の主観的情報, 自覚症状
Objective	歯科医師, 歯科衛生士が得た情報, 他覚症状
Assessment	歯科医師, 歯科衛生士の判断による評価
Plan	医療チームスタッフによる今後の治療方針

<クラウン&ブリッジ補綴学 Crown Bridge Prosthodontics>

A ランク

diagnosis	診断 (法) ; 診断結果
occlusion	咬合
articulator	咬合器
prosthodontic treatment	補綴治療
intercuspal position	咬頭嵌合位

B ランク

biologic width	生物学的幅径(上皮性付着から結合性付着までの幅)
provisional restoration	暫間被覆冠
ferrule effect	帯環効果(フェルールによってもたらされる効果)
core buildup	支台築造
soldering	ろう付け

<小児歯科学 Pedodontics>

A ランク

growth	成長
development	発達
tooth eruption	歯の萌出
primary teeth	乳歯
milk dentition	乳歯列
permanent dentition	永久歯列
infant	乳児
parent	両親

infectious disease	感染症
prevention	予防
<u>B ランク</u>	
prevention of dental caries	齲蝕予防
hereditary disease	遺伝性疾患
amelogenesis imperfecta	エナメル質形成不全症

<矯正歯科学 Orthodontics>

A ランク

orthodontics	矯正
malocclusion	不正交合
occlusion	咬合
impaction	埋伏
rotation	捻転
root resorption	歯根吸収
incisor	切歯・前歯
canine	犬歯
premolar	小臼歯
molar	大臼歯
appliance	装置
anchorage	固定
band	バンド・帯環

B ランク

crowding	叢生
open bite	開咬
deep bite	過蓋咬合
cross bite	交叉咬合
bimaxillary protrusion	上下顎前突
cleft palate	口蓋裂
finger (thumb) sucking	指しゃぶり・拇指吸引癖
tongue thrusting	舌突出癖
Lip sucking	吸唇癖
Lip biting	咬唇癖
Myofunctional therapy	筋機能療法
Nail biting	咬爪癖
Tongue biting	咬舌癖

<障害者歯科学 Dentistry for the Disabled>

Aランク

swallowing	嚥下
swallowing disorder	嚥下障害
aspiration	誤嚥
normalization	ノーマライゼーション
quality of Life (QOL)	クオリティ・オブ・ライフ
syndrome	症候群

Bランク

congenital abnormality	先天奇形
cerebrovascular disease	脳血管疾患
aspiration Pneumonia	誤嚥性肺炎
epiglottis	喉頭蓋
Bolus	食塊

<口腔外科学 Oral Surgery>

Aランク

surgery	外科
surgeon	外科医
cancer	癌
operation	手術
biopsy	生検
infiltration	浸潤
terminal care	ターミナルケア
fracture	骨折
tumor	腫瘍
lymph node	リンパ節
metastasis	転移
abscess	膿瘍
drainage	排膿
bleeding	出血
infection	感染
edema	浮腫
ulcer	潰瘍
erosion	びらん
patient	患者

Bランク

osteomyelitis	骨髓炎
pericoronitis	歯冠周囲炎

sinusitis	副鼻腔炎
chemotherapy	化学療法
radiotherapy	放射線療法
odontogenic	歯源性
neuralgia	神経痛

<麻酔学 Anesthesiology>

Aランク

anesthesia	麻酔
general anesthesia	全身麻酔
day care anesthesia	日帰り麻酔
local anesthesia	局所麻酔
psychosedation	精神鎮静法
analgesia	鎮痛
NSAID	解熱鎮痛薬
chain of survival	救急救命の連鎖（輪）
CPCR	心肺蘇生法
laughing gas	笑気
apnea	無呼吸

Bランク

difficult airway	気道確保困難
TIVA(total intravenous anesthesia)	全静脈麻酔
HVS (hyper ventilation syndrome)	過換気症候群

学生番号 _____ (院内番号) _____

氏 名 _____